

西亞ノルウアル紙幣ヲ偽造スル本法第一條ノ罪(大八二年一頁)
 橫濱正金銀行ノ銀行券ハ清國ニ於テ流通スルノミナラス關東州ニ於テモ亦流
 通ス關東州ハ租借地ナリ通常ノ外國ト同シカラスト雖モ前記法律ノ適用トシ
 テ該銀行券ハ外國ニ於テノミ流通スル銀行券ノ内ニ入ル又該銀行券發行ニ關
 スル明三九年第二四七號勅令第五條ニ所謂通用ハ清國及ヒ關東州ニ於ケル帝
 國官府又ハ日本人ノ銀貨取引ニ付キ通用力ヲ有スルノ謂ナリ

4 紙幣類似證券取締法(明三九年法第一號)

第一條 一樣ノ形式ヲ具ヘ個々ノ取引ニ基カスシテ金額ヲ定メ多數ニ發行ス
 ル證券ニシテ紙幣類似ノ作用ヲ爲スモノト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ其
 ノ發行及流通ヲ禁止スルコトヲ得
 前項ノ規定ハ一樣ノ價格ヲ表示シテ物品ノ給付ヲ約束スル證券ニ付之ヲ準
 用ス(第三條禁止違反ノ處分)
 (1) 右第一條第一項ニ所謂一樣ノ形式ニシテ若シ其形狀大小文字紋章等カ紙幣
 又ハ銀行券ヲ模擬シタルモノニ係ルトキハ紙幣又ハ銀行券ノ偽造ト爲ル可シ
 (2) 第二項ニ規定スル所ノモノハ時ニ商品切手ニ其例有リ

第十七章 文書偽造ノ罪

第一節 概論

客體 (1) 罪ノ客體ハ文書(圖畫亦同)ノ有スル特殊ノ證據力カ吾人ノ共同生存ニ
 與フル信用 (2) 行爲ノ客體ハ欽制文書、公文書、私文書等

文書ノ概念 文書ハ文字又ハ文字ニ代用セラル、符號ヲ以テ物體ノ上ニ定着
 シタル意思ノ表示ナリ(明四三年五七八頁)其象形ヲ用ヒテ爲シタルモノヲ圖畫ト謂フ (1)
 故ニ意思表示ニ非サル繪畫及ヒ詩歌ノ類ハ文書ニ非ス (1) 文字ニ代用セラル、
 符號ハ電信ノ符號及ヒ速記文字ノ類是ナリ (2) 發音ノミヲ鏤刻シテ說話談論ヲ
 保存スル蓄音器ハ今日未タ文書ノ觀念ニ入ラス (3) 結繩ハ結目ニ依テ額數ノミ
 ヲ示スニ止ラス表示ヲ伴フ様式ノモノハ後ニ掲クル略式文書ニ等シ (4) 字體及
 ヒ書體ノ如何ヲ分タスト雖モ文字ノ列ニ入ラサル純象形ノミヲ用フルモノハ圖
 畫ノ部類ナリ (5) 文字又ハ其代用符號ヲ定着スル方法並ニ其定着セラル、物品
 ノ如何モ亦之ヲ區別スルコト無シ故ニ通常ノ方法ニ依リ紙帛ノ上ニ記載シタル
 モノハ固ヨリ染織彫刻鑄造等ノ方法ニ依レルモノ特ニ不可動物ノ上ニ刻成シタ

ルモノモ亦文書タルヲ妨グス (5) 定着力ノ強固ナルコト及ヒ定着時ノ亘久ナルコトハ文書タルノ絕對觀念ニハ必要條件ニ非スト雖モ、偽造ノ客體トシテノ文書ニハ相當ノ保全力無カル可ラサルコト文書ノ種類汎論ニ述フル所ノ如シ (6) 數字ノミヲ記載シタル紙片、木札、姓名ノミヲ記載シタル名刺、門標ノ類ニシテ意思ノ表示ヲ伴ハサルモノ、文書ニ屬セサルコトハ猶ホ、 (3) ニ述ヘタル結繩ノ如シ然レトモ意思ヲ表示スル點ニ於テ文章ヲ省略シタルニ等シキ所謂略式文書ハ仍ホ文書ナリ、例 鐵道廳手荷物發送用ノ驛名札ハ第一五五條第三項ノ公文書(明四二年八七頁) 白紙委任狀ハ第一五九條第一項ノ私文書(明三六年三六五頁、明三九年一四二六頁) 電報賴信紙ハ第一五九條第一項ノ私文書(明四三年五〇七六頁、大) 銀行ノ支拂傳票同上(明四九年九頁、大三年) 印鑑ハ第一五九條第一項ノ私文書(大二年二六八頁、大一年三一九頁、大四年四八二頁) 生命保險申込書ノ被保人ノ署名、夫ノ許可ヲ表示スル署名(大四年二) (7) 草案ハ文書ニ非スト爲ス説有リ然レトモ未タ議決又ハ協商ヲ經サル際ニ腹案ヲ示ス種類ノモノハ文書タルヲ妨グス (8) 謄本ハ文書ニ非ス然レトモ其謄本ナル旨ヲ記述シタル意思表示ハ文書ナリ(大三年一八頁) (9) 文書ノ實質ハ意思表示ナルカ故ニ書面自體ニ於テ作成名義即チ何人ノ意思表示ナルカヲ識別シ得サルモノハ文書ニ非ス

(明四三年二、四六七頁)

第二節 文書ノ種類

汎論 公共ノ信用ヲ害シ又ハ脅スニ因テ成立スル罪少カラスト雖モ文書偽造ヲ以テ獨立ノ罪名ト爲スハ文書ニ他ノ物品ト異ル特殊ノ證據力有ルカ爲ナリ故ニ偽造罪ノ物體ト爲ル文書ハ證據タルノ效用有ル文書ナラサル可ラス (1) 物品ノ上ニ定着シタル意思表示力亘久ノモノタルコトヲ要スルヤ否ヤニ付キ議論岐ルト雖モ法律カ特殊ノ保護ヲ與フルハ他ノ物品ニ比シ文書ニ一層明白ナル且一層永續スル證據力有ルニ因ル人爲ニ依ラスシテ暫時ノ間ニ自然ニ消滅スル如キ方法ヲ用ヒタルモノハ文書トシテノ保護ヲ與フル價值無シ (2) 書家ノ揮毫畫家ノ丹青ヲ徑ニ指シテ文書ト言フ能ハサルノ理亦同シ書畫ニ添フル記述ニシテ意思表示ノ性質ヲ有シ且證據タルノ效用ヲ具フル部分ハ文書タルヲ妨グス(大二年四頁、同年一) (3) 證據タルノ效用ヲ具フル文書トハ何ソヤ證據ノ用ニ供スル目的ヲ以テ作成シタルコトヲ要スト爲ス主觀說ト偽造又ハ變造シタル文書ニ偶然ト必然トヲ分タス證據ト爲ル可キ體裁有ルヲ以テ足レリト爲ス客觀說ト有リ客觀說ヲ可トス

第一種 欽制文書 第一五四條

御璽國璽又ハ御名有ルヘキ詔書其他ノ文書是ナリ (1)御璽國璽御名ノ解第十
九章ニ載ス (2)其他ノ文書ハ左記公式令所載詔書勅書上諭ノ外御璽國璽ヲ鈐シ
又ハ親署ヲ經可キ欽制文書一切ヲ含ム宸翰亦爾リ但シ第一五四條ノ適用ヲ受ク
可キハ眞正又ハ虛偽ノ御璽國璽又ハ御名ノ存スルモノノミニ限ラル

公式令(明四〇年)第六號)拔抄

第一條 皇室ノ大事ヲ宣誥シ及大權ノ施行ニ關スル勅旨ヲ宣誥スルハ別段ノ
形式ニ依ルモノヲ除ク外詔書ヲ以テス

詔書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ大事ニ關スルモノニハ宮内大臣年
月日ヲ記入シ内閣總理大臣ト俱ニ之ニ副署ス其ノ大權ノ施行ニ關スルモノ
ニハ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署シ又ハ他ノ國務大臣ト俱ニ之ニ
副署ス

第二條 文書ニ由リ發スル勅旨ニシテ宣誥セサルモノハ別段ノ形式ニ依ルモ
ノヲ除ク外勅書ヲ以テス

勅書ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ其ノ皇室ノ事務ニ關スルモノニハ宮内大臣年

月日ヲ記入シ之ニ副署ス其ノ國務大臣ノ職務ニ關スルモノニハ内閣總理大
臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス

第三條 帝國憲法ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ(中略)親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ他ノ
國務各大臣ト俱ニ之ヲ副署ス

第四條 皇室典範ノ改正ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ(中略)親署ノ後御璽ヲ鈐シ宮内大臣年月日ヲ記入シ國務各大
臣ト俱ニ之ニ副署ス

第五條 皇室典範ニ基ツク諸規則宮内官制其ノ他皇室ノ事務ニ關シ勅定ヲ經
タル規程ニシテ發表ヲ要スルモノハ皇室令トシ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ(下略)

第六條 法律ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ(中略)親署ノ後御璽ヲ鈐シ(下略)

第七條 勅令ハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ(下略)

第八條 國際條約ヲ發表スルトキハ上諭ヲ附シテ之ヲ公布ス

前項ノ上諭ニハ(中略)親署ノ後御璽ヲ鈐シ(下略)

第十三條 國書其ノ他外交上ノ親書條約批准書全權委任狀外國派遣吏委任狀

名譽領事委任狀及外國領事認可狀ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐シ主務ノ國務大臣

之ニ副書ス外務大臣ニ授クル全權委任狀ニハ内閣總理大臣之ニ副署ス

第十四條 親任式ヲ以テ任スル官ノ官記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大

臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シテ之

ニ副署ス(第二項略)

前二項ニ依ルモノノ外勅任官ノ官記ニハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ

記入シ之ヲ奉ス宮内官ニ付テハ宮内大臣年月日ヲ記入シ之ヲ奉ス(第四項略)

第十五條 親任式ヲ以テ任シタル官ヲ免スルノ辭令書ニハ御璽ヲ鈐シ(下略第

二項以下略)

第十六條 爵記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ(下略)

第十七條 一位ノ位記ニハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ(中略)二位以下四位以上ノ位記

ニハ御璽ヲ鈐シ(中略)五位以下ノ位記ニハ宮内省ノ印ヲ鈐シ(下略)

第十九條 勳三等功五級以上ノ勳記ニハ親署ノ後國璽ヲ鈐シ勳四等功六級以

下ノ勳記ニハ國璽ヲ鈐シ内閣總理大臣旨ヲ奉シ賞勳局總裁ヲシテ年月日ヲ

記入シ之ニ署名セシム(第二項略)

内大臣府官制(明四〇年皇令第四號)

第一條 内大臣府ニ於テハ御璽國璽ヲ尙藏シ及詔書勅書其他ノ内廷ノ文書ニ

關スル事務ヲ掌ル

第二種 公文書 第一五五條

公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書是ナリ(圖畫亦同)判例ニ於テ此ニ屬スト認メ

タル物下ノ如シ (1)鐵道廳手荷物發送用驛名札(明四二年) (2)國稅納付又ハ建物

所有ニ關スル區長ノ證明書(明四三年) 町村長名義ノ納稅證明書(明四四年) 村

稅調定簿(明四三年) 町村稅等滯納處分ノ際入札ノ結果ヲ明ニスル爲メノ開札

調書(明四三年) (3)市町村長區長ノ印鑑證明書(明四三年) (4)水利組合ノ作ルヘキ雜部金整理簿歲入出日計簿支出命令書(明四三年) (5)舊

藩時代ノ庄屋(明四三年)名主後見(明四四年)ハ當時ノ制度上行政官ニ屬スルカ故ニ

其作成スヘキ文書ハ公文書 (6)局名年月日ノ空白ニ數字ヲ填充シテ使用スル郵

便物受附證明書(明四三年八六二頁) (7) 警察署名義ノ電報賴信書(明四三年三九三頁) (8) 巡査 其職務内ニ於テ作成スヘキ文書 (9) 輻重大隊名義ノ鐵道乘車證(明四五年四三三頁) (1) 法令ニ明示セラレスト雖モ内規慣例ニ因ル權限ヲ以テ作成スヘキ文書

○比第六節罪狀其二併合罪關係

右ハ偽造行為ノ客體ト爲ル公文書ナリ變造行為ハ公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖書(條第一五五項)或ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖書(條第一五五項)ヲ以テ其客體トス

問題

(1) 物品購入又ハ仕事請負ノ如キ私法關係ヲ以テ内容ト爲スモノハ公文書ト爲ルコトヲ得ルカ其公務員ノ作ル可キモノ及ヒ作リタルモノ(變造ノ場合)ハ爾リ(明三八年一七頁)私人ノ作成シタルモノニ公務所又ハ公務員ノ與書ヲ與ヘタルモノハ其全體カ公文書ナリヤ、積極(明三〇年一卷七頁) (3) 私信ヲ記載スル電報送達紙ハ公文書ナリヤ、積極(明三五年二卷一三三頁) (4) 外國ノ公務署又ハ公務員ノ作ルヘキ文書圖書ヲ含ムヤ消極

第三種 權利義務公正證書原本 第一五七條第一項

權利義務ニ關スル公正證書ノ原本即チ公務員カ其職務ヲ以テ利害關係人ノ爲

メ某事實ノ存在ヲ證明スル文書(明四三年八九九頁)例 戶籍簿不動産登記簿特許原簿土地臺帳醫籍ノ類是ナリ謄本正本抄本ヲ含マス (1) 必スシモ財産上ノ權義關係ノ

チノニ限ラス(大四年五五八頁) (2) 亦公證人ノ作ル可キ公正證書ニ限ルコト無シ (3) 電話加入申込原簿ハ通信行政事務ノ便益ニ存シ權利ノ得喪變更等ノ證明ヲ目的ト

スルモノニ非サレハ第一五七條ニ該當セスト云フ判例(大四年五五八頁)有リ (4) 區裁判所ノ支拂命令ハ第一五五條ニ屬シ第一五七條ニ屬セス(大一年七二六頁)

土地臺帳ニ關聯シ一ノ詳細ナル判例アリ曰ク刑第一五七條第一項權利義務ニ關スル公正證書トハ公務員カ其職務上作成スル文書ニシテ權利義務ニ關スル或ル事實ヲ證明スル效力ヲ有スルモノヲ謂フ公務員ニ於テ申立ニ基キ其内容如何ヲ審査スルコトナク記載スルモノニ係ルト若クハ其内容ヲ審査シ之ヲ取舍選擇シテ記載スルモノニ係ルト又其文書作成ノ直接ノ目的カ特ニ私法上ノ權利義務ヲ證明スルニ在ルト收稅其他ノ用ニ供スルニ在ルトハ之ヲ問フヲ要セス從テ土地臺帳ノ如キハ該條項ニ所謂公正證書ナリ(大一年八二八頁)

比較

1 著作權法明三二年法第三九號

第四二條 虚偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

2 船舶法、明三二年法第四六號

第二四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登録ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

3 娼妓取締規則、明三三年内令第四四號、大正元改

第十三條 左ノ事項ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

ス

一 虚偽ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登録ヲ申請セシメタル者

第十三條ノ二 左ノ事項ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 虚偽ノ事項ヲ具シ娼妓名簿登録ヲ申請シタル者

4 戶籍法、大三年法第二六號

第一八〇條 戶籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル

事項ニ付キ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者亦同シ

第四種 免狀、鑑札、旅券 第一五七條第二項

(一) 免狀 トハ特定人ニ特定ノ權能ヲ付與スル爲メ公務員ノ作ル可キ證書ヲ謂フ

(1) 行政法規ニ於テ或ハ免許ト曰ヒ(明三九年法第七六號、獸醫免狀規則、明三三年勅令第三四號、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第三四號、教員免許令、明四三年法第五八號、等)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第五條、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第三四號、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第五條、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第三四號、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第五條、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第三四號、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第五條、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第三四號、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第五條、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第三四號、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

法第五條、大三年法第一四號、賣藥法第五八號、漁業)或ハ許可ト曰ヒ(國ノ益ニ關スル社

スルモノ(例賣藥營業免許證)有ル所以ナリ (2)之ヲ稼業又ハ營業ノ許可證ト解スル學者ハ果シテ特許鑑札ヲ獲タル煙癮者(第三條)阿片ヲ吸食スル行爲又ハ共用給水使用鑑札(旅大共用)ヲ以テ日常ノ用水ヲ汲取ル行爲ヲ指シテ稼業營業ナリト言フ勇氣有リヤ (3)御門鑑札ニ至リテハ其稼業營業許可證ニ非サルコト何ノ疑ヲ容レヌ

(三)旅券 ハ旅行ノ免許證ナリ (1)外國ニ旅行スル者ニ下付スル旅券(明四一年券規外國)ヲ謂フト解スル說多シト雖モ (2)假出獄人ニ下付スル十日以上ノ旅行許可證(明四一年司令第二五條)ハ免狀カ旅券カト言ハハ寧ロ旅券ニ屬ス可シ

第五種 私文書 第一五九條

詳クハ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ト言フ

(一)權利義務證明ニ關スル文書 トハ權利義務ノ發生、存續、變更、移轉、消滅又ハ其内容、範圍、態樣ヲ證明スルニ足ルヘキ體裁アル文書ニシテ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ種類ニ屬セサルモノヲ謂フ(明一四一三一年頁) (1)金子借用證書、不動産貸借又ハ賣渡證ノ如キ最モ普通ナルモノハ固ヨリ (2)商第二一四條ニ基ク株式會社監査役ノ報告書及ヒ同第一七一條ニ基ク總會ノ決議錄(明一四一五年頁) (3)賣藥ノ能書(明

三二年一〇) (4)電話加入申込書、電話設置承諾書(明四五年頁) (5)年金受領者ノ居所届

(七九二頁) (6)人格ヲ有セサル教會ノ世話掛囑託書(大五〇五年頁)ノ類ヲモ包ミ (7)必

スシモ財産權即チ物權又ハ債權ニ關スルモノニ限ラレス(大五四年頁) (8)身分權ニ

關スル養子縁組届書(明四二年頁) 後見人、後見監督選定ノ親族會議書(明一三七年頁)ノ

類ヲモ含ミ (9)公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ範圍ニ屬セサルモノハ公法上ノ權

利、義務ニ關スル證書亦同シ

(二)事實證明ニ關スル文書 トハ其事實ノ存在、不存在、内容、範圍又ハ態樣ヲ證明

スルニ足ルヘキ體裁アル私文書ヲ謂フ (1)必スシモ法律事項即チ權利義務ニ關

スル事實ヲ證明スルモノニ限ラレス(大九二年九四三頁) (2)例ヘハ轉居ノ事實ヲ證

明スヘキ轉居届(明一七四四年頁) 廣告申込ノ事實ヲ證明スヘキ廣告依頼書(明四五年頁)

ノ類ヲ初メ (3)電報頼信書(明一四三年七六頁、大元五年二) (4)印鑑(大二年二頁、大三年

二六三八頁、大一) 注意、印鑑證明書ハ公文書 (5)多額納稅議員選舉委任狀(明四五年頁)注

意、代理選舉無效 (6)衆議院議員候補者推薦狀(大六七年一) 同推薦會案内狀(大九年三

頁) (7)銀行ノ出金票即チ支拂傳票、署名ヲ要セサルカ故ニ第一五九條第三項(明四年

一九九頁、大三)等皆是ナリ (8)範書亦爾リ(法一四二) (9)法律上ノ重要ナル特定

ノ係争事實ニ關スルモノニ限ルノ說ハ余其根據ヲ詳ニセス

第六種 診斷書、檢案書、死亡證書 第一六〇條

(一) 診斷書 ハ診察判斷書ノ省文即チ自己ノ調査シタル生體ノ疾病、創傷、健康状態又ハ體格ニ對シ自己ノ下シタル判定ヲ記載スル文書是ナリ、如此性質ヲ有スルトキハ當該公務員ノ命令ニ因リテ作成シタル鑑定書ト名クルモノモ亦診斷書ナリ(明四三年五一八頁) 然レトモ醫師カ傳染病患者ヲ珍斷シタルコトノ届書ハ診斷書ニ非スシテ傳豫法第三條ノ範圍ニ屬ス(大六一年一八三頁)

(二) 檢案書 ハ生體檢案書ト死體檢案書トノ別有リ省令(明三三四年內令第四一號第一號)ニ死體檢案書ト明言スル例有ルト刑法ニ汎ク檢案書ト言フトニ因リ生體檢案書ヲモ包括スルノ觀有リト雖モ、醫師法第五條、同施行規則第九條、傳染病豫防法第三條等ノ文例ヨリ推ストキハ刑法ハ專ラ死體檢案書ノミヲ指シサ言フニ似タリ、曩ニ自己カ診斷シタルコト無キ死體ヲ實驗シ其死種(病死死因(病名)手)死期、死所等ヲ記載スル文書之ニ該當ス、保險診査醫ノ診査報告書ヲ醫師法第五條ノ檢案書ニ非ス診斷書ナリト云ヘル判例(大三一年一頁)亦恐ク同一理由ニ基ク可シ

(三) 死亡證書 ハ前記法令ニ所謂死亡診斷書ニ相當シ曩ニ自己カ診斷シタル者ノ死體ニ付キ其死種、死因、死期、死所等ヲ記載證明スル文書ヲ指シテ言フ

(四) 死産證書、死胎檢案書 ハ右二及ヒ三ニ掲クル區別ニ從ヒ檢案書又ハ死亡證書ノ内ニ列ス可キニ似タリ

第七種 刑法外特別文書

例 (1) 法人ノ財産目錄、社員名簿(民第八條) (2) 船中備付書類、船長ノ證明書(船員法第九條、第五條) (3) 株式申込證、社債申込證、株券、債券(商第六、八、九條) (4) 保險入社申込證、社員名簿等(保第九條)

第三節 行爲

偽造、變造、行使是ナリ (1) 文書偽造トハ真正ナル文書ノ體裁ヲ模擬シタル文書ヲ新ニ作成スルヲ謂ヒ (2) 變造トハ真正ナル既存文書ニ加工(増減)ヲ施シ其效力(證明力)ヲ變更スルヲ謂フ尙左記其一ヲ比較ス可シ (3) 行使ハ證據ノ用ニ供スルノ謂

其一 偽造、變造ノ區別

偽造ハ不實ノ文書ヲ新ニ作成スルニ因テ成立シ變造ハ真正ナル既存文書ニ加工ヲ施スニ因テ成立ス是兩者區別ノ根本義ナリ但シ辨濟其他ニ因リ無効ト成レ

ル反古ニ加工シ効力有ルカ如ク裝フハ偽造ニシテ真正ナル既存文書ニ加工シ其効力(證明力)ヲ變更スルニ止マルハ變造ナリト雖モ、因テ性質ヲ變シ、別個ノ文書(新ナル證明力)ヲ具有スル異種又ハ同種ノ文書ヲ成立セシムルニ至ルトキハ偽造ナリトスルヲ普通ノ解釋トス左記判例亦爾リ然レトモ理論上正確ニ之ヲ分ツコト殆ト不可能ナルト之ヲ分テ實際上何等ノ利益有ラサルトニ因リ立法論トシテハ斯ル區別ヲ廢スルヲ可トス

I 變造ナリト認メラレタル例

- 1 債務證書ノ一部ヲ切取リ預金證書ヲ作成スルハ證書毀棄ニ非ス變造(明三四年六卷三九頁)
- 2 既存證書ノ一部ヲ切取リ殘部ヲ自己ニ利用スル行爲○甲乙兩名宛ノ地所賣渡約定書ノ乙名宛ヲ切取リ甲一名宛ニ變シタル事件(明三九年一)
- 3 署名者有ル既存文書ニ變更ヲ加フルハ變造○國庫假債券ノ裏面ノ記名ノミヲ變更シタル事件(明三九年一四〇頁)
- 4 借用證書ノ金額ノ傍ニ別個ノ金額ヲ記入スルハ單ニ其金額ヲ増加シタルニ等シク偽造ニ非ス變造(明四四年一) 同趣旨(明二七年三六四頁)

5 時効ニ因リ消滅シタル債務ノ證書ハ全然無効ノモノニ非ス其一部ヲ改描シタルハ變造○明治三十二年ノ二ヲ五ニ改メタル事件(明三五年二三四頁)

II 變造ニ似テ其實偽造ナリト認メラレタル例

既存文書ヲ増減變更スル行爲ニシテ變造ト爲ラス偽造ト爲ルハ之ヲ大別シテ甲、反古即チ無効ナル既存文書ニ加功シ形式上有效ナルカ如ク裝フ場合ト 乙、有效ナル既存文書ニ加功シ別個ノ効力ヲ有スル形式ヲ作ル場合トノ二種ト爲スコトヲ得

甲種

- 1 自己ノ手ニ存ル無効證書ヲ改描行使スルハ偽造(明二八年七月八日、同年九月六日、明三二年六月卷五一頁)
- 2 支拂ニ因リ効力ヲ失ヒタル手形面(有價證券)ノ支拂期日明治三十二年ヲ三十三年ト改描シタル事件(明三五年六卷四二頁)
- 3 拂出ニ因リ反古トナレル預金通帳(私文書)ヲ改描シ新ナル證明力ヲ具有スルモノト爲シタル事件(明四〇年九卷六七頁)
- 4 效用ヲ失ヒタル畜牛健康證(公文書)ヲ別個ノ畜牛健康證ニ改造シタル事件(明四年五二頁)

5 廢物ニ歸シタル蠶種臺紙(公文書ヲ利用シ之ニ他ノ蠶卵ヲ附着行使シタル事件
(明四一年七三頁)

6 無効ニ歸シタル他人名義委任狀ノ委任文句ヲ變更シテ變更前ノ委任狀ト別個
獨立ノモノト爲シ又ハ他人名義ノ白紙委任狀ヲ擅ニ委任ノ趣旨ニ反スル事項
ヲ記入シ因テ委任狀ヲ完成スル如キハ第一五九條第二項ノ變造ニ非ス同第一
項ノ偽造(大一年一五頁)

7 期限經過シテ無効トナレル定期鐵道乘車券ノ日附ヲ改描シ有效ナルモノ、如
ク作成スルハ鐵營法第二九條第一項ニ該當セス又刑第一六二條有價證券ノ變
造ニ非ス其偽造(大二年一九頁)

乙種

1 米一俵ノ借用證書ヲ作成スルニ當リ米額及ヒ保證人ノ個所ニ貼紙ヲ爲シ置キ
後ニ之ヲ剝キ取リ米額ヲ増加シ保證人ヲ連借人ト改メタル事件(明三五年二
2 既存十圓ノ受取證ニ六ノ字ヲ添増シ日附ヲ改メ別途借用金ノ利息受取證ニ改
造シタル事件(明三八年二九頁)

3 外國旅行券第一五七條第二項ノ被下付人ノ氏名及ヒ渡航國ヲ書キ改メタル事

件(大四年二頁)

4 土地建物ノ賃貸借契約書ニ存スル賃貸人ノ署名印章ヲ不正ニ使用シ其餘白ニ
賣渡豫約ノ文言ヲ記入シタル事件(大九年八頁)

5 印章ノ押捺ノアラサル印鑑證明書ニ先ツ村長ノ證明書ヲ貰受ケ後ニ至リ村長
ニ口頭ヲ以テ告ケタル所ト全ク異ル印章ヲ押捺スルハ第一五五條第二項ノ公
文書變造ニ非ス同第一項ノ偽造(大一年三九頁)

其二 偽造變造ニ對スル擬律

偽造ト變造トハ文書ノ種類ニシテ同一ナルトキハ其罪質モ亦同一ナルカ故ニ
偽造ニ對シテ變造ヲ規定シタル項ヲ舉ケ變造ニ對シテ偽造ヲ規定シタル項ヲ揭
クルモ其法條ニ誤リナキニ於テハ之ヲ以テ上告破毀ノ理由ト爲スコトヲ得ス
(明四年一八四頁同二〇七六頁)

其三 有形偽造ト無形偽造 形式偽造ト實質偽造

有形偽造トハ自己以外ノ名義ヲ使用シ違法ニ文書ヲ作成スルヲ謂フ即チ文書
ノ作成名義者ノ虛構ナリ但シ其名義人ノ作成シタル真正ノ文書アリテ之ヲ模造
覆製スルコトヲ必要トスルニハ非ス(大一年六八六頁)無形偽造トハ作成名義者ニ於テ不

實ノ内容ヲ有スル文書ヲ作成スルヲ謂フ即チ名義者ニ於テスル内容ノ不實ナル
 文書ノ作成ナリ有形偽造ニ在リテハ作成名義者カ作成シタルニ非ス文書自體虛
 偽ナルニ因リ亦之ヲ名ケテ形式偽造ト曰フ無形偽造ニ在リテハ作成名義者ノ作
 成シタル所ニ係リ止タ文書ノ内容ノミ虛偽ナルニ因リ亦之ヲ名ケテ實質偽造ト
 曰フ有形偽造ト形式偽造無形偽造ト實質偽造トハ差違有リトスル説有リト雖モ
 之ヲ區別スル實益ヲ見ス右ノ理論ハ之ヲ變造ニ應用スルコトヲ得左ニ述フル所
 亦同シ

有形偽造變造ハ第一五四條第一五五條第一五九條ニ於テ之ヲ罪トシ無形偽造
 變造ハ第一五六條第一五七條第一六〇條ニ於テ之ヲ罪トス第一五九條第三項ノ
 内ニ無形偽造變造ヲモ併セテ含ムヤ否ヤノ問題及ヒ特別法ノ專條ハ別ニ之ヲ論
 ス

I 有形偽造

自己以外ノ名義ヲ冒用スルニ因テ成立ス五個ノ問題アリ

第一問 名義ヲ使用セラレタル公務所公務員又ハ個人(法人ヲ含ム)ハ實在スル
 コトヲ要スルカ虛無架空ノ假設ニテモ仍ホ罪ト爲ルカ學說岐ル之ヲ判例ニ徵ス
 ルニ

無條件否定

1 虛無人ノ名義ヲ以テ私書ヲ偽造スルモ法律上罪ト爲ラス○小切手ニ假設ノ人
 名ヲ記載シタル事件(明三〇年九卷八二頁)

2 會社ノ創立委員長タル資格カ會社ノ成立ニ因リ消滅シタル後其以後ノ日附ヲ
 以テ仍ホ創立委員長ノ名義ヲ用ヒ文書ヲ作成スルモ實在セサル人ノ名義ヲ冒
 用シタルモノニシテ文書偽造罪ヲ構成セス(明四三年二〇二五頁)

3 第一五九條ノ罪ノ成立スルニハ名義ヲ冒用セラレタルモノカ現實存在スルコ
 トヲ要ス(大元七年七頁)

條件附肯定

1 苟モ實在セル他人ノ氏名ヲ冒用シ文書ヲ作成シタル以上ハ其検査役タル資格
 虛無タルト否トヲ分タス文書偽造罪ヲ構成ス(大六年八七〇頁)

2 偽造文書ノ日附當時其名義人カ當該公務員タル資格アリシヤ否ヤハ問フ所ニ
 非ス(大八年三〇九頁)

3 苟モ實在セル他人ノ署名ヲ使用シタル事實明ナルニ於テハ其氏名ヲ判示スル
 コトヲ要セス何トナレハ氏名ノ判示ヲ缺クモ私文書偽造ノ成立ニ影響ナケレ

- ハナリ(明一四二二年) 同趣旨(大七元年)
- 4 死者名義ノ文書(印章署名亦同シ)ハ生存中ノ日附ヲ以テスレハ偽造罪ヲ構成ス
(明二九一年一七卷七頁、明三〇〇年一七卷七二頁、明三六一年一七卷七五頁、同四八五頁、明四二二年九五〇頁、同一七卷七一頁、明四三六一年一七卷七五頁、同)
- 5 虚偽ノ名義ヲ以テ小切手ヲ振出シタル場合ト雖モ名宛人タル銀行ニシテ現存スル以上ハ小切手ノ偽造行使(明三〇二年四卷五〇頁)
- 6 東亞同文會並ニ其編纂局ハ法人ニ非スト雖モ其編纂局主幹者タル名義ノ冒用ハ即チ編纂局員總代ノ名義ノ冒用ニシテ他人ノ作成名義ヲ詐リタルモノニ外ナラス(明三四四年八三三頁)
- 7 眞言宗大師教會ハ人格ヲ有セスト雖モ其世話掛ヲ囑託スル辭令書ハ教會ノ或ル事務ヲ處理スル權限ヲ與フル文書ナルカ故ニ之ヲ偽造スルハ權利關係ヲ證明スル私文書ノ偽造ナリ(大二年五〇五頁)
- 8 某會社ノ一部局ニ屬シ人格ヲ有セサル某工場等ノ名義ト雖モ取引關係ニ於テ獨立ノ人格者同様ニ取扱ハル、モノハ第一五九條等ニ所謂他人ノ署名ナリ(大七五年八六頁五)
- 9 青年團ハ人格ヲ有セスト雖モ人格ヲ有スル特定人ヲ包括的ニ指稱スルモノナ

ルカ故ニ其署名ヲ冒用シ文書ヲ作成スルハ偽造ナリ(大八八年一三三八頁)

無條件肯定

- 1 疾病證書、歸省願書等ニ掲クル醫師及ヒ親族ノ氏名カ縱令想像假設ニ係ルモ眞實ニ其醫師及ヒ親族有ルカ如クニ虚構シテ證書ヲ作成スルハ偽造ナリ(明二四年四卷七〇頁)
- 2 虚無ノ人名ヲ假設シ連借人ト詐リ金圓ヲ騙取スルハ負債主ノ資格ヲ詐ルモノニシラ文書偽造詐欺取財ナリ(明二六年四月五日)
- 3 虚偽ノ名義ヲ以テ偽造シタル手形ニ詐欺ノ裏書ヲ爲スハ偽造ノ所爲中ニ包含ス(明一八年一六頁)
- 4 公文書偽造罪ノ成立スルニハ文書ノ形式又ハ内容ヲ偽ハリタル所爲カ一般人ヲシテ公務所又ハ公務員ノ權限内ニ於テ作成シタル文書ナリト信セシムル程度ニ於テ其形式外觀ヲ具有シ公文書ノ信用ヲ害スヘキ危險有ルヲ以テ足り其文書ノ日附當時之ニ署名セル公務員生存シタルヤ否ヤハ同罪ノ成立要件ニ非ス○天保七年極月、同十四年極月、文久三年極月、附庄屋某ノ署名セル質山證文ノ偽造事件(大元年一四頁)

ト曰ヒ其理論一貫セス元來有形偽造ヲ罪トスルハ其作成名義者真正ニ非サルノ故ニ因リ文書自體ノ有スル特殊ノ信用ヲ害スルカ爲メニシテ名義者カ實害又ハ實害ノ危險ヲ被ルカ爲ニ非ス之ヲ實在者ノ氏名冒用又ハ生前若クハ資格消滅以前ノ日附冒用ニ限リ有罪ト認ムルハ形式保障主義ノ法律ヲ解スルニ強テ實質保障主義ノ理論ヲ以テスルモノノミ前掲無條件肯定ノ理論ヲ貫徹シ名義人ノ實在スルコトヲ要セスト解セサル可ラス

論者曰ク有形偽造ハ自己以外ニ人格者有ルコトヲ要ス虛無ノ名義ヲ使用スルハ自己以外ノ人格者ヲ冒用セサルカ故ニ偽造罪ニ非スト然レトモ (1)之有ルコトヲ要スルヤ否ヤカ即チ問題タリ (2)之有ルコトヲ要スト曰フハ論者ノ獨斷ノミ (3)人格者有リテ其意思表示ヲ虛構スルト人格者ノ存在其モノヲ虛構スルト文書ノ真正ヲ害スルハ一ナリ (4)論者ハ刑第一五五條第一五九條等ヲ以テ形式主義ヲ採用スト爲スヤ實質主義ヲ採用スト爲スヤ

以上論スル所ト似テ非ナルハ既ニ設立ノ登記ヲ經テ而モ末タ設立無効ノ判決ノ登記ヲ經サル株式會社ノ名義ヲ冒用シ文書ヲ偽造スル場合はナリ蓋シ株式會社ハ縱令其設立カ實質上無効ナルモノト雖モ正規ノ設立登記ヲ經タル以上其設

立無効ノ判決確定シ之カ登記ヲ經サル限ハ形式上存在ス(商第九九條五)ルカ故ニ其名義ヲ冒用シテ文書ヲ作成スルハ實在スル人格ノ作成名義ヲ虛權スル有形ノ偽造ナリ(大六八年一〇六三頁)

第二問 類似ノ名稱商號雅號通稱略稱ノ類ヲ用ヒ又ハ名稱節略ノ手段ヲ用フルハ偽造ト爲ルヤ純形式說ヲ是認スレハ其偽造ト爲ルコト言フヲ待タス判例ハ名義者實在シ之ヲ判知シ得ル範圍ニ限リ左記各項ヲ積極ニ斷定ス

1 特定人ノ本名ヲ避ケテ用ヒタル類似ノ名稱(明三三八年七三三頁)
 2 本人ヲ推知シ得ル程度ニ於テ多少相違有ル氏名(明三三九年二六二頁) 官署ニ付キ同趣旨(明三三八年二一七頁)

3 名稱ヲ顯示セスト雖モ書面全部ヨリ作成者ヲ判知シ得ルモノ〇銀行支店宛偽造通知狀ノ件(明四三年二二六七頁)

4 商號通稱自筆代筆印刷(明四三年四一六頁、明四五年二二八五七頁)

5 氏又ハ名ノ一方(明四五年九四六頁)

6 法人ノ名稱(明四五年一五四頁、明四五年九三六頁)

7 誤記タルコト明ナル署名(大元九年二七〇頁)

8 落款ニ用フル雅號(大二年一頁)落款偽造、繪畫贋造ニ關スル著名ノ事件(大六五年一頁)
9 天草銀行ヲ略シタルアマノ二字(大三年一頁) 同趣旨(大四年一頁)

第三問 代理資格ヲ冒用シテ文書ヲ作成スルハ偽造罪ナリヤ、本人ノ名義ヲ冒用シ不實ノ委任狀ヲ作成シタル場合ノ第一五九條第一項ニ該當スルハ論ヲ待タス反此誰某ノ委任ヲ受ケタル旨ヲ自身記載スル場合ハ第一五九條第三項ニ問擬ス可キニ似タリ無形偽造ノ申第二問題參照

反之代理人タル資格ヲ有スル者カ其權限内ニ於テ本人ノ署名印章ヲ使用スルモ斯ル行爲ハ自己ノ名義ヲ署シ其誰某ノ代理タルコトヲ記入スルノ勞ヲ省ク便宜ノ處置ニシテ敢テ偽造罪トナスコトヲ得ス(明四四年一頁)

第四問 會社ノ取締役カ會社名義ヲ冒用シテ其權限外ノ事項ヲ記載シ又ハ文書ヲ作成スルハ第一五九條第一項ノ罪ト爲ルカ、積極(舊刑例第二一〇條第一項ニ同二〇二七頁、大三年二四三〇頁、同二四三二頁、大六年一五六〇三頁、同二六〇六頁、大七年一三九二頁、同三〇三頁) 會社ノ支配人ニ關スル同趣旨ノ例(大一年一頁) 比較左例
銀行ノ使用人カ承諾ノ範圍外ニ於テ取締役又ハ支配人ノ名義ヲ用ヒ文書ヲ作成スル亦同シ(大一年一頁)

第五問 名義人ノ承諾ヲ豫期シ得ヘキ場合如何 苟モ他人ノ承諾ヲ經スシテ其署名ヲ冒用シ文書ヲ作成スルニ於テハ爾後承諾ヲ豫期シ得ヘキ場合ト雖モ直ニ文書偽造罪ヲ構成ス(明四三年二八三頁) 妻ノ兄ノ名義ヲ冒用シ貸金契約書ヲ作成シテ之ヲ代人ニ交付シタル事件ニ付キ同趣旨(大八年一頁) 但シ當事者ノ關係上事務管理ト爲ル場合ヲ除クヘキハ勿論ナリ

II 無形偽造 作成名義者正ニ其文書ヲ作成シタリト雖モ内容ノ不實ナルニテ成立ス、直接無形偽造ト間接無形偽造トノ別アリ

甲 直接無形偽造 トハ作成名義者自身ニ於テ内容ノ不實ナル文書ヲ作成スルヲ謂フ公務員ノ行爲ニ係ル職務關係文書(圖)ノ直接無形偽造ニ付テハ第一五六條(本章第五節第二種丁) 醫師ノ行爲ニ係ル診斷書等ノ直接無形偽造ニ付テハ第一六〇條(本章第五節第四種)ニ專條有リ、左記特別法ニ亦特殊ノ直接無形偽造ノ規定ヲ存ス

- 1 民法 第八四條二
- 2 商法 第二六二條ノ二ノ二、六、八
- 3 船員法 第四九條、第五九條

4 電信法 第三三條

5 保險業法 第九九條三、四、同法施行第五〇條一

第一問 權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書(第九條一五)ノ直接無形偽造ハ罪ト爲ルカ換言スレハ自己ノ名義ヲ以テ内容ノ不實ナル此種文書ヲ作成スルハ刑法上偽造罪ヲ構成スルカ前段所掲刑法及ヒ特別法ニ專條有ラサルヲ以テ罪ト爲ラスト解スルヲ通説トス然レトモ自己ノ名義ヲ以テ作成スル所ト雖モ之ヲ以テ自己又ハ他人ノ權利義務又ハ事實ヲ證明スルニ足ル文書ニ内容ノ不實ナル記載ヲ爲スカ如キハ文書ノ信用ヲ保障スル必要上之ヲ罪トシテ罰セサル可ラス但シ他人ノ作成名義(他人ノ印章署名等)用ヒス自己ノ作成名義ヲ用ヒテ犯スモノナルカ故ニ第一五九條第一項(變造ハ)ニ據ラス同條第三項ニ據リテ罰ス可キニ似タリ第三項ハ汎ク前二項ノ外云云ト規定スルカ故ニ他人ノ印章署名ヲ有セサル他人名義ノ偽造ノ外自己ノ作成名義ヲ有スル偽造ヲモ併セテ之ヲ包括スト解スルニ何等ノ支障無シ反對ノ判例左ノ如シ

1 後見人カ被後見人(親權者ト未成年者ノ關係亦同シ)ノ爲ニ作成スル財産其他ニ關スル文書ハ被後見人ノ文書ニシテ後見人ノ文書ニ非サルカ故ニ之ニ虛偽ノ

記載ヲ爲スハ文書偽造ナリト雖モ此ニ反シテ被後見人ノ財産ニ付キ管理ノ計算ヲ爲ス場合ニ於テ作成スル文書ハ後見人カ其資格ヲ以テ自己ノ事務ヲ報告スル爲ニ作成スルモノナルカ故ニ後見人自身ノ文書ニ外ナラス故ニ其内容不實ナリトスルモ文書偽造ヲ以テ論スヘキニ非ス(明四四年九七八頁)

2 店員カ自己ノ名ヲ以テ店主ニ物品ノ在高ヲ報告スル文書ニ不實ノ記載ヲ爲ス亦同シ(明四五年九九二頁)

3 會社ノ取締役カ自己又ハ第三者ノ利益ノ爲ニ會社名義ヲ冒用シ其權限外ニ於テ不實ノ文書ヲ作成スルハ文書偽造ナリ(明四二年一七七五頁)ト雖モ專ラ會社ノ利益ノ爲ニ會社名義ノ文書ヲ作成スルハ其權限ニ屬スルカ故ニ縱令其内容不實ナリトスルモ恰モ個人カ自己ノ名義ヲ以テ内容不實ノ文書ヲ作成スルニ均シク作成名義ヲ詐ラサルカ故ニ文書偽造ニ非ス(大八年八五六頁)

第二問 誰某ノ代理人ナル旨ヲ自身附記シ其資格ヲ冒用シテ不實ノ文書ヲ作成スルハ偽造罪ト爲ルカ之ヲ判例ニ徵スルニ

1 他人ノ代理資格ヲ詐リテ文書ヲ作成シタル以上ハ其代理者ノ氏名ニ虛偽ノ名稱ヲ用ヒタル場合ト雖モ文書偽造罪ヲ構成ス(明三〇六年一八三〇頁) 甲某實在者代理人

乙某虛設氏名ト自署シ土地賣渡證ヲ偽造シタル事件ニ付キ同趣旨(明四〇年)

2 自己ノ氏名ヲ署シテ文書ヲ作成シタル場合ト雖モ他人ノ代理者ナリト借稱シ其名義ヲ以テ文書ヲ作成シタルトキハ文書偽造罪ヲ構成ス(明三六年一)

3 代理行爲ハ本人ニ對シ直接ニ其效力ヲ生ス故ニ他人ノ代理者ナリト詐稱シテ契約書ヲ作成スルカ如キハ縱令自己ノ氏名ヲ用フルモ他人ノ署名ヲ詐リテ文書ヲ作成シタル場合ト敢テ相擇フ所ナク。刑法第一五九條第一項ニ該當ス(明四年三九號、明四二、七五〇頁)

4 親權者又ハ後見人未成年ノ子又ハ被後見人ノ爲メニ其財産ニ關スル帳簿其他ノ文書ヲ作成スルニ値リ虛偽ノ記載ヲ爲ス場合亦同シ(明四四年九七八頁)

ト曰ヒ舊法時代ヨリ常ニ積極ニ解シ來レリ因テ案スルニ前掲1ノ例ハ文書ノ作成者ニ虛設ノ人名ヲ充テタルモノナルカ故ニI有形偽造ノ第一問トシテ論シタル所ニ相當スト雖モ反之2乃至4ノ例ハ文書ノ作成者ヲ虛構セス其不實ナル點ハ代理資格ニ存リ作成名義ヲ詐リタルニ非スシテ内容ヲ詐リタルモノナリ之ヲ指シテ他人ノ署名ヲ詐リタル場合ト相擇フ所ナシト言フカ如キハ不當モ亦甚シト謂フ可シ何レモ作成名義人ノ手ヲ以テ内容不實ノ文書ヲ作成シ而シテ文書

面ニ他人ノ印章署名アラサルカ故ニ第一五九條第一項ノ罪ニ非スシテ同第三項ニ擬スヘキ直接無形偽造ノ適例ナリ(尙大四年九月二日判例、有形偽造說明參考)

第三問 醫師ノ行爲ニ係ル直接無形偽造ハ第一六〇條ニ該當スル場合ノ外ハ無罪ナリヤ公務所以外ニ交付スヘキ診斷書、檢案書、死亡證書又ハ醫師法第六條ノ診療簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲スハ第一五九條第三項ニ該當スルニ似タリ

乙 間接無形偽造 トハ情ヲ知ラサル他人ヲ利用シ其他人名義ノ内容不實ナル文書ヲ作成セシムルヲ謂フ、公文書ニ關シテモ私文書ニ關シテモ此種ノ偽造罪成立スルコトヲ得

公文書ニ關シテハ第一五七條ニ一ノ專條アリ該條ヲ除ク外其他左ノ如キ場合ハ亦間接無形偽造ナリ

- 1 本節其一II乙種5 掲出、印影ナキ印鑑證明願書ニ村長ノ證明書ヲ貰受ケタル後村長ノ豫期セル印章ヲ押捺スルノ類(大一年三三頁) 同3 亦同シ
 - 2 村長カ收入役ヲ欺キ完成後ハ村長ノ保管スヘキ決算報告書ノ表ニ其收入役ヲシテ不實ノ記載ヲ爲サシムルノ類(明四二年七、一五頁)
- 私文書ニ關シテハ專條ナシト雖モ本節其一II乙種1、2、4、及ヒ左ノ諸例ハ其間

接無形偽造ナリ

1 他人ノ文盲又ハ愚鈍ナルニ乘シ其爲サント欲スル意思表示ト異レル文書ニ署名捺印シテ之ヲ自己ニ交付セシムルハ詐欺取罪ニ非ス第一五九條第一項ノ文書偽造ナリ(明四年一六五〇頁、明四年八八二頁、同一五三四頁)

2 内容ヲ示サスシテ他人ノ信スル所ト異レル文書ニ署名捺印セシムル亦同シ(大二年八八八頁)○内容ヲ誤信セシメタル場合亦同シ(大五年七〇八頁)

3 行使ノ目的ヲ以テ人ヲシテ其信スル所ト異レル内容ノ文書ニ捺印ヲ爲サシムル行爲ハ其意貸金取立ノ便ヲ圖ルニ在リトスルモ仍ホ文書偽造罪ナリ(大一年九二二頁)同趣旨(明四年七二五頁)

以上總テノ場合カ無形偽造ナルカ有形偽造ナルカハ學說ノ岐ルル所トス蓋シ名義人ノ誤信シタル所又ハ知悉セサル所ノ文言ハ犯人カ之ヲ認メタル場合ニ於テ文書トシテ之ヲ完成スル署名捺印ハ名義人ノ爲シタル所ナリ即チ情ヲ知ラサル名義人ヲ機械トシテ内容不實ノ文書ヲ成立セシメタルモノナルカ故ニ間接無形偽造ノ一種(第一五九條)ト做スヲ相當トス○第一六〇條ニ關シテモ同様ノ場合ヲ生スヘシ

其四 有害ノ偽造ト無害ノ偽造

I 有害ノ偽造 實害又ハ危險無キ行爲ハ罪爲ラス文書ノ偽造(變造)亦爾リ但シ法律カ文書ノ偽造(變造)ヲ罪トシテ罰シ之ヲ防遏セントスル所以ノ實害又ハ危險ノ何タルヲ明ニセサレハ罪ノ成否ニ付キ誤解ヲ生ス按スルニ

甲、有形ノ偽造(變造)ニ在リテハ文書ヲ以テ作成名義者ヲ虛構スルニ於テハ逕ニ文書ノ有スル特殊ノ信用ヲ不安ナラシムル有害ノ偽造ナリ内容ノ眞偽及ヒ此ニ基ク具體的損害ノ可能不可能ヲ問ハス等シク罪ト爲ル債權ヲ有シ證書ヲ有セサル債權人カ債務人ノ名義ヲ冒用シ自身證書ヲ作成スルモ亦罪ト爲ル所以ナリ之ヲ判例ニ徵スルニ

1 文書偽造行使罪ヲ構成スルニハ其文書ノ偽造行使ニ因リ他人ニ害ヲ生シ又ハ生シ得可キコトヲ要ス從テ他人ノ名義ノ文書ヲ偽造行使スルモ其者ノ爲メ必ス利益ヲ生シ損害ヲ生スヘカラサルトキハ犯罪ヲ構成セス○訴訟代理委任狀偽造ノ件(明三年一七六頁)

2 上略 其文書ヲ偽造行使シタルニ依リ他人ニ害ヲ生シ又ハ生シ得可キコトヲ要件トスルモ其實質ヲ偽リタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要無シ○實印盜捺印鑑短冊

偽造及ヒ右印鑑廻送狀偽造ノ件(明三六二年一)

3 偽造文書ニ署名者トシテ記載セラレタル者ニ損害ヲ生シ又ハ生スル虞無キ場合ト雖モ苟モ該文書ニ眞ヲ措キ之カ交付ヲ受クル者ニ損害ヲ生シ又ハ生スル虞有ルトキハ完全ニ成立ス○隱居相續ニ因リ土地所有權ヲ取得シ其未タ登記ヲ經サルトキ隱居ノ名義ヲ冒用シ賣買登記申請ノ委任狀ヲ偽造シタル事件(明三七年一)

4 實害ノ要件ヲ具備スルニ因リ成立シ犯人カ不正ニ自己ヲ利シ又ハ他人ヲ害セントスル目的ニ出テタルト正當ニ他人ヲ利シ又ハ自己ノ權利ヲ實行セントスル精神ニ基キタルトハ犯罪ノ構成ニ何等ノ影響無シ○貸金取立上一時ノ便宜ノ爲メ死者名義ヲ以テ虛偽ノ養子縁組ノ届出ヲ爲シタル事件其説明ニ曰フ相續人ニ非サル者カ相續人タル如キニ至リ登記ノ紛糾相續法ノ紊亂ヲ醸成ス云(明三七年一)

5 氏名ヲ記載セラレタル者ノ方面ニ於テ何等損害ヲ生シ又ハ生スル虞無キ場合ト雖モ苟モ該文書ニ信ヲ措キ之カ害ヲ受クル第三者ノ方面ニ損害ヲ生シ又ハ生スル虞有ルトキハ完全ニ成立ス○他人名義ノ船舶賣渡證書ヲ偽造シ金錢借

入上ノ便宜ノ爲メ第三者ニ之ヲ展示シタル事件(明三九年一)

6 他人ヲシテ偽造證書ノ署名者カ眞正ニ之ヲ作成シタルモノト信セシム可キ程度ニ達スルヲ以テ足り必スシモ其證書カ眞正ナルニ於テハ法律上ノ效果ヲ有ス可キ事實ノ存立ヲ要件ト爲スモノニ非ス○他人名義ノ自己ニ對スル借用證書ヲ自己ノ辨濟ノ擔保トシテ第三者ニ交付シタル事件擔保ノ種類明確ナラサルモ仍ホ有罪ナリトノ趣旨(明四〇年四五二頁、明四二年一七一七頁)

7 文書ノ信用ヲ害スルトキハ別ニ財産上ノ實害ヲ生スルヲ待タズ偽造ト爲ル○不動産賣買契約成立後其所有權移轉登記前買主カ擅ニ賣主ノ名義ヲ使用シ借用金證書及ヒ右不動産擔保證書ヲ偽造シタル事件(明四二年)

8 全然存在セサル事實ニ付キ文書ニ詐欺ノ記載ヲ爲シタル場合ニ於テ署名者ニ何等ノ實害ヲ及ホス虞無キトキト雖モ法律ノ保證スル文書ノ眞正ヲ害シ一般人又ハ特定人カ文書ノ眞正ニ付キ與フル文書ノ信憑ヲ害スルカ故ニ文書偽造罪ヲ構成ス○既ニ消滅シタル漁業權ヲ仍ホ存續スルカ如ク裝ヒ他人名義ノ漁場賣渡契約證書ヲ偽造シ之ヲ當該官廳ニ提出シタル事件(明四三年)○尙第四節第二種公文書ニ關スル戊三比較

9 文書ノ作成名義ニ對スル公ノ信用ニ關スル危險ヲ生スルコトノ外ニ文書偽造又ハ行使ニ依リ何等ノ實害ヲ生スルコトヲ要セス。○法律上無効ナル土地冒認賣渡證ノ内容ヲ詐稱シ錯誤ノ下ニ他人ヲシテ證人トシテ署名捺印セシメタル事件(明四三年七二五頁)

10 法律カ保護スル文書ノ真正ヲ詐ルニ因リ之ニ對スル公ノ信憑力ヲ害スル危險有ルコトヲ以テ足り文書ノ偽造ニ因リテ更ニ文書ノ作成名義ヲ冒サレタル者若クハ其行使ヲ受クル者ニ對シ特別ノ法益侵害有ルコトヲ必要トセス。○甲一人所有ノ家屋ヲ甲及ヒ被告ノ共有ト爲ス旨ノ證書ヲ作成シ甲ヲ詐キ甲一人名義ノ賣渡證ナリト稱シ甲ニ署名捺印セシメタル事件(明四四年一五三四頁)

11 文書偽造罪ハ文書ノ真正ニ對スル公ノ信用ヲ害スル犯罪ナレハ苟モ偽造行使ノ行爲有リタル以上ハ公ノ信用ヲ害シ若クハ害スル虞有ルモノニシテ作成名義人ノ方面ニ於テ損害ヲ生セス却テ利益ヲ生シ得キ場合有リトスルモ同罪ノ成立ヲ妨ケス。○會社ノ危急ヲ救ハントコトヲ圖リ贈賄ノ用ニ供スル爲メ取締役カ會社名義ノ小切手ヲ拂出シタル事件(明四五年一〇四二頁)
ト曰ヘリ其1及ヒ2ニ在リテハ偽造又ハ行使ニ因リ實害又ハ危險ヲ伴フコトヲ

以テ成罪要件ト爲シ、3及ヒ5ニ在リテハ被署名冒用者ヲ害シ又ハ害スル虞有ルコトヲ要スト爲シ、4ニ在リテ實害要件(措辭)ヲ具備スルコトヲ要スト曰ヒ、6以下ニ至リテ初メテ形式主義ノ判詞ヲ掲グルニ拘ラス説明ノ個所ニハ常ニ實質上ノ害又ハ害ノ虞有ルカ故ニ罪ト爲ルカ如キ措辭有リ然レトモ6以下ノ例ニ在リテハ作成名義ヲ冒用シタル事實ヲ以テ逕ニ成罪ノ理由ト爲サハ可ナリ他ノ點ヲ啜々スルニ及ハス

乙 無形偽造(變造)ノ中直接無形偽造ノ場合ハ作成名義者カ情ヲ知り故意ニ内容不實ノ文書ヲ作成シタルトキ又間接無形偽造ノ場合ハ作成名義者カ他人ノ機械トセラレ情ヲ知ラスシテ内容不實ノ文書ヲ作成シタルトキ逕ニ文書ノ信用ヲ不安ナラシムル有害ノ偽造ト爲ルモノトス判例ニ曰フ

1 村長カ村ノ繁榮ヲ圖ルニ因リ一筆ノ土地ヲ三筆ナリト詐リ郡長ニ訂正ノ上申書ヲ作成提出シタル事件ニ對シ 偽造ハ文書ノ形式又ハ内容ヲ詐リ因テ其文書カ證明ノ具トシテ交通上ニ於ケル信用ヲ害スルニ因リ成立スル犯罪ニシテ此外特定人ニ對シ具體的ニ損害ヲ與ヘ又ハ與フルノ危險有ルコトヲ必要トセス(明四三年一〇八三頁) ○尙公文書ニ關スル罪丁3戊2比較

2 町長カ銀行ノ利子ニ支拂ヒタル金額ヲ消防器具費トシテ記載シタル事件ニ對シ○偽造又ハ行使ニ因リテ現實ニ實害ヲ生シ又ハ生スル虞有ルコトヲ要セス
(大三年一六二六頁)

3 苟モ公文書トシテ成立スルモノナル以上ハ其内容ノ真實ニ合スルモノナルト否トヲ問ハス法律ノ保護ヲ受ケサル可ラス故ニ擅ニ増減變更シタルトキハ他ニ實害ヲ生スルト否トニ拘ラス公ノ信用ヲ害スルモノトシテ處罰ヲ免レス(大九年一四九七頁)

ト曰ヘル亦其趣旨ヲ同ウス

II 無害ノ偽造(變造)ハ罪ト爲ラス但シ其所謂有害無害ハ文書ノ信用ニ關スル有無ヲ指稱スルニ外ナラサルヲ以テ何等ノ證據力ヲ有セサル文書ノ作成ハ偽造ニ非ス證據力ニ無關係ナル増減變更ハ變造ニ非ス

其五 行使

偽造文書ノ行使トハ偽造又ハ變造ニ係ル文書又ハ圖畫ヲ以テ真正ナル文書トシテノ用ヲ充タスト謂フ真正ナル文書又ハ圖畫トシテノ用ヲ充タストハ場合ヲ分チ或ハ他人ニ之ヲ揭示シ或ハ他人ニ之ヲ交付シ或ハ單ニ之ヲ備付ケ證據ノ用

ニ供スルヲ謂フ

文書ヲ作成スル行爲カ偽造變造罪ヲ構成スルニハ真物トシテ之ヲ行使スル目的ニ出ツルコトヲ必要トスト雖モ偽造變造文書行使罪ノ物體タル文書ハ不實タルヲ以テ足り之ヲ作成シタル行爲カ偽造變造罪ヲ構成シタルコト換言スレハ行使ノ目的ヲ以テ作成セラレタルモノニ係ルコトヲ必要トセス(明四四五年)偽造貨幣行使罪ノ理論モ同一タルヘシ

I 贖本ニ依ル行使

1 行使罪ナリ(明二七年一三二頁)

2 行使罪ニ非ス○偽文書ノ贖本ヲ裁判所ニ提出スルモ行使ニ非ス(明三七年二卷七頁)○贖本ヲ提示シ又ハ内容ヲ說示スルモ行使ニ非ス(明四三年一四五四頁)

II 文書記載ノ趣旨以外ノ行使モ仍行使罪ヲ構成ス(明一三二年三)左例亦同

- 1 證書ノ提出ヲ要セサル場合ニ偽造證書ヲ裁判所ニ提出シタル事件(明一三五年九卷一五六頁)
- 2 偽造債權證書ヲ第三者ヨリ負フ自己ノ債務ノ擔保トシテ交付シタル事件(明四年四二頁五)
- 3 告訴ノ目的ヲ以テ偽造賣渡證及ヒ委任狀ヲ檢事局ニ提出シタル事件(明四一年六四八頁)

- 4 偽造ノ預金通帳ヲ非預金人ニ交付シタル事件(明四四年)
- 5 甲乙間ノ偽造借用金證書ヲ出金ヲ承諾セシムル方便ニ丁ニ交付シタル事件(大六年三〇七頁)

III 偽造文書タル旨ヲ告ケテ爲シタル行使

- 1 行使罪ニ非ス(明三二年二〇二頁)
- 2 行使ハ他人ニ提示シ其人ヲ錯誤ニ陥ラシメントスル行爲ナリ(明三三六年一〇九七三頁)
- 3 戸籍吏ニ對シ偽造ノ届書ナルコトヲ告ケ之ヲ受付ケシメタルノミニテハ行使ニ非スト雖モ之ヲ備付ケシメタルトキハ行使ナリ(明三四年三二四二頁)
- IV 提示シタルトキハ行使シタルモノナリ
- 1 貸出方ニ於テ提示ヲ受ケタル連借證書ノ偽造タルコトヲ看破シタル場合(明四年〇一頁四)
- 2 閲覽セシメタル以上ハ内容ヲ對抗スル行爲有ルヲ待タス(明四五年三〇四六七頁)
- 3 自己ノ手裡ニ保存シテ示サス又ハ自己ノ監督内ニ在リテ人ノ認識スルヲ妨ケ得ルトキハ未タ行使ハ成立セス(大二年一三九〇頁)
- V 訴訟等ノ代理人ニ提示又ハ交付スレハ行使ナリ

1 代理人ニ交付(明三二年九〇二頁)

- 2 訴訟代理人ニ交付(明三六年一九七三頁、明三七年一〇〇五頁、同年〇其手ヲ經テ裁判所ニ提出スレハ双方ニ對スル行使(大四年二〇四四頁)但シ連續犯ニ非ス包括一罪(大八年一四一頁)
- 3 告訴告發狀ヲ代人ニ交付(明三五年一〇三三頁)

VI 確定日附ヲ受クル爲メ偽造文書ヲ公證人ニ提示スレハ行使ナリ(明三八年一三三三頁、二一三〇頁、大三年一六二頁)

- 手形償還請求ノ手續ヲ依頼スルニ當リ偽造文書ヲ執達吏ニ提示シタル場合亦同シ(明三九年九〇五頁)
- VI I 偽造文書ヲ代書人ニ提示シ代書セシムルハ其行使ニ非ス(明三八年一〇二九頁、大二年三八九頁、大九年八五頁)

VIII 駐在巡査ニ對スル提出

- 1 偽造文書ヲ駐在巡査ニ提出シタル場合ト雖モ其巡査ニシテ之ヲ處理スル權限無キモノハ未タ行使アリト謂フヲ得ス(明四〇年三二八四頁)
- 2 駐在巡査ハ警察署長ノ事務ヲ執行スル補助機關ナルヲ以テ同署長ニ提出ス可

キ書類ヲ受取り之ヲ進達スル職責ヲ有ス故ニ署長ニ提出ス可キ(偽造)文書ヲ駐在巡查ニ提出スル所爲ハ(偽造)文書ノ行使罪ヲ構成ス(明七四三年一)

3 司法警察官(大三年一)又ハ其補助機關タル巡查(大九年)カ犯罪捜査ノ爲メ人ノ供述スルニ當リ之ニ偽造文書ヲ提示スル所爲亦同シ

IX 左例ニ於ケル登記簿、公正證書、會社帳簿ヲ備付クル行爲ハ利害關係人ノ閱覽ニ供シ得可キ状態ニ措クモノナルニ因リ登記申請者、記載申立人、帳簿備付人ハ之ヲ行使シタルモノナリ

1 虚偽ノ登記申請ヲ爲シ登記官吏ヲシテ不實ノ記載ヲ爲サシメ之ヲ備付ケシメタル行爲(明四二年七八六頁、同一六)

2 公證人ヲシテ公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ其手ヲ藉リテ之ヲ役場ニ備付ケシメタル行爲(明四四年一)

3 不實ノ記載ヲ爲サシムルト他人ノ認識シ得ヘキ状態ニ置カシムルトハ別個ノ行爲ニシテ其備付ケラレタルトキヲ行使トス(大八一年)

4 不實ノ記載ヲ終了スルト同時ニ其文書ハ備付ケラレタルモノトス(大五一年)

5 不實ノ記載ヲ爲サシメタルコトカ證明セラルレハ之ヲ備付ケシメタルコトモ

之ヲ推斷スルニ難カラス(大二九一年)

6 會社ノ清算人カ會社ノ帳簿ヲ偽造シ之ヲ會社ニ備付ケタル行爲

7 休業中タルト否トヲ問ハス銀行ノ帳簿ノ一部分ヲ偽造シ之ヲ備付クレハ即チ行使シタルモノナリ

8 第一五八條ノ行使罪ハ犯人ノ公務員タルト私人タルトヲ分タサル法意ナリ(明〇三年一〇)

第四節 故意

單ニ作成又ハ變更スル故意有ルヲ以テ足レリトセス真正ナルモノトシテ行使スル目的ニ出ツルコトヲ成罪要件トス明文有ル偽造ニ付テハ問題無シ(第一五

六條、第一五九條第一項、第一五)明文無キ偽造變造ト雖モ或ハ前項ノ規定ヲ受ケテ之ヲ節略シ(第一五九條第一項、第一五九條第二項、第三項)或ハ文勢上之ヲ暗示シ(第一五七條)タル

モノニシテ亦疑ヲ容レス

1 文書ノ信用ヲ害スヘキ危険カ客觀的ニハ實在スルモ偽造者カ主觀的ニ全然之ヲ否定シ又ハ全ク之ヲ意識セサリシ場合ニハ所謂行使ノ目的無キモノニシテ

文書偽造罪ハ主觀的條件ノ缺欠ニ因リテ成立セス○曩ニ交付シタル偽造手形カ満期日ト爲レルトキ現金ノ代ニ更ニ偽造手形ヲ交付シ銀行ニ死藏セシメ他ニ流通セシムル意思無キ場合ノ判詞(大九〇年一頁)

2 借用證書ヲ偽造スルニ當リ情ヲ知レル宛名人ニ交付スル目的ヲ以テスルモ仍ホ行使ノ目的ヲ以テシタル偽造ト謂フヲ妨ケス○甲乙通謀シ甲カ甲ノ實母丁ノ印章署名ヲ冒用シテ乙ニ交付スヘキ借用證書ヲ偽造シタル事件(大二年五頁)

3 甲乙通謀シテ金圓借用證書ヲ偽造スルニ當リ甲ハ乙カ乙ノ父丁ノ眞印ヲ不正ニ使用シタルモノト信シ居リタルニ其實乙ハ丁ノ印ヲ偽造押捺シタルモノナル場合ニ於テ甲ノ誤信ハ第一五九條第一項ノ罪ノ故意ヲ阻却スルコトナシ(大一年五六頁)

4 行使ノ目的ニ出テサル偽造變造ハ罪ト爲ラスト雖モ斯ル目的ニ出テタル以上ハ其違法行使ノ種類如何ヲ問フコトナシ(大五年一頁)故ニ例ヘハ詐欺取財ノ用ニ供セントスル目的ヲ以テスルモ單ニ虛榮ノ爲メ人ニ示サントスル目的ヲ以テスルモ共ニ罪ト爲ル

5 行使ノ目的ニ出ツルコトヲ要件ト爲スカ故ニ其旨ヲ明揭セサル判決ハ不備ナ

九(大四年二頁)

第五節 文書偽造罪ノ種類

第一種 欽制文書ニ關スル罪

其一 欽制文書偽造罪 第一五四條第一項

第一要件 詔書其他ノ欽制文書ニ係ルコト

第二要件 偽造ノ行爲有ルコト

第三要件 眞正ナル御璽國璽若クハ御名ヲ使用シテ偽造シ又ハ偽造シタル御璽國璽若クハ御名ヲ使用シテ偽造スルコト (1)眞正ナル御璽國璽若クハ御名ヲ

使用スルハ舊刑法ノ盜用ニ該當ス其御璽又ハ國璽ハ犯人ノ押捺シタル所ニ係ルト否トヲ區別スルコト無シ (2)偽造シタル御璽國璽若クハ御名ヲ使用シタル場

合ニ於テ其偽造カ犯人ノ所爲ニ係ルト別人ノ所爲ニ係ルト亦之ヲ區別スルコト

無シ

第四要件 行使ノ目的ヲ以テスルコト

其二 欽制文書變造罪 第一五四條第二項

第一要件 真正ナル御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ欽制文書存在スルコト

第二要件 前記欽制文書ヲ以テ材料ト爲シ、性質ヲ變更スルニ至ラス效力ヲ變スルニ止マル増減ヲ施スコト

第三要件 行使ノ目的ヲ以テスルコト、條文ニ明言セスト雖モ第一項ヲ受ケテ之ヲ節略シタルモノナリ

其三 偽造變造欽制文書行使罪 第一五八條

行使ノ行爲アルニ因テ成立ス而シテ (1)其文書ノ偽造變造者カ別人ニ係ル場合ハ專ラ第一五八條(第一五四條)ニ該當スト雖モ (2)若シ同一人カ偽造變造行使シタル場合ハ第一五八條(第一五四條)及ヒ第五四條第一條後段牽連罪ニ該當ス、比第六節其二併合罪關係

其四 公務員ノ行爲

公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ欽制文書ヲ作り又ハ欽制文書ヲ變造シタルトキハ第一五六條ヲ援用シ第一五四條ノ例ニ依ル

注意 欽制文書ニ關シテハ公文書ニ關スル第一五五條第三項、私文書ニ關スル

第一五九條第三項ノ如キ規定有ラサルカ故ニ御璽、國璽若クハ御名有ラサル此種ノ文書ノ偽造、變造ハ第一五四條ニ擬スルコトヲ得ス其何罪ヲ構成スルカハ事實如何ニ因テ定マルナリ

第二種 公文書ニ關スル罪

其一 印章署名使用公文書圖畫偽造罪 第一五五條第一項

第一要件 公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書圖畫ニ係ルコト

1 官公吏カ職務ノ執行上ニ必要缺ク可ラサルモノナル以上ハ法令ニ於テ特ニ其作成ヲ命セス又形式ヲ定メサル場合ト雖モ適宜文書ヲ作成スルコトヲ得可ク其文書ハ官公文書タル性質ヲ有スルモノナリ○村稅賦課調定簿偽造事件(明四年九頁一四二)

2 公務所又ハ公務員カ其名義ヲ以テ作成スヘキ文書ナル以上ハ其權限カ法令ニ因ルト内規慣例ニ因ルトハ之ヲ問ハス○區裁判所ノ名義ヲ冒用シ被告ニ申告ヲ促ス形式ノ通知書偽造ノ件(明四年四六五頁)

第二要件 偽造ノ行爲有ルコト

第三要件 真正ナル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ偽造シ又

ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ偽造スルコト

1 領收證ニ於ケル收入役ノ署名ニシテ偽署タル以上ハ其印章ノ如何ニ關セス其作成名義ヲ詐リタルモノナレハ第一五五條第一項ノ公文書偽造罪ヲ構成ス〇

某村收入役某誰ノ名下ニ同村在郷軍人會ノ印章ヲ押捺シタル事件(三四四年一三四四年二頁)

2 第一五五條ニ所謂公務員ノ印章トハ公文書ヲ作成スルニ方リ之ニ公務員ノ印トシテ使用スル一切ノ印章ヲ汎稱シ云云私印ナルト公印ナルトヲ區別セス(明四年四二九頁、大五年八七二頁)

3 村役場名ノ存スル印鑑簿ニ届出人カ偽造印ヲ押捺シ虚偽ノ事實ヲ記入スルハ第一五五條第一項公務署ノ署名ヲ使用シタル公文書偽造ニ該當ス(大四年一八三頁)

4 反之助役カ村長代理トシテ職務ヲ執行スルニ當リ村長ノ名義ヲ以テ文書ヲ作成スルモ其文書ニシテ助役カ村長代理トシテ正當ニ作成シ得ヘキモノニ係ルトキハ執務ノ便宜上代理名義ヲ省略シタルニ止マリ之ヲ以テ偽造ト認ムヘキニ非ス(明四年七四二頁)

右ノ外第一章印章署名ニ關スル説明比較

第四要件 行使ノ目的ヲ以テスルコト

第五要件 個人又ハ職務ニ關セサル公務員ノ所爲ニ係ルコト

其二 印章署名有ル公文書圖畫變造罪 第一五五條第二項

第一要件 真正ニ公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫存在スルコト

第二要件 前記公文書圖畫ヲ變造スルコト

第三要件 行使ノ目的ヲ以テスルコト

第四要件 個人又ハ職務ニ關セサル公務員ノ所爲ニ係ルコト

其三 印章署名無キ公文書圖畫偽造變造罪 第一五五條第三項

第一五五條第三項ノ偽造變造ト雖モ (1) 第一項ノ制限ヲ受ケテ行使ノ目的ヲ以テスルニ非サレハ罪ト爲ラス (2) 故ニ其前二項ノ外ト曰ヘルハ真正ナル又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セスシテ犯シタル場合ヲ謂フト解セサル可ラス

如何ナル場合ニ於テ個人又ハ職務ニ關セサル公務員カ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用セスシテ而モ人ヲシテ真正ナル公文書ナリト信セシム可キ程度ノ文書ヲ偽造又ハ變造スルコトヲ得ルヤ (1) 斯ル印章及ヒ署名無シト雖モ

措辭ノ形式及ヒ内容ニ因リ某公務所又ハ公務員カ作成又ハ變更セリト信セシム可キ體裁ニ作成又ハ變更シタル場合 (2) 權限無キ者カ某公務所又ハ公務員ヲ代理スル旨ヲ自ラ記載シ(格代理用)自己ノ名義ヲ以テ作成又ハ變更シタル場合等此ニ該當セシ後ノ場合ニ付キ本章第三節其三〇甲第二問代理資格比較

其四 公務員ノ所爲ニ係ル公文書圖書偽造變造罪 第一五六條

是所謂公務員ノ犯ス公文書無形偽造ナリ公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ圖書ヲ作り又ハ文書若クハ圖書ヲ變造スルニ因テ成立ス其印章又ハ署名有ルモノハ第一五六條第一五五第一項又ハ第二項ノ例無キモノハ第一五六條第一五五條第三項ノ例ニ依リ處斷ス

1 偽造變造ノ目的タル文書ヲ作成スル職務權限ヲ有スル場合ト單ニ文書ヲ保管スル職務權限ヲノミ有スル場合トヲ包含スルモノト解スヘキヲ相當トス〇2ニ揭クルト同一事件(明四二年七一四頁)

2 村長カ其保管ニ屬ス可キ種類ノ文書ヲ現ニ保管シアルモノトシテ之ヲ偽造行使シタルトキハ公吏カ其職務ニ關シ文書ヲ偽造シ且之ヲ行使シタルモノトシテ處斷セサル可ラス〇村長カ決算報告書附表ヲ保管スル如ク裝ヒ情ヲ知ラサ

ル收入役ニ決算報告書附表ニ虛偽ノ記入ヲ爲サシメ村會ニ提出シタル事件ニシテ間接無形偽造行使ノ適例ナリ

3 村長カ戶籍ノ謄本ヲ與フルニ當リ前科ニ關シ不實ノ記載ヲ爲ス場合亦同シ(明三年一三五頁)

4 町村長カ當該官吏ヲ欺罔センコトヲ企テ虛偽ノ上申書ヲ提出シタル以上ハ縱令其動機カ私利ヲ圖ルニ非サル場合ト雖モ文書偽造罪ノ成立ヲ妨ケス〇村長カ村ノ繁榮ヲ圖ル爲メ一筆ノ土地ヲ三筆ナリト詐リ郡長ニ訂正上申書ヲ提出シタル事件(明四三年一八五頁)

5 村長カ自己ノ職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ公務員タル署名ヲ用ヒ虛偽ノ村會招集公告案村會招集告知案及ヒ議事録ヲ作りタルトキハ第一五六條第一五五條ノ文書偽造ノ罪ヲ構成ス可ク該所爲ハ公文書ノ内容ノ眞實ニ對スル公ノ信用ヲ害スル危險アリテ此外ニ更ニ害ヲ生シ若クハ害ヲ生シ得可キコトハ同罪ノ成立ニ何等ノ影響無キモノトス(明四四年二八四頁)〇郡會ノ議長及ヒ二名ノ議員カ不實ノ記載アル録事録ニ情ヲ知テ署名捺印シタル事件ニ付キ同趣旨(大六年六一頁)

6 私人ノ渡航歸朝ニ關スル事實ノ證明ハ村長ノ職務ニ屬ス故ニ村長カ其事實ニ

關シ虚偽ノ證明書ヲ作リタルハ第一五六條ニ所謂虚偽文書ナリ(大三頁八)
 7 郵便局長カ行使ノ目的ヲ以テ其職務上記入スヘキ振替貯金監査票ニ故ラニ受
 入當日ヨリ後レテ拂込金額等ヲ記入シ之ニ記入當日ノ日附印ヲ押捺シ云々
 ル行爲ハ刑第一五六條(第一五五條)ノ文書偽造罪ニ該當ス(四六六頁九)

8 某縣下土木課ノ吏員カ砂防工事事務所ノ工事職工人夫出面表ノ中ニ(大三年二)
 ○國有林ノ砂防設備修繕工事ノ監督ヲ爲ス職務ヲ有スル山林枝手カ之ニ必要
 ナル賃銀ノ支拂請求書又ハ證明書ニ(大九六頁二)○外務書記生カ公使館ト云フ署
 名印刷シアリ且職務上自己ノ保管スル帳簿ニ(大五年五)○北海道支廳在勤ノ北
 海道屬カ支廳代理トシテ町村戸長役場ノ事務ヲ視察シタルトキ其報告書ニ添
 附スル狀況調書ニ(大三年二)○市町村ノ收入役カ其作成スル權限ヲ有スル市町
 村現金出納簿ニ(大八四一頁)不實ノ記載ヲ爲スハ總テ第一五六條(第一五五條)ニ該
 當ス

注意 公務員ノ公文書ニ關スル行爲ニシテ第一五六條ニ該當スルカ如キ皮相
 ナ有シ其實爾ラサル例亦尠カラス例ヘハ左記 (1) 1 及ヒ2 其他之ト同シク公務
 員ノ職務内ニ在ラサル公文書ノ偽造ハ一般ニ第一五五條ノ範圍ニ屬シ(大七年一)

(2) 3 及ヒ4 ハ各所掲ノ理由ニ因リ何等ノ罪ト爲ルコトナク (3) 5 ハ變造ニ非ス
 シテ毀棄ナリ

- 1 町村長ノ臨時代理ニ非スシテ單ニ其命令ニ因リ戶籍事務ヲ擔任スル書記カ該
 町村役場名義ノ戶籍簿ニ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ記入ヲ爲スハ第一五六條ノ
 罪ニ非ス第一五五條ノ罪ナリ(大五年一九〇八頁)
- 2 郵便局ノ通信事務員ノ任務ハ局長ノ命ヲ受ケ局長ノ權限ニ屬スル文書ノ作成
 又ハ帳簿ノ記入ヲ爲スニ過キサレハ○局印ヲ不正ニ使用シテ現金出納簿ニ不
 實ノ記載ヲ爲シ(大四年四四五頁)○局長ノ名義ヲ以テ擅ニ虚偽ノ文書作成帳簿記入ヲ
 爲ス(大一年一)ハ第一五六條ニ非スシテ第一五五條ニ該當ス
- 3 戶籍事務ヲ擔任スル市役所ノ書記カ婚姻届アリタルトキ其届出ノ民第七七二
 條ニ違反スルモノナルコトヲ知テ之ヲ身分登記簿及ヒ戶籍簿ニ登録スルモ其
 届出アリタルコトハ眞實ナルカ故ニ第一五六條ニ所謂虚偽ノ文書ヲ作リタル
 モノニ非ス(大二年二)○市町村長ノ行爲ニ付キ同趣旨(大七年一)
- 4 甲乙間ニ行ハレタル虚偽ノ意思表示タル不動産賣買ニ付キ甲乙ト通謀シタル
 裁判所書記丙カ其賣買登記及ヒ之ニ伴フ登記濟證ノ記載ヲ爲スハ第一五六條

ニ該當スト雖モ買受名義人乙カ其不動産ニ依リテ善意ノ第三者タル丁ニ抵當權ヲ設定シテ借入金ヲ爲シ辨濟後抵當權抹消ノ登記ヲ爲スハ法律上有效ナル行爲ナルカ故ニ書記丙カ其抵當權設定登記及ヒ其登記抹消ノ記載ヲ爲スハ第一五六條第一五五條ニ該當セス(大六〇八年七〇八年)

5 公務員ノ退職届書ハ其肩書ヲ記載スルモ其身分ニ因リ職務執行ノ爲ニ作成スルモノニ非サルヲ以テ第一五五條ニ所謂公文書ニ非ス之ヲ變更スルモ同第二項ノ變造ニ非ス但シ其既ニ公務所ニ備付ケラレタル後擅ニ日附ヲ改竄スルハ第二五八條公文書毀棄ナリ(大九一〇年五九一頁)

其五 權利義務公正證書、免狀、鑑札、旅券無形偽造 第一五七條

本罪ハ (1)個人又ハ職務ニ關セサル公務員カ該當公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本第一項 又ハ免狀、鑑札、旅券第二項ニ不實ノ記載ヲ爲サシムルニ因テ成立ス (2)故ニ該管公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ不實ノ記載ヲ爲サシムルノ方法ニ依ラス個人又ハ職務ニ關セサル公務員カ前記公正證書ノ原本又ハ免狀、鑑札、旅券ヲ違法ニ自身作成又ハ變更スルハ第一五五條ニ屬シ第一五七條ニ屬セス

1 寄留簿 ハ行政ノ便宜ノ爲メ戸籍ニ關係ナク單ニ各人ノ所在ヲ明ニスル爲メ

本籍以外ノ住所又ハ居所ヲ登録スル公簿ニシテ權利義務ノ得喪變更等ヲ證明スル公正證書ノ原本ニ非ス故ニ之ニ不實ノ記載ヲ爲サシムルハ第一五七條ニ該當セスシテ警罰令第二條第二一號ニ該當ス(大五九七年五七頁)

2 被害法益 第一五七條ノ罪ヲ罰スルハ真正ナル公正證書ニ對スル公ノ信用ヲ

害スル危険アルカ爲ニシテ此以外ニ實害ノ生シ得ヘキコトハ同罪ノ成立要件ニ非ス○申請人名義詐稱、抵當權設定登記抹消事件(明四二七年一七四一七頁)○財産隠蔽ノ目的ニ出ツル假裝抵當權設定登記事件(明四三年一四三三頁)

3 申請名義 申請ノ爲メ自己ノ名義ヲ用フル(内容不實ノ申立テト他人ノ名義ヲ冒用スルトハ共ニ罪ト爲ル)○自己ノ外別ニ一人ノ名義ヲ冒用シタル連借證書ニ基キ抵當權ノ設定登記ヲ經タル事件(明四二年九一四二頁) (比明四三年二一七頁)

4 名義真正、内容不實 第一五七條第一項 所謂虚偽ノ申立ハ事實ニ反スル申立アルヲ以テ足り申立人カ名義ヲ詐稱シタルコトヲ必要ト爲サス○2 後段所掲假裝抵當登記(明四三年一四三三頁)○假裝財産讓渡公正證書作成(明四三年一四六八頁)

5 内容真正、名義不實 第一五七條第一項ニ所謂虚偽ノ申立不實ノ記載ハ申立事

項又ハ記載事項ノ内容ノ虚偽不實ノミニ限ラス其申立名義ノミノ虚偽不實ヲモ包ム○登記名義人ノ住所ニ變更アリタルトキ別人カ其名義人ノ名義ヲ冒用シ登記名義表示變更ノ登記ヲ經タル事件(明四三四年八二三四頁)

6 以上ノ理論ニ因リ○甲カ其實父乙ヨリ金圓ヲ引出ス方策トシテ丙ト通シテ乙ノ丙ニ對スル立木賣渡證及ヒ登記委任狀ヲ偽造シテ其登記手續ヲ了シ(明四二一年七頁)○所有者カ他人ト通謀シ假裝賣買土地所有權移轉ノ登記ヲ爲サシメ(明四二一年九頁、大六一年一〇三九頁)○又ハ當事者間ニ全ク存在セサル不動産所有權移轉ノ事實ヲ存在スル如ク登記ヲ經ル(大八一年一四九三頁)ハ何レモ第一五七條第一項及ヒ第一五八條第一項行使既遂ニ該當ス

7 所有者カ他人ト通謀シテ爲シタル土地ノ假裝賣買登記ハ民法上善意ノ第三者ニ對抗スルコト能ハサルモノナリト雖モ第一五七條第一項ノ罪ト爲ルヲ妨ケス(大五一年八九六頁)○但シ善意ノ第三者ニ對抗スルコト能ハサルカ故ニ名義上ノ買主カ其土地ニ付キ善意ノ第三者ノ爲メ抵當權ヲ設定スルハ無効ニ非ス從テ其抵當ノ登記モ亦第一五九條第一項ニ所謂不實ノ記載ト爲スコトヲ得ス(明四二一年二〇九頁)8 連帶借用證書及ヒ公正證書作成ノ委任狀ヲ偽造シ情ヲ知ラサル債權者ニ之ヲ

交付シテ公正證書ヲ作成セシムルハ第一五九條第一項ノ罪ノ間接偽造正犯ヲ以テ論スヘク直接ニ公正證書ノ作成ニ加功シタル事實アルコトヲ必要トセス(明四四年七五八頁)

9 裁判所ヲ欺罔シテ受ケタル判決ニ基キ登記官吏ヲシテ不動産登記簿ニ不實ノ記載ヲ爲サシムルハ第一五七條第一項及ヒ第一五八條第一項(大二一年四一頁)

10 戶籍法第二一五條ニ所謂身分又ハ戶籍ニ關スル詐欺ノ届出又ハ申請トハ届出又ハ申請ノ内容ノ不實ナル場合ヲ指シテ言フ其他人ノ名義ヲ冒用シテ爲スハ刑法第一五七條第一項ノ範圍ナリ(明四二年三九二頁、明四三年一四五頁)

11 虚偽ノ賃貸借又ハ離婚ノ登記ヲ申請シ其記載ヲ終了スル行爲ハ第一五七條第一項及ヒ第一五八條ニ該當ス(大八一年七五四年)

12 合資會社ハ定款ノ作成ニ因テ成立ス定款ノ作成ハ即チ其設立行爲ナリ故ニ定款作成者カ眞實合資會社ヲ設立スル意思ナキ場合ト雖モ定款ノ作成ヲ了スレハ會社ハ之ニ因テ成立シ從テ其定款ニ基キタル登記ヲ經ルハ第一五七條第一項第一五八條第一項ノ罪ヲ構成セス(大八一年三四八頁)反之株式會社ハ株金ノ第一回拂込ヲ終了シ且ツ創立總會ヲ開キテ之カ設立ヲ

終了スルニ非サレハ成立スルコトナシ(商第一一三二五條)故ニ若シ株金ノ拂込又ハ創立總會ノ有無若クハ決議等ニ付キ虚偽ノ申立ヲ爲シ登記ヲ經レハ第一五七條第一五八條各第一項ノ罪ヲ構成ス(大八三年三五八三頁)

13 資格ヲ詐リ狩獵免狀ノ下付ヲ受ケタル場合ニ於テ第一五七條第二項ノ罪ト爲ルニハ免狀ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル事實無カル可ラス從テ斯ル記載ヲ爲サシメタルヤ否ヤ不明ナル判決ハ理由不備タリ(大四年四九三頁)

其六 以上其一乃至其五所掲文書圖書行使罪 第一五八條第一項
行使ノ意義ニ關シ本章第三節其五行使及ヒ第六節其一未遂罪ノ説明對照

第三種 私文書ニ關スル罪

其一 印章署名使用私文書圖書偽造罪 第一五九條第一項

第一要件 權利義務又ハ事實證明ニ屬スル文書若クハ圖書ニ係リ公務所又ハ公務員ノ作成ス可キモノニ屬セサルコト

1 白紙委任狀ハ權利義務ニ關スル文書ナリ(明三六年三六五頁、明三九年九七八頁、大元年一四二六頁)○借用人ノ氏名及ヒ借入金額ノ記載ナキ借用證ノ保證々書亦同シ(大正八年八三八頁)

2 他人名義ノ白紙委任狀ニ權限外ノ事項ヲ記載行使スルハ文書偽造行使罪ナリ

(明二九年一卷四頁、一〇頁、二頁、明四二年一七〇〇頁)

3 郵便官署ノ作成シタル爲替證書ハ第一六二條ニ所謂官府ノ證券ナリト雖モ郵便爲替證書ニ於ケル受領證ハ受取人カ其名義ヲ以テ作成スヘキ權利義務ニ關スル一個ノ私文書ニシテ郵便爲替證書トハ全然分離シテ獨立ノ存在ヲ有スルモノトス受領證カ郵便爲替證書ト同一用紙ニ記載セラレタリトテ爲替證書ノ内容ヲ構成スルモノトシ官府ノ證券ヲ以テ論スルヲ得ス又有價證券ニ非サルヲ以テ右受領證ヲ偽造シタル行爲ニ付テハ第一五九條ヲ適用ス可キモノトス

(明四三年八二八頁)

4 甲者公務員ノ資格ヲ以テ主債務ヲ負擔シ乙者何等ノ資格無クシテ保證債務ヲ負擔シタル旨記載シタル文書ハ縦令紙面同一ナリト雖モ其一部ハ公文書ニシテ他ハ私文書タリ○町長カ借用證書ヲ偽造スルニ方リ一面ニ於テ借主トシテ自ラ署名シ是ニ個人タル他人ノ名義ヲ冒用シ保證人ヲ假設シタル事件(大四年五五頁)

5 繪畫及ヒ其賛ハ第一五九條第一項ノ文書圖書ニ非スト雖モ之ニ伴ヒ作成ノ時所ヲ記載シ署名捺印シタル落款ハ同第一項事實證明ニ關スル文書ナルカ故ニ之ヲ偽造スルハ同項ノ偽造罪ニ該當ス(大二年四二七頁)○但シ其單ニ雅號及ヒ印章ヲ

偽造スルハ第一六七條第一項印章署名ノ偽造ナリ(大二年一四八五頁)比印章偽造罪其四

第二要件 偽造ノ行爲有ルコト

第三要件 真正ナル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ私文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ私文書ヲ偽造スルコト、此要件ヲ具フルモノ即チ私文書ノ有形偽造ナリ、前者ハ第一五九條第一項前段、後者ハ同後段(明四三〇年頁)

- 1 文書ノ氏名トハ文書自體ノ中ニ爲シタル署名ノ謂ナルカ故ニ虚偽ノ事實ヲ記載シタル告訴狀(明四二年頁) 告發狀(大一年一四八頁)ヲ作成シ其文書ノ中ニハ作成者ノ名ヲ署スルコトナク之ヲ郵送スルノ用ニ供スル封筒差出人ノ個所ニ他人ノ氏名ヲ冒用スルハ縦令兩者同一ノ目的ニ出ツルモノト雖モ同一體ヲ爲サス前者ハ第一五九條第三項、後者ハ第一六七條第一項ノ罪ナリ
- 2 自己ノ名義ヲ以テ作成スル某會々員名簿中ニ擅ニ他人ノ名ヲ署シ有合印ヲ押捺スルニ止マル行爲ハ文書偽造ニ非ス(明四二年頁)而シテ其署名ノ偽造ト爲ルヤ否ヤハ事實如何ニ因リ區別アリ

3 電報賴信紙末端別欄内ニ發信人ノ氏名ヲ偽署スルハ文書偽造ニ非ス第一六七條第一項署名ノ偽造ナリ(明四五年頁)

4 銀行ノ署名アル預金通帳ニ虚偽ノ預金ヲ記入シ(明四四年頁)○他人ノ記名有ル帳簿ニ不法ニ虚偽ノ記入ヲ爲ス(明四四年頁)ハ何レモ他人ノ署名ヲ使用シテ文書ヲ偽造スルモノニ該當ス

5 印鑑ハ夫レ自身其印影カ印鑑記名者ノ印影ナルコトヲ證明スルヲ以テ不正ニ他人ノ印章ヲ使用シ他人ノ氏名ヲ之ニ冒用シテ印鑑ヲ作成スルハ第一五九條第一項ニ該當ス(大三年一九二頁)○其印鑑證明書中ニ顯出セラレタルトキト雖モ全ク別種ノ文書ニシテ其内容ヲ爲スモノニ非ス(大三年二二頁)

6 借用證書ニ保證人トシテ他人ノ署名ヲ偽造スルハ保證證書ノ偽造(大二年五六八頁)○連帶借用人ノ署名ヲ偽造スルハ連帶借用證書ノ偽造(大五年一二五頁)

7 電信法第三三條ノ豫定スル所ハ止タ電報ノ内容ノミ虚偽ナル場合ナリ他人ノ署名ヲ冒用シ通信文ヲ賴信紙ニ記入(行使)スル場合ノ如キハ刑第一五九條第一項第一六一條第一項ノ範圍ニ屬ス(大二年一頁)

第四要件 行使ノ目的ヲ以テスルコト

其二 印章署名有ル私文書圖畫變造罪 第一五九條第二項

第一要件 真正ニ他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫存在スルコト

第二要件 前記私文書圖畫ヲ變造スルコト

第三要件 行使ノ目的ヲ以テスルコト

○數人連署シタル私文書ノ中ヨリ一人ノ署名捺印ヲ擅ニ削除シ他ノ一人ノ署名捺印ヲ以テ之ニ代フル行爲ハ之カ爲ニ文書ノ内容ニ影響ヲ及ホサル限リ變造ニ非スシテ毀棄ナリ○甲乙丙三名連署シタル石炭礦試掘許可願書ノ丙ノ署名捺印ヲ削リ丁ノ署名捺印ヲ以テ之ニ代ヘタル事件(大七一年)

其三 他人ノ印章署名無キ私文書圖畫偽造變造罪 第一五九條第三項

第一五九條第三項ノ偽造變造ト雖モ (1)第一項ノ制限ヲ受ケ行使ノ目的ヲ以テスルコトヲ要件トス (2)其前二項ノ外ト曰ヘルハ真正ナル又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用セスシテ犯ス場合○例ハ銀行ノ支店及ヒ出張所ヲ巡回調査スル旨ノ不實ノ告知書ヲ郵送スルニ當リ告知書ニハ作成者ノ名義ヲ記載セスト雖モ封筒ニ署シタル本店ノ名稱及ヒ告知書ノ文體ニ因リ本店ノ作成ス

ル所ノ如ク解セラルルモノ(明四三年) (3)及ヒ自己ノ印章若クハ署名ヲ冒用

シテ犯ス場合(本章第三節其三II甲直接無形偽造第一問)ヲ包括スヘシ (4)此(明

二年五〇頁)

其四 以上其一乃至其三所掲文書圖畫行使罪 第一六一條

行使ノ意義ニ關シ本章第四節其五行使及ヒ第六節其一未遂罪ノ說明對照

第四種 診斷書檢案書死亡證書ニ關スル罪

其一 診斷等書偽造罪 第一六〇條第一項

第一要件 診斷書檢案書死亡證書ニ係ルコト

第二要件 公務所ニ提出ス可キ前記證書ニ係ルコト (1)醫師自身公務所ニ提出ス可キモノヲ含ム(大五年一)

書ハ醫師法第五條ノ診斷書ナリ(大三年一)○此レニ虛偽ノ記載ヲ爲スハ第一五九

條第三項ニ該當スト信ス

第三要件 虛偽ノ記載ヲ爲スコト (1)診察ノ結果タル斷定ノミニ付キ虛偽ノ

記載ヲ爲スモ亦有罪(大五年一) (2)但シ自身不實ト信スルノミニシテ客觀的ニ不

實ニ非サルトキハ無罪(大四年一)○第二十章其一偽證罪行爲第四問比較 (3)傳染

病ニ非サルトキハ無罪(大四年一)○第二十章其一偽證罪行爲第四問比較 (3)傳染

病患者ノ診断ヲ爲シタル醫師届出期限ヲ過キタル爲メ日時ヲ繰上ケタルハ傳豫法第三〇條ノ罪(大八三年一八三頁)

第四要件 醫師ノ行爲ニ係ルコト (1) 齒科醫ヲ含ムヤ、積極 (2) 獸醫ヲ含ムヤ、消極 (3) 醫師ニ非サル者醫師ノ名義ヲ冒用シタルハ第一五九條ノ範圍
其二 偽造診断等書行使罪 第一六一條

第六節 罪狀

其一 未遂罪

I 偽造變造ノ未遂

罪ト爲ラス止タ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本若クハ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメントシテ遂ケサル場合ハ罪ト爲ル(第一五七條第二項)

行使ノ目的ヲ以テ擅ニ他人ノ名義ヲ冒用シ其名下ニ有合印ヲ押捺シ特定ノ債權ノ讓渡證書並ニ同上債權ノ讓渡通知書ヲ作成シタルトキハ之ニ債權讓受人ノ名義ヲ表示セサル場合ニ於テモ權利義務ニ關スル私文書偽造ノ既遂ナリ(大四年四二)

頁五 未遂ニ非ス

II 行使ノ未遂

罪ト爲ル(第一一六八條第二項) (1) 證據ノ用ニ供スル爲メ偽造又ハ變造ニ係ル文書又ハ圖畫ヲ他人ニ提示又ハ交付セントシ若クハ之ヲ備付ケントシテ遂ケサルハ行使ノ未遂ニシテ (2) 其提示交付又ハ備付ヲ遂ケタルトキ(本章第三節其五)ハ各該文書ノ内容ニ基ク騙取其他ノ目的ヲ達スルヲ待タス行使ノ既遂ナリ (3) 例ハハ偽造ノ連借證書ヲ提示シタルモ貸方ニ於テ其偽造ニ係ルコトヲ看破シ借入ノ目的ヲ達セサル如キ(行使ノ部IV) 又ハ確定日附ヲ受ケントシテ公證人ニ對シ偽造文書ヲ提示シテ看破セラレタル如キ(行使ノ部VI) 何レモ行使ノ既遂ニシテ未遂ニ非スト雖モ (4) 偽造文書ヲ郵便ニ付シ發送シタルノミニシテ未タ何人モ其内容ヲ知ラサル間ハ仍ホ未遂ナリ(比大五年一)二三九頁 (5) 偽造受取證ヲ訴訟代人ニ交付シ之ヲシテ裁判所ニ提出セシメタル場合ニ對シ交付ノトキヲ以テセス提出ノトキヲ以テ行使ノ既遂ト爲スハ擬律ノ錯誤ナリ(明四七年七)七四七頁

其二 併合罪關係

I 結合罪

真正ナル印章署名ノ不正使用又ハ偽造ニ係ル印章署名ノ使用(御璽國璽御名ト付キ同論)ト文書偽造トハ結合罪ナリ併合罪ニ非ス

1 他人ノ印章ヲ使用シテ權利義務ニ關スル文書ヲ偽造シタル所爲ハ第一五九條第一項ニ依リ處斷スレハ足り其他ニ印章不正使用罪ヲ以テ處斷スヘキモノニ非ス(明四二年五三六頁、明四三年三五四頁、明四四年二八頁、大一年三五一頁)

2 印章盜用ノ所爲ハ他人ノ署名若クハ印章ヲ使用シテ文書ヲ偽造スル罪ノ内容ヲ成ス一事實タルニ過キスシテ文書偽造罪ノ外別個ノ印影盜用罪ヲ構成スルモノニ非ス(明四三年一四一頁)

3 犯人自ラ偽造シタル他人ノ印章ヲ使用シテ權利義務ニ關スル文書ヲ偽造シタルトキト雖モ其所爲ハ刑法第一五九條第一項後段ニ依リテ之ヲ處斷スレハ足り印章偽造ノ所爲ニ對シ別ニ第一六七條第一項ヲ適用スヘキモノニ非ス(明四年五七頁) 比第十九章印章偽造罪罪狀其二 III

II 單一偽造(行使)罪

數人ノ印章署名ヲ使用シタル一個ノ文書偽造(行使)

1 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ル〇甲カ乙丙兩人ヲシテ買受人ノ氏名ヲ記

載セサル土地賣渡契約書ニ署名捺印セシメタル後乙丙ノ意思ニ反シ擅ニ甲自身ヲ買受人トシテ記載シタル事件(明四二年二〇八頁) 此斷定ハ左ノ判例ニ因リ改メラル

2 文書偽造罪ノ被害法益ハ名義人各自ノ利益ニ非スシテ文書ノ直正ニ對スル公ノ信用ナルカ故ニ一個ノ文書内ニ於テ數人ノ印章署名ヲ冒用スルモ單一ナル偽造罪ナリ〇二人ノ作成名義ヲ偽造シタル一個契約書(明四三年一七頁)〇保證人二人ノ署名捺印ヲ偽造シタル一借用證書(明四三年八五四頁)〇一通ノ契約書ニ於ケル五人ノ署名捺印偽造事件(明四三年一三三頁)

3 實質上數個ノ法律關係ヲ含ム形式上不可分ナル文書ハ一文書ナリ故ニ被告カ自己ニ宛テタル甲乙丙三名名義ノ被告所有地小作契約書ヲ偽造(行使)スルモ一偽造(行使)罪ナリ(但シ之ニ第五四條又ハ第五五條ヲ誤用スルモ破毀ノ理由トナラス)(大六年一七四頁)

III 想像上併合 第五四條第一項前段

想像上併合即チ罪名ノ競合詳クハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ル、場合ト言フ文書偽造(行使)ニ關スル判例

甲 一行爲ニ依ル異種ノ文書偽造 想像上併合

1 印鑑ト印鑑證明書トハ其性質ヲ異ニス故ニ同一文書ニ於テ此兩者ヲ偽造スルトキハ一行爲ニシテ印鑑ニ關シテハ第一五九條、印鑑證明書ニ關シテハ第一五條ノ二個ノ罪名ニ觸ル(明四三年二二六九頁)○他ノ判例(大八年〇頁)ニ於テ斯ル行爲ハ各別ノ犯罪ヲ構成スト云ヘリ但シ其之ヲ以テ有形ノ併合罪ト認メタルモノナリヤ否ヤ明ナラス

2 一行爲ヲ以テ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ外國渡航許可證ト旅行免狀トニ不實ノ記載ヲ爲サシムル行爲(大七九年八七九頁)

3 偽造申請書ヲ行使シ娼妓名簿ニ不實ノ記載ヲ爲サシムルハ一行爲ニシテ被害法益ヲ異ニスル刑第一五七條第一項ノ罪名ト娼妓取締規則第一三條ノ罪名トニ觸ル(大三年八五〇頁)

乙 多數ノ偽造文書同時ノ行使 想像上併合

1 偽造ノ借用證ト日延證トヲ同時ニ交付シタル事件(明四三年四三三頁)

2 偽造ノ印鑑證明書ト借用證トヲ同時ニ行使シタル事件(明四五年九三四頁)

3 偽造ノ公借證村會決議錄、謄本等ノ行使事件(大三年一〇六頁)

4 數次ニ偽造シタル私文書ヲ一次ニ裁判所ニ提出行使シタル事件(大五年一〇頁)

IV 牽連罪 第五四條第一項後段

甲 同一人ノ文書偽造(變造亦同)ト偽造文書行使

1 文書ヲ偽造シタル者自ラ之ヲ行使シタルトキハ專ラ偽造ノ法條ノミヲ適用スヘシ(記法省回答法曹會一號)

2 偽造ハ行使ヲ待タズ罪ト爲ルト雖モ偽造者自身其偽造文書ヲ行使スルハ一偽造文書行使罪ナリ(明四一年一三〇頁、同一三三頁、同一三八三頁)

○右ノ回答及ヒ判例ノ意見ハ嗣後左ノ如ク變更セリ、後ノ見解ヲ正當トス

1 公正證書作成委任狀ノ偽造行使ト之ヲ手段トシタル公正證書原本不實記載ノ遂行トハ第一五九條第一項、第一五七條第一項、第一五八條第一項、第五四條第一項後段、第一〇條ヲ適用スヘキ一牽連罪(明四二年二九頁、同一三三頁、同一二六頁、同一四四頁、同一二八四頁)

2 他人ノ氏名ヲ詐稱シテ之ヲ記載スル行爲ト公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ遂行スル行爲トハ第一六七條第一項、第一五七條第一項、第一五八條第一項、第五四條第一項後段(明四二年五九七頁、明四四年一六三四頁、比、大三年八七一頁)

3 私文書變造ト其變造私文書行使ヲ手段トシタル横領トハ全部ヲ通シテ一牽連罪(明一四二年一六頁)

4 偽造ハ手段ニシテ行使ハ結果ナリ(明四三年四九頁)

5 不實ノ診斷書ヲ作成提出シテ召集ヲ免ル、亦同シ(明一四三年一七二頁)

V 偽造變造行使牽連罪ノ擬律並ニ時効

1 文書ノ偽造變造カ舊刑法時代ニ其偽造變造文書ノ行使カ刑法時代ニ行ハレタルトキハ第五四條第一項後後段ニ該當スル一牽連罪ナルカ故ニ偽造變造ニ對スル舊刑法ヲ比較スルコトナク專ラ刑法ニ依リ最モ重キ刑ヲ以テ處斷スヘキモノトス(明四二年一〇七頁、同一七三〇頁、明四三年一五五頁、同八七八頁、大七年九〇九頁)

2 數個ノ牽連罪アル場合ト雖モ其全部ニ對シ一回第五四條第一項後段ヲ適用シ最モ重キ刑ヲ以テ處斷スレハ足ルモノトス(明五四年五八頁)

3 時効起算點 同一人ノ文書偽造ト其偽造文書行使トハ一牽連罪ナルカ故ニ其公訴ノ時効ハ行使ヲ終リタル日(刑訴第二二條)ヨリ進行ス(明四二年一〇五三頁)

4 時効完成期間 前掲公訴時効ノ完成期間ハ重キニ從テ處斷スヘキ罪ノ刑ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘク偽造ト行使トヲ各別ニ定ムヘキモノニ非ス(大三年七二頁)

VI 連續罪 第五五條

甲 同一法條内ニ含マルル文書數通ヲ意思ヲ繼續シテ數次ニ偽造又ハ行使スルコト左ノ諸件ノ如キハ何レモ第五五條ニ該當スル一連續罪ナリ

1 借用證書ト領收證ト委任狀トヲ三次ニ偽造(明四三年一〇二六頁)

2 登記申請委任狀ト土地買戻約定書トヲ二次ニ偽造(明四三年一七二六頁)

3 此種連續罪ノ成立ハ其間時ノ接近セル場合ヲ含ム〇生糸代金領收書二通ヲ同日ニ偽造シタル事件(明四四年三四〇頁)

4 電話加入申込書ニ數十回ニ亘リ數十名ノ氏名捺印ヲ偽造シタル事件(明四五年八三頁)

5 公借證及ヒ村會決議錄謄本等ノ偽造事件(大三年一〇六頁)

6 借用證ト抵當權設定登記申請委任狀トノ連續偽造(大五年一〇五頁)

7 同一紙片内ニ於ケル二通ノ文書偽造 妻カ訴訟行為ヲ他人ニ委任スル委任狀ト妻ノ訴訟行為ニ對スル夫ノ許可狀トハ其性質及ヒ效果ヲ異ニシ假令同一紙片ノ前後ニ列記セララルモ各別ノ紙片ニ認メラレタルト同シク別個ノ文書ト謂ハサル可ラス從テ之カ偽造モ亦二個獨立ノ行為ニシテ同一罪名ニ觸ル、連續罪ナリトス(大三年三四八頁)

8 一個ノ偽造印章ヲ押捺シ數次ニ同種ノ文書ヲ偽造スルハ一連續罪ナリ(明四五年五頁)

乙 別個法條内ニ含マル、文書數通例公文書ト私文書ヲ數次ニ偽造(又ハ行使スルハ連續罪ナリヤ)

1 文書ノ種類異ル場合ト雖モ被害法益即チ文書ニ對スル公ノ信用ヲ害スルコトハ同一ナルカ故ニ一連續罪ナリ(大二年一八頁)

2 文書ノ性質ヲ異ニシ適用スヘキ法條同シカラサルカ故ニ連續罪ニ非ス(明四年二四二頁、大二年四三三頁) (比明四年一三三頁)

VII 無形併合罪牽連罪、連續罪ノ競合ニ對スル擬律

1 第五四條ノ第一項前段ト後段ト競合シタル場合ハ先ツ前段ニ依リ最モ重キ刑ヲ定メ次ニ之ヲ後段ノ刑ニ比較シ其重キニ從ツテ處斷スヘシ○告發書ヲ偽造シテ之ヲ當該公務署ニ提出(行使)シ人ヲ誣告シタル場合ニ於テ行使ト誣告トハ第五四條第一項前段ニ之ト其手段タル告發書ノ偽造トハ同後段ニ該當スル事(大五年三八八頁)

2 第五四條ト第五五條ト競合シタル場合ハ同時ニ兩法條ヲ適用シ一罪トシテ處

分スルヲ以テ足レリトシ之ニ順序ヲ立テ各別ニ適用スルノ必要アラス(大一年一五二頁)

其三 共犯

I 共同(實行)正犯

1 他人ノ偽造ニ係ル印鑑證明書タルノ情ヲ知り其他人ト之カ行使ヲ共同スルモ自身偽造ニ關與セサル以上ハ偽造ノ共同正犯タル責ヲ負フコトナシ(明四年一六〇四頁)

2 村長カ其資格ヲ冒用シ職務内ノ文書ヲ偽造スルニ當リ之ニ加功シタル助役ハ村長ト同様ノ身分アルコトナシト雖モ第六五條第一項ニ據リ第一五六條ノ共同正犯ナリ(明四年一六九一頁)

3 文書ヲ偽造シ其偽造文書ヲ行使シテ詐欺取財ヲ爲スハ一牽連罪ナリ故ニ其偽造行使ヲ教唆シタル者カ後ニ偽造文書行使詐欺取財ヲ共同實行スルニ於テハ教唆ハ實行ニ吸收セラレテ全部ニ對スル共同實行正犯ト爲ル(明四年二九二頁)

II 教唆犯

○甲カ乙ニ對シ丙ニ交付行使スヘキ文書ノ偽造行使ヲ教唆シタルニ乙其文書ヲ

偽造シテ丁ニ交付行使シタル場合ハ要素ニ非サル點ノ錯誤アルニ過キサルヲ以テ甲ハ教唆ノ責ヲ免レス(明三四年一〇頁)

III 從犯

○戸籍吏ニ對シテ虚偽ノ届出ヲ爲シ戸籍原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメテ之ヲ行使スルモノニ係ルノ情ヲ知り居村役場ニ於テ届出人ノ依頼ヲ受ケ届書ノ代筆ヲ爲スハ第一五七條第一五八條各第一項ノ從犯ナリ(大八八年七八八頁)

第七節 偽造文書ノ沒收(變造文書亦同)

左ノ説明内ニ於テ罪體ト稱スルハ第一九條第一項第一號犯罪所生品ト稱スルハ同第三號前段ニ該當スルモノヲ謂フ

- 1 文書ノ偽造カ罪ト爲ル場合ノ文書ハ罪體ニ非ス犯罪所生品ナリ(明四三年五五頁) ○偽造ニ係ル印章亦同シ(同上)
- 2 偽造變造文書ノ行使カ罪ト爲ル場合ノ文書ハ罪體ナリ(明四三年四四八頁同二一四頁)
- 3 偽造文書ハ法律カ何人ニ對シテモ之ヲ作成所持所有スルコトヲ許サ、ルモノナルカ故ニ縦令公務署備付ノ文書ト雖モ其偽造ニ係ルモノハ第一九條第一項

第三號前段ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス(明四三年一七〇七頁)

- 4 虚偽ノ申立ニ因リ情ヲ知ラサル公證人カ作成シタル公正證書ノ原本ハ其權限ニ基キテ作成シタル正當ナル文書ナリ第一九條第一項ノ何レニモ該當セス從テ之ヲ沒收スルコトヲ得ス(明四二年二四四頁)

- 5 公務員カ職務内ニ於テ作成シタル文書ト騙取ノ用ニ供セントシタル偽造文書トカ一體不可分ナルトキハ其全部ヲ沒收スヘキモ若シ分割スルコトヲ得ルトキハ前者ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス ○村長カ病院建物拂下願書ヲ作成行使スルニ當リ公共ノ用ニ供スヘキ部分ト騙取セントシタル部分トヲ同時ニ記載シタル事件(大三年三八五頁)

- 6 一通ノ借用證書中保證人ノ署名捺印ノミ眞正其他ハ偽造(大元三年九三八頁) ○土地分筆ニ關スル部分ハ眞正質權拋棄ニ關スル部分ハ偽造(大六年一四八頁) ○抵當權設定登記申請書ハ眞正登記權利者ノ印章署名ハ偽造(大七年九〇〇頁) ナル場合ノ如キハ全部ヲ沒收スヘキモノトス

- 7 偽造文書行使ニ因リ其文書ニ沒收スヘキ理由二種アルトキハ其一ヲ說示スルヲ以テ足レリトス(明四二年一三四七四頁)

第十八章 有價證券偽造ノ罪

其一 有價證券偽造罪 第一六二條

客體 (一)罪ノ客體ハ流通上ニ於ケル特殊ノ信用 (二)行爲ノ客體ハ有價證券

- (1)有價證券トハ其所載ノ權利ヲ行使(處分)スルニ付キ占有ヲ必要トスル證券ヲ謂フ
- (2)第一六二條ニ例示スル公債證書官府ノ證券會社ノ株券及ヒ左記判例ニ舉ケタル證券ノ外
- (3)苟モ權利ノ行使カ證券ノ占有ニ繋リ權利ト證券ト合體シ證券即チ權利ヲ代表スル(明四三年二〇六一頁)モノハ〇社員權債權物權ヲ代表スルト〇無記名式指圖式指名式タルト〇發行者ノ公タルト私タルト〇特定ノ形式ヲ必要トスル手形(商第五條等) 荷物引換證(商第三條以下) 荷物預證券質入證券(商第三條等) 船荷證券(商第六條等)ノ類タルト特定ノ形式ヲ必要トセサル商品切手ノ類タルトヲ分タス均シク有價證券ナリ
- (4)但シ内國ニ於テ發行流通スルモノ、ミニ限ラ(大三年二頁)

法律上外國政府ト認ムヘカラサルオムスク政府ノ國庫債權ヲ掛員ノ署名冒用ノ上行使ノ目的ヲ以テ偽造スルハ第一六二條ノ罪ニ非スシテ第一五九條第一項

ノ罪ナリ(大一年五頁)

判例 ノ有價證券ト認メタルモノ

- 1 小切手(明四二年五五九頁)
- 2 約束手形(明四三年六九九頁)
- 3 荷爲替手形(明四四年七二五頁)
- 4 鐵道乘車券ハ運賃ノ受領證ニ非スシテ一種ノ有價證券ナリ(大三年二二〇二年)
- 5 鐵道無賃乘車券ハ流通性ヲ有セサルモ乘車ニ付キ使用スル目的ヲ以テ發行シタル證券ニシテ權利ノ行使ニ其占有ヲ必要トスルモノナレハ有價證券ニ該當ス(大五年七三六頁)
- 6 電車乘車券モ亦刑法上有價證券ナリ(大四年八三六頁)

比較

- 1 國際證券 明三九年法第三四號國債ニ關スル制第二條 同年大省令第二三號國債規則第四條第五條
- 2 國庫債券 明三七年大省令第一七號第三條 同年第四一號第三條
- 3 大藏省證券 明一七年太布第二四號大藏省證券條例第二條

- 4 勸業債券 明二九年法第八二號日本勸業銀行法第三四條第四一條 勸業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス
- 5 興業債券 明三三年法第七〇號日本興業銀行法第一二條
- 6 貯蓄債券 明三七年法第一八號貯蓄債券法第二條
- 7 整理公債 明三九年第六號國債整理基金特別會計法第五條
- 8 株券 商第一四七條以下

行爲 偽造變造(第一六二)ト虚偽ノ記入(二項)トノ二様アリ

- 偽造變造 ノ觀念ハ文書偽造ニ付テ述ヘタル所ニ同シ (1)他人ノ署名(印章)ヲ偽造シテ手形ヲ振出ス如キハ手形ノ偽造ニシテ (2)他人ノ振出シタル有效ナル手形ノ振出日附支拂期日支拂場所又ハ金額ヲ擅ニ改竄スル如キハ手形ノ變造ナリ
- 1 同一區内ニ於テ同一ノ氏名ヲ有スル者數人アル場合ニ其氏名ヲ冒用シテ約束手形ヲ偽造スルトキハ縱令特ニ其中ノ誰タルカヲ明示セストスルモ該手形ハ人ヲシテ真正ナルモノト誤信セシムルニ足ルカ故ニ有價證券ノ偽造ナリ(明四年三八頁)

- 2 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ振出シタル手形ノ振出日附又ハ受取日附ヲ妄リニ改竄スルハ手形ノ一部ニ不法ナル變更ヲ加フルモノナルカ故ニ假令之ニ因リ振出人又ハ受取人ニ實害ヲ及ホサル場合ト雖モ手形變造罪ナリ(大三年三八頁) 評ニ曰フ此判例ニ示サレタル理論ハ正當ナリト雖モ本件ハ拂渡濟ニ因リ既ニ無效ト爲レル小切手ノ日附ヲ有效ナル如ク改竄シタルモノナルカ故ニ變造ニ非スシテ偽造ナルヘシ
 - 3 株式會社タル銀行ノ取締役又ハ支配人カ銀行ノ業務執行ノ範圍外ニ於テ自己又ハ他人ノ利益ノ爲メ銀行ノ名義ヲ冒用シ約束手形(明四年六五一頁)又ハ小切手(明四年二〇二七頁大三)ヲ振出スハ第一六二條第一項有價證券ノ偽造ナリ○銀行業ニ非サル株式會社ノ取締役カ其業務以外タル贈賄ノ資金ヲ調達スル爲メ會社名義ノ小切手ヲ振出スカ如キ亦同シ有名ナル日糖事件(明四年一〇一三頁)
 - 4 人格ヲ有セサル團體ノ編纂局主幹者タル名義ヲ冒用シテ手形ヲ振出スハ該編纂局員總代即チ他人ノ名義ヲ詐稱シテ作成シタル手形偽造ナリ(明四年八三七頁)
- 虚偽ノ記入 第一六二條第二項ノ所謂虚偽ノ記入ノ内ニ有效ニ成立シタル有價證券ニ不實ノ記載ヲ爲ス場合ヲ含ムコトハ何等ノ疑ヲ容レス他人ノ振出シタ

ル有效ナル手形ニ不實ノ裏書引受又ハ保證ノ記載ヲ爲スノ類ハ其適例ナリ左ノ諸例亦同シ

1 他人ノ氏名ヲ虚構シタル裏書 例ヘハ約束手形ノ振出人カ何等自己ノ支拂ヲ約束シタルコトナキ宛名人ヲ虚構シ其氏名ヲ冒用シテ裏書讓渡ヲ爲スハ第一六二條第一項有價證券ノ偽造ニ非ス第二項虚偽ノ記入ナリ(明四三年九頁、大元四七九頁、大二年七七〇)

2 真正ナル裏書人ノ承諾シタル所ニ非サル金額ノ記入 一ハ金額ノ記入ナキ約束手形ヲ示シ四五千圓ナリト詐リ裏書人ノ署名捺印ヲ得タル後擅ニ壹萬五千圓ト記入シタル事件(明四三年六九七頁) 他ハ同様ノ手段ニ依リ六十圓ノ約束ニ壹千圓ト記入シタル事件(大七三二頁) ○其振出ハ罪ト爲ラス

3 荷物引換證ニ於ケル荷送人ト運送人トカ同一名義ナルトキハ實質上ハ無効ナリト雖モ形式上ハ有效ナル有價證券ナリト認ムルヲ妨ケス而シテ形式上人カ有效ナリト誤信スルニ足ル程度ノ有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲スハ第一六二條第二項ノ罪ナリ(大七三二頁、七三五年)

4 有價證券ノ一種タル荷物引換證カ偽造ノモノニ係ルトキ其偽造ノ情ヲ知ラス若クハ其情ヲ知テ荷受人ニ非サル自己ヲ荷受人トシテ記入スルハ均シク有價證券虚偽記入罪ナリ(大一〇年三四頁)

5 約束手形ニ他人ノ名義ヲ偽造シテ裏書ヲ爲ストキハ縱令其裏書人ノ順位ト宛名人トノ間ノ連續ヲ欠クモノト雖モ人ヲシテ有效ナル裏書ト信セシムルニ足ルニ至レハ第一六二條第二項ノ罪ト爲ル(明四二年七三、七五、七七頁)

6 前示2乃至5其他有價證券ノ要件ヲ具備セサルニ因リ實質上無効ナルモノト雖モ苟モ形式上有效ナリト誤信セラルヘキ程度ノ證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲セハ總テ虚偽記入ノ罪ナリ(明三二年九卷八八頁、明三八年三一、一六頁、明四三年七〇、一頁)

7 直接無形記入 第一六二條第二項ノ規定ハ行使ノ目的ヲ以テスル虚偽ノ記入ヲ既存ノ有價證券ヘ爲スト新ニ作成スル證券ヘ爲スト他人ノ名義ヲ以テ爲スト自己ノ名義ヲ以テ爲ストヲ區別スルコトナシ倉庫業者カ他人ト通謀シ現實ノ寄託ナキニ拘ラス自己ノ名義ヲ以テ玄米四十俵ノ預證券ヲ作成シタルハ該條項ノ罪ナリ(大二年七三頁)

8 間接無形記入 北海道農産物検査所カ検査済ノ證トシテ押用スル記號OKノ存留スル空袋ヘ未タ検査ヲ經サル産物ヲ入レ之ヲ情ヲ知ラサル倉庫業者ニ寄

託シ其手ヲ籍リテ倉荷證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲サシメタル行爲ハ第一六二條第二項ニ該當ス(大〇一〇一年)

9 約束手形ハ滿期日後ト雖モ有效ニ裏書讓渡ヲ爲スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ其裏書ヲ偽造スルハ第一六二條第二項ノ罪ヲ構成ス(明四三年)

10 行使ノ目的ヲ以テ株券ノ相當欄ニ不實ノ拂込金額及ヒ拂込日附ヲ記入シ取締役ノ印ヲ盜用スルハ有價證券虛偽記入罪ナリ(大五三一年)

11 株式會社ノ支配人以外ノ使用人カ取締役ヨリ與ヘラレタル權限外ニ於テ取締役ノ名義ヲ用ヒ手形ノ裏書又ハ引受ヲ爲スハ第一六二條第二項ニ該當ス(大一年一四頁)

12 商店ノ支配人カ自己又ハ他人ノ爲ニ主人ノ氏名又ハ商號若クハ自己ノ代理名義ヲ用ヒテ手形其他ノ文書ヲ作成スルモ苟モ其權限内ニ於テスルトキハ何等ノ罪ヲ構成スルコトナシ〇個人ノ經營ニ係ル銀行ノ營業一切ヲ擔任シタル支配人カ自己ノ爲メ銀行ノ名義ヲ用ヒ小切手ヲ振出シ並ニ爲替取引報告書ヲ作成シタル事件(大五八一年)
故意 偽造、變造、虛偽記入共ニ行使ノ目的ヲ以テシタルコトヲ成罪要件トス

罪狀

其一 併合罪關係

I 結合罪、包括一罪

偽造ニ係ル印章署名ノ使用又ハ真正ナル印章署名ノ不正使用ト有價證券ノ偽造、變造又ハ虛偽ノ記入トヲ併セ犯ス場合ヲ曾テ二罪ト判決セシ例(明三二年三)ア
レト後ニハ一結合罪ト認ムルニ至レリ

1 第一六二條ニハ文書偽造ニ關スル第一五五條、第一五九條各第一項、第二項ノ如キ明文ナシト雖モ其精神上偽造ニ係ル印章署名ヲ使用シ又ハ真正ナル印章署名ヲ不正ニ使用スル行爲ヲ包含スルカ故ニ斯ル行爲アルモ別ニ第一六五條又ハ第一六七條ノ罪ヲ構成スルコトナシ(明四二年六五頁、同八四四頁、明四三年三)ハ第一六二條ノ第二項ハ第一項ノ補充規定ナリ故ニ約束手形(明三四年一〇三七頁)

2 第一六二條ノ第二項ハ第一項ノ補充規定ナリ故ニ約束手形(明三四年一〇三七頁、大四年)又ハ爲替手形(大九四二頁)ニ虛偽ノ記入ヲ爲スト同時ニ他人ノ署名捺印ヲ冒用シテ手形ヲ偽造スル行爲アルトキハ包括シテ第一項ノ一偽造罪ヲ構成スルモノトス

II 牽連罪

1 荷物保管證ハ保管者カ荷主ニ交付スル預リ證ニシテ之カ控ハ保管者ノ保存スル事實證明書ナリ此兩者ヲ偽造スルハ別個ノ罪ナリトス(明四四年七二四頁)

2 情ヲ知ラサル他人ヲ利用シテ貨物引換證ニ虛偽ノ記入ヲ爲サシメ次テ其交付ヲ受ケタル場合ハ前者ハ第一六二條第二項有價證券虛偽記入後者ハ第二四六條第一項財物騙取ニ該當ス(大〇八年一〇三頁)

右二判例中ノ1ニ於テハ其點ニ論及セスト雖モ前後手段結果ノ關係アリ第五四條第一項後段ノ適用ヲ生ス

III 連續罪

○同一ノ意思發動ニ因リ數回手形ヲ偽造シタルトキハ縱令一時ニ之ヲ行使シタル場合ト雖モ其偽造ハ第五五條ニ該當ス(明一四三年一六三頁)

其二 共犯關係

○甲カ其父母ノ名義ヲ冒用シテ約束手形ヲ偽造スル計畫アリ其情ヲ知レル乙カ偽造手形ノ交付ヲ受クル條件ヲ以テ甲ニ金圓ヲ貸與スルコトヲ承諾シ且ツ之ヲ實行シタリトスルモ乙ヲ以テ偽造ノ共同正犯又ハ教唆犯從犯ト爲スコトヲ得ス(明四四年二九四頁) 評ニ曰ク金圓貸與ノ承諾カ偽造ノ決意ヲ生セシメタルカ或ハ

其既ニ有スル決意ヲ獎勵シタルカノ事實ヲ明ニセサルハ不備ノ斷定ナリ

其二 不實ノ有價證券行使交付輸入罪 第一六三條第一項

客體 偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券

行爲 (一)行使ハ有價證券本來ノ效力タル流通ニ置ク行爲ハ固ヨリ不實ノ有價證券ヲ真正ノモノトシテ使用スル一切ノ行爲ヲ包括ス(例金圓支出ノ辯解ノ爲メ觀三頁同年八) (二)交付及ヒ輸入ハ行使ノ目的ヲ以テスルトキニ限リ罪ト爲ル (三)行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付ストハ不實ノ有價證券ヲ行使セシムル意思ヲ以テ其不實ノ情ヲ知レル他人ニ所持ヲ移轉スルヲ謂フ(受交付人行使セシムル止ムモ交)

(四)輸入ノ解第十四章ニ同シ

罪狀 (一)未遂モ亦罪ト爲ル(條第一六三) (二)一人ニ由ル偽造ト行使トハ第五四條第一項後段ニ該當スル牽連罪(明四四年二八二七頁) 比第十七章第六節其二IV

其三 沒收

1 偽造手形ハ偽造罪ノ方面ヨリ觀レハ犯罪所生品(第一九條第三項)ニシテ行使罪ノ方面ヨリ觀レハ罪體(第一九條第一項第一號)ナリ故ニ同一人ニ由リテ犯サレタル偽造行使ノ牽連罪ニ於ケル手形ハ其何レノ理由ヲ以テ沒收處分ヲ爲スモ違法ニ非ス(明四四年二八二七頁)

2 振出人ノ名義ヲ偽造シテ作成シタル約束手形ニ真正ナル裏書アル場合ニ於テハ振出名義人ニハ義務ナシト雖モ裏書人ニハ義務アリ手形所持人之ニ對シ手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得故ニ偽造ニ係ル振出名義(第一九條第一項第三號)ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ト雖モ真正ナル裏書ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス(明四五年一四一六頁)

第十九章 印章偽造ノ罪

客體 (一)罪ノ客體ハ印章署名カ法律上又ハ事實上有スル所ノ特殊ノ信用即チ證據力 (二)行爲ノ客體ハ種類ノ部所掲印署名記號

印ニ印顆ト影蹟トノ別有リ本章所謂印章(重及記號)ハ印顆ヲ指シテ言フカ影蹟ヲ指シテ言フカ (1)印顆ヲ押捺シテ現出シタル影蹟ヲ指シテ言フトスル說 (2)影蹟ノミヲ指シテ言フトスル說(自說) (3)印顆モ影蹟モ各印章ナリトスル說トアリ判例ハ第三說ヲ採用ス左ノ如シ

1 印章偽造ノ中ニハ影蹟ノ現出ノミナラス印顆ノ偽造ヲモ包含ス(明四三年二年〇法記第一號、明四五年四九二頁、大五年一八六〇頁、大一年七三二頁、大五年一八六〇頁)

2 影蹟ヲ表顯セシム可キ物體ヲ不法ニ製作シタル場合ニ限ラス不法ニ其影蹟ヲ表顯セシムル以上ハ其方法如何ヲ問ハス〇被告ノ製作シタル所ニ非サル專賣局五等鹽等級印酷似ノ烙印ヲ押用シタル事件(大三年一八九二頁)

3 描寫ノ手段ニ依リ不法ニ影蹟ヲ表顯スルハ亦偽造ナリ〇朱肉ヲ以テ某銀行印ヲ描出シタル事件(明四三年六七六頁)〇検査員カ合格米ニ押用スルV字ノ象形ヲ染繩ニテ現出シタル事件(大六年九六九頁)

4 印顆ノ偽造ハ刑法ニ所謂印章ノ偽造ナリト雖モ氏名印章ヲ現ハシタル銅板ハ更ニ之ヲ石板ニ轉寫セサレハ之ヲ押捺スルモ影蹟ヲ現ハスコト能ハサルカ故ニ印顆ノ材料ニシテ印顆其モノニ非ス之ヲ製作スルモ印章偽造ニ非ス(大一年四三三頁)

種類

第一種 御璽國璽御名 第一六四條

(1)御璽ハ御傳來ノハ銅材方曲尺二寸七分明治七年御新調ノハ金材方曲尺三寸、文ニ曰ク天皇御璽 (2)國璽ハ金材方曲尺二寸九分文ニ曰ク大日本國璽 (3)御名ハ天皇御署名ノ謂 (4)用式ニ付キ第十七章文書ノ種類第一種中公式令參考

第二種 公務所公務員ノ印章署名 第一六五條

公務所ノ印章ニ付テハ第三種公務所ノ記號ノ説明ヲ見ルヘシ郵便局ノ日附印ニ關シ左ノ判例アリ

1 郵便局ノ日附印ハ郵便局ヲ表示シ郵便物ノ發着日時印紙ノ消印等ヲ證明スルノ用ニ供スル公務所ノ印章ナリ(明四四年)

2 郵便局ノ受附時刻記入ノ日附印ハ單ニ局名ト年月日時ノ文字ノミアリ其印類ハ證明ノ都度年月日時ヲ記載スル勞ヲ省ク爲ノ物品ナリ受附ノ時刻ヲ證明スルノ用ニ供スル公務ノ印章ニ非ス故ニ通信事務員カ職務外ニ於テ該印類ニ相當年月日時アルモノヲ不正ニ使用シ虛偽ノ受領證ヲ作成スルカ如キハ公務所署名不正使用判例偽造ト做セルハ不當公文書偽造トシテ第一五五條第一項ニ問擬スルヲ相當トス(明四三年)

公務員ノ印章ナリヤ否ヤヲ決スルニ付キ曾テハ印類ノ種類ノ職印ナリヤ否ヤヲ以テ其標準ト爲スヘシト云フ判例(明三八年)アリシカ後公文書ヲ作成スルニ當リ之ニ公務員ノ印トシテ使用スル一切ノ印章ヲ包含シ本來ノ性質ノ私印タルト公印タルトヲ區別セス(明四四年)職印ノミニ限ルヘキ理由ナシ(大七年)トスル

ニ至レリ

第三種 公務所ノ記號 第一六六條

第一問 記號現出用物體ハ記號ナリヤ 公務所ノ記號ニ付テモ亦印章ト同シク影蹟ノミヲ謂フカ影蹟ヲ現出スルノ用ニ供スル物體ヲモ併セテ謂フカノ問題アリ判例ハ其双方ヲ含ムト解セリ曰ク

1 検査員カ合格米ニ押用スヘキ記號タルVノ字ノ象形ヲ行使ノ目的ヲ以テ被告カ染繩ヲ用ヒテ包裝ノ上ニ現出シタルハ記號ノ偽造ナリ(重出大六年)

2 縣吏員カ無毒原種用蠶種ニ押用スヘキ無毒ノ文字アル圓形ノ物體ヲ行使ノ目的ヲ以テ被告カ彫刻師ニ彫刻セシメタル行爲ハ第一六六條第一號ニ該當ス(明四五年)

第二問 印章ト記號トノ區別如何 其文字ヲ以テスルモノハ印章ニシテ文字外ノ象形ヲ以テスルモノハ記號ナリトスル說ノ外判例ニハ用途ニ依ツテ區別スヘシトノ見解ト表示方法ニ依テ區別スヘシトノ見解トアリ

甲用途說 其趣旨ニ曰ク刑法カ印章ヲ第一六五條ニ記號ヲ第一六六條ニ規定シタルハ舊刑法ノ第一九五條ト第一九六條トノ區別ヲ襲用シタルモノナリ故ニ

文書ニ押用スルモノハ印章ニシテ產物、商品、書籍、什物等ニ押用スルモノハ(縦令該管公務所ノ名稱ヲ表示スルモノト雖モ)記號ナリト左列諸例ハ此見解ヲ採レリ

- 1 秋田稅務監督局織物査定濟ノ證○商品タル織物ニ押用スルカ故ニ(明四三二頁)
- 2 富山縣三等輸出米検査證稟○產物タル輸出米ニ使用スルカ故ニ公文書ニ非ス記號ナリ(大三二二頁)
- 3 產物、商品、書籍、什物等ニ押用スルハ記號ナリ○私印ニハ私記號ヲモ含ムコトヲ示ス理由ノ中ニ(大三〇〇年二頁)
- 4 合格米検査濟ヲ證スル爲ニ用フルVノ字ノ記號(大七六頁)
- 5 產物ノ一種タル蠶種台紙ノ文字ヲ増減變更シタルトキ之ヲ證明スル爲ノ變更證印(大九八頁)

乙表示方法說 公務所カ自己ヲ事實證明者トシテ表示スル爲メ其公務所ノ名稱ヲ印記スルモノハ其目的カ文書ニ押用スルニアルト產物、商品、書籍、什物等ニ押用スルニアルトヲ分タス共ニ印章ナリ故ニ左記1乃至4ニ舉クル公務所ノ名稱ナキモノハ記號ニシテ其名稱アル5及ヒ6ハ印章ナリ(第四種他人ノ印章署名ニ關スル説明末段比較)

- 1 圓形ノ輪廓内ニ年月日ノ西洋數字ノミヲ現ハシタル稅關日附印(明四三三一年)評ニ曰ク前掲郵便局日附印判例2ノ論鋒ヲ以テスレハ記號ニモ非ストセサル可ラス
- 2 官林拂下ノ場合ニ於ケル拂下豫定木検査濟ノ檢印及ヒ伐採後材木ニ押用スル伐了検査濟ノ檢印(明四三三一年)
- 3 官林ノ立木ニ押用スル檢ノ字又ハ山ノ字ノ極印(明四四二四年)
- 4 森林ノ被害木又ハ拂下豫定木ニ打込ム極印(大六二頁)

註、此判例ニハ前三例ノ如キ公務所ヲ表示スル文字ナキカ故ニ記號ナリトノ理由ハ掲出セラレ居ラス

- 5 青森縣一等米證票即チ表面ニ「青森縣穀物藁工品検査ノ證、等級一等」ト押記シ裏面ニハ圓形輪廓内ニ「青森縣穀物藁工品検査所 10.8.29. 青森本所」ト印記スル同検査所ノ日附印ハ印章ナリ(大四九一年)
- 6 長野縣明治四十二年検査合格證ト印記スル製糸用種検査合格證印亦同シ(明四三二七頁)註、此判例ニハ5ノ如キ公務所名ヲ表示スルカ故ニ印章ナリトノ理由ハ明示セラレ居ラス

比較

- 1 帝國政府又ハ郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手又ハ郵便料金ヲ表彰スヘキ證稟ノ偽造、變造、使用等 明三三年法第五四號郵便法第四八條
 - 2 收入印紙不貼用等 明三二年法第五四號印紙稅法第一一條
 - 3 帝國政府ノ發行スル(收入)印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ノ偽造、變造、使用等 明四三年法第三九號印紙犯罪處罰法第一條乃至第五條
 - 4 印紙模造即チ印紙又ハ印紙金額ヲ表彰スヘキ印章ニ紛ハシキ外觀ヲ有スルモノ、私造 大五年大省令第一八號印紙模造取締規則
- 第四種 他人ノ印章又ハ署名 第一六七條
- 1 他人トハ自己ヲ除ク外其餘ノ自然人又ハ自然人ノ團體若クハ公務所ニ非サル法人ヲ謂フ(明三三〇年三頁)
 - 2 私人ニ關シテハ公務所ニ於ケル如ク印章ト記號トヲ區別セサルカ故ニ私印ノ中ニ含マル例ヘハ私人カ立木ヲ賣拂ヒタル後伐採ノ證トシテ材木ニ打込ム極印ノ如キハ第一六七條ニ所謂他人ノ印章ナリ(大三年二〇頁)
 - 3 署名ノ中ニハ氏ト名トヲ明示スルモノハ固ヨリ (1)單ニ片假名ヲ以テヲカタ

ト氏ノミヲ彰シタルモノ(明七四三年) (2)何々商會又ハ某驛前共同運送店ト云フカ如キ商號(明四三年一四二頁) (3)何屋ト稱スルカ如キ屋號(明四三年一五七八頁) (4)文人墨客畫家等ノ用ユル落款雅號例ヘハ 三島中州(大二年三四三頁) 富岡鐵齋(大二年一八四三頁) 文晁、洞春、梅逸、伊川、玉章、光貞、宗紫、石和亭、榮之、華山、豐彦、大雅堂、兆殿司(大五年一八三九頁)ト云フ名稱ノ如キモ亦之ヲ含ム

要之第一六七條他人ノ印章署名トハ特定ノ人カ自己ヲ表彰スル爲ニ使用スル文字又ハ象形ノ影蹟判例ニテハ之ニ加フルニ其影蹟ヲ現出スルニ要スル文字又ハ象形ヲ刻セル物體即チ印課ヲ謂フ之カ用途ハ必スシモ狹義ノ權利義務事實證明ノ用ニ供スル文書ニ押捺スルモノニ限ラス單ニ其何人ノ作成シタル所ニ係ルカノ事實ヲ示ス書畫ノ落款(前段(4)三)又ハ「秩父絹織物同業組合檢印」ト云フ如キ產物商品等ニ押捺スル印章(大七三二頁)等ヲモ亦之ヲ含ムト解スヘキナリ○他人ノ代書シタル調書ノ中ニ本人ノ押捺シタル拇印モ訴訟法上ノ捺印ニ外ナラス(明四年二二頁)

行爲 印章記號署名ノ偽造、真正ナル印章記號署名不正使用、偽造シタル印章記號署名ノ使用ノ三種

第一種 印章記號署名ノ偽造 第一六四條乃至第一六七條各第一項

(行使ノ目的ヲ以テ)真正ナル印章記號署名ト信セラルル程度ニ自己以外ノ印章記號署名ヲ作出スルコト是即チ其偽造ナリ

第一問 印章記號又ハ署名ニ依リ表示セラルル公務署、公務員、法人、自然人カ實在スル場合ニ限リ罪ト爲ルカ、虛無ナル場合ト雖モ仍ホ罪ト爲ルカ、判例及ヒ一部ノ學說ハ前段、自說ハ後段ノ見解ヲ是認ス

1 死者ノ實印ノ盜用ハ生存中ノ日附ニ於テ使用シタルトキ印影盜用罪ヲ構成ス
(明三六年三八三頁、同年四八頁、
五頁、明四二年一七一八頁、八頁)

2 苟モ實在スル官署ノ印ナリトシテ人ヲ欺クニ足ル可キモノヲ偽造スルトキハ官印偽造罪ヲ構成ス從テ眞印ノ存在スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等影響無シ
○海軍經理部ニ第二課無ク從テ海軍經理部第二課印ト云フ印無キニ拘ラス之ヲ偽造シタル行爲ヲ有罪ト認メタル事件(明三八年二一七頁) 評ニ曰ク此判詞ハ或點マテ虛無人ノ印章偽造罪ヲ認メタルモノト云フコトヲ得

第二問 他人ノ名義ヲ冒用シ之ニ有合印(出亦來合)ヲ押捺スルハ印章偽造ト爲ルカ判例ハ曾テ官印ニ付キ之ヲ否定シ(明三〇年六卷二七頁)後私印ニ付キ之ヲ肯定セリ其

一例左ノ如シ

○通俗ノ觀念ニ於テ有合印ト謂ヘハ自ラ或物體上ニ表現セシメラルヘキ特定ノ人ヲ表識セサル單純ノ文字又ハ符合ノ影蹟ヲ指稱スルモノト解スヘキヲ以テ判示被告等ノ有合印押捺ノ所爲ハ固ヨリ犯罪ヲ構成セサル事實ナリ云云然レトモ原判決ニ於テ被告等ノ有合印押捺ノ所爲ヲ以テ印章偽造罪ニ問擬セルニ徵スレハ原審ハ右有合印ヲ以テ第三者ノ作製ニ係リ被告等ノ手中ニ存在セル或物體ノ上ニ表現セラルヘキ特定ノ人ヲ表識スル文字又ハ符號ノ影蹟ニシテ特定ノ人ノ印章ト誤認スヘキモノヲ指稱スルノ意ナリト解シタルニ非サルヲ得ンヤ果シテ然ラハ行使ノ目的ヲ以テ其影蹟ヲ或物體ノ上ニ顯出セシメタル所爲ハ當然印章偽造罪ヲ以テ之ヲ論スヘキモノトス(大五年一八六二頁)

第三問 實在スル眞印眞記號又ハ眞署名ニ酷似スルコトヲ要スルヤ消極ニ解スルヲ可トス
1 官署ノ印ナリトシテ人ヲ欺クニ足ルヘキモノヲ偽造スルトキハ罪ト爲リ眞物ヲ模擬スルヲ必要トセス(明三三年三卷五一頁) 眞印ノ存在スルヲ必要トセス(明三八年二一七頁)
2 偽造ニ係ル私印カ人ヲシテ眞印ナルコトヲ信セシムヘキ程度ニ偽造セラレタ

ルヲ以テ足り、眞印ニ酷似スルト否トヲ問ハス(明三五年六卷二八頁)
第四問 公務所ノ眞正ナル印章又ハ記號(私印、私記號亦同シ)ニ加工シテ使用スルハ如何ナル罪名ニ觸ル、ヤ

1 年度ノ經過シタルニ因リ既ニ無効トナレル縣廳ノ蠶種製造用ノ臺紙ニ押捺セ
ル「何々縣明治四十二年検査證」印ノ二ノ字ヲ三ニ改描シ四十三度ノ検査合格
證トシテ使用シタルハ正ニ公務所印章ノ偽造使用ナリ(明四四年二八三頁)

2 北海道農産物検査所カ検査ヲ經タル産物ノ包装ノ縫合目ニ押用スルOKノ記號
カ包装ヲ解放チタルニ因リ既ニ分離損壞セラレタル後未タ検査ヲ經サル産物
ヲ詰メ再ヒ之ヲ繼合セ其切斷セル部分ニ青肉ヲ塗布シ眞正ナル記號ノ外觀ヲ
有スル程度ニ連絡セル象形ヲ作成スルハ該公務所記號ノ偽造ナリ(大八年一
二五一年一頁)
但シ單ニ之ヲ接合シタルノミニシテ其上ノ加工ヲ施スコトナク使用スルハ
眞正ナル記號ノ不正使用ニ外ナラス(大一九九年一九九頁)

第二種 眞正ナル印章記號署名ノ不正使用
不正使用ノ場合ニ付キ條文ニ眞正ナルト云フ形容詞ヲ冠セス(第一六四條乃至
前段二項)ト雖モ各該條項後段ニ偽造シタル印章記號又ハ署名ヲ使用シタル場合ヲ

特示スルニ因リ比較上此ク解セサルヘカラス故ニ〇偽造シタル他人ノ印章ヲ押
用シタル行爲ヲ第一六七條第二項ニ所謂不正使用ナリト云ヘル判例(明四四年八
六四頁)ハ
不當ナリ

印章(記號署名)ノ使用トハ何ソヤ (1)證明ノ爲メ其存在ヲ必要又ハ便利トスル物
體ニ充當スルヲ謂フトスル説ト (2)印影ヲ現出シタル物體ヲ行使スルヲ謂フト
スル説ト有リ後説ヲ可トス (3)其物體ヲ現實ニ他人ニ閱覽セシメタルコトハ必
要ニ非スト雖モ少シモ他人ノ閱覽シ得ヘキ状態ニ置キタルコトヲ必要トス(大七
三七年一七
頁三七) (4)自己ノ署名ノ下ニ他人ノ印章ヲ使用スルモ他人印章不正使用罪ヲ構成
スルニ至ラス(大元三年三三六頁)

1 執達吏カ送達證書ニ虛偽ノ記入ヲ爲シ之ニ職印ヲ押捺スルハ公印ノ不正使用
ナリ(明四二年八七五頁)

2 本人カ署名捺印シテ差入レタル契約書ノ餘白ニ其契約書ノ受取人カ擅ニ他ノ
契約事項ヲ記入スルハ即チ眞正ナル他人ノ印章署名ノ不正使用ナリ(明四二年
九〇四頁)

第三種 偽造シタル印章記號署名ノ使用 第一六四條乃至第一六七條各第二
項後段

使用ノ解第二種ニ同シ

故意 (1)總テノ場合ニ行使ノ目的ヲ以テシタルコトヲ要件トス (2)但シ其行使ハ自身之ヲ爲スノ目的ニ出ツルト他ノ特定又ハ不特定ノ者ヲシテ之ヲ爲サシムル目的ニ出ツルト分ツコトナシ(大九年七五八頁)

印章記號又ハ署名カ自己ノ權限又ハ權利ヲ以テ使用スヘカラサルモノタルノ認識アルヲ以テ足レリトシ更ニ其他ノ違法性ノ認識アル事ヲ必要トセス○車體ノ檢印ヲ受クルニ當リ順番ヲ待タス自身勝手ニ檢印ヲ烙記シタル事件(大五年一四二頁)

罪狀

其一 未遂罪

- 1 偽造ノ未遂 罪ト爲ラス
- 2 使用ノ未遂 罪ト爲ル第一六八條

使用ノ意義ヲ行爲ノ部第二種ノ説明ノ如ク解スレハ印章記號又ハ署名ヲ充當シタル文書其他ノ物件ヲ行使(提示、交付)シタルトキハ印章記號又ハ署名ノ使用ノ既遂 文書其他ノ物件ヲ行使セントシテ遂ケサルトキハ其未遂ト爲ル

其二 併合罪關係

1 真正ナル印章(記號、署名)ノ不正使用又ハ偽造ニ係ル印章(記號、署名)ノ使用ト文書偽造トハ結合罪ナリ(文書偽造、罪狀)○故ニ第一六七條及ヒ前三條第二項ノ使用ハ他ノ犯罪中ニ包含セラル、コトナク獨立シテ一ノ犯罪ヲ構成スル場合ノミニ該當ス(明五年六)

2 同一犯人ニ由ル印章(記號、署名)ノ偽造ト其使用トハ第一六四條乃至第一六七條ノ各第一項ト第二項トノ牽連罪(第五四條第一項後段)ナリ(明四年九四頁)

事實證明ノ文書内ニハ作成者ノ名ヲ署セス之ニ伴フ記載欄又ハ封筒差出人相當個所ニ作成者ノ署名ヲ偽造スルコト左例ノ如キ場合ハ第一五九條第三項、第一六七條第五四條第一項後段ニ該當スル牽連罪ナリ

1 電信賴信紙發信人住所氏名欄ニ他人ノ名義ヲ偽造シ賴信文ニハ其氏名ヲ明示セサル場合(明四年七六四頁)

2 虛偽ノ事實ヲ記載シタル告訴狀内ニハ氏名ヲ署セス之ヲ發送スル封筒差出人ノ個所ニ署名ヲ偽造スル場合(明四年三八頁)

其三 共犯

公務署記號不正使用事件 官林監守甲カ立木拂下ノ許可ヲ受ケタル乙丙ノ請

託ヲ容レ其中ノ乙ニ伐採豫定木檢印及ヒ伐了檢印ヲ貸與シ乙ハ之ヲ豫定外ノ立木ニ押捺シタル場合ハ丙ハ教唆甲乙ハ記號不正使用ノ實行正犯ナリ明四三年一四三一年頁

第二十章 偽證ノ罪

概念 法律ニ因リ證人トシテ裁判所其他ノ公務署ヨリ呼出テ受ケタル者ハ出頭宣誓陳述ヲ爲ス義務有ルヲ通則ト爲シ(鑑定人ハ出頭宣誓鑑定通事ハ出頭別ニ法律上出頭ノ義務宣誓ノ義務又ハ陳述ノ義務ヲ免スヘキ事由ヲ區別ス此區別ノ下ニ於テ宣誓陳述ヲ爲スヘキ者ハ更ニ眞實ノ陳述ヲ爲ス可キ義務ヲ有ス偽證罪ハ即チ其眞實ヲ陳述ス可キ義務ニ違背スル罪ナリ若シ夫レ正當ノ理由無ク出頭ノ義務ニ違背スル者(民訴第二九四條)宣誓ヲ拒ム者(民訴第三〇九條)陳述ヲ肯セサル者(民訴第三一〇條)ニ至リテハ訴訟等法ニ基キ一定ノ秩序罰(民訴罰金、刑訴過料)ヲ受クムキモノトス

第一 偽證罪 第一六九條

主體 法律ニ依リ宣誓シタル證人ニ係ルコトヲ要ス (1) 刑法ニ在リテハ主トシテ通常裁判所ニ於ケル證人ヲ指稱スト雖モ特別法ニ特別ノ規定ヲ設ケタル(會例)

計検査官懲戒法第九五條○第三四條○行政裁判所長官評定官懲戒令第一八條、第三〇條○持許法第六七條、第九五條○意匠法第二七條○商標法第二一條第二六條○實用新案法第二〇條第二五條○海員懲戒公務署ヲ除ク外其餘證人ニ宣誓ヲ命シ訊問ヲ爲ス法第四七條等ハ何レモ專條有リ) 公務署ヲ除ク外其餘證人ニ宣誓ヲ命シ訊問ヲ爲ス權限ヲ有スル一切ノ公務署(會例軍法)ニ於ケル證人ヲ包括ス (2) 該證人ハ法律ニ依リ宣誓シタル者ニ係ルコトヲ要ス左ノ問題有リ

第一問 手續ノ違法ナル訴訟ニ於テ(宣誓ヲ經タル證人ノ)偽證ハ罪ト爲ルカ左記判例ノ如キ區別ヲ設クルヲ相當トス

1 被告事件ノ起訴ニシテ不法ノ點有リトスルモ苟モ證人トシテ訊問ヲ受クルニ際シ不實ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ構成ス○重禁錮六月以下ノ輕罪事件ニ付キ地方裁判所檢事局ヨリ區裁判所檢事局ニ移付ノ手續ヲ爲ササルヲ起訴シタル事件(明三三年五卷九頁)

2 手續ノ無効ナルニ基キ無効ナル豫審處分中ノ偽證ハ罪ト爲ラス○豫審請求書ニ當該檢事ノ契印ヲ缺キ舊刑訴第二〇條第一項(現第七一條)ニ依リ起訴ノ效無キ豫審處分中ノ事件(明三四年一八頁)

3 公判手續ニ違法ノ廉有リテ其公判ノ無効ヲ來スコトアルモ偽證罪ノ成立ヲ妨クス○舊刑訴第二一八條第二項(現第三四五條)ニ基ク檢事ノ陳述ヲ聽カスシテ

直ニ被告人、證人ヲ訊問シタル事件(明四七三年頁)

第二問 資格無キ者證人トシテ宣誓ノ上虚偽ノ陳述ヲ爲シタルハ罪ト爲ルカ
左記判例、積極現第一九五條、第一八六條

1 舊刑訴第一二一條ニ依リ第一二三條ニ該當スル者ナルヤ否ヤヲ問ハサリシ事
件(明四九一年
四九九頁)

2 五等親關係有ル者宣誓偽證ノ件(明四二二年
八一頁)

3 民訴第二九八條第三號ニ該當シ同第三一〇條第四號ニ依リ參考人トシテ訊問
ス可キ者宣誓偽證ノ件(明四二二年
一五〇二頁)

4 曩ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シ民訴第三〇八條ニ基ク偽證ノ罰ノ諭示
ヲ爲サス宣誓證言セシメタル事件(明四二二年
一五七五頁)

5 民訴第二九八條等ノ訊問ヲ經サリシ事件(明四三年
一五八七頁)

6 保證人トシテ訴訟關係ニ表明セラレタル者カ民訴第三一〇條ニ違ヒ宣誓偽證
シタル事件(大四年
一九九頁)

第三問 虚偽ノ陳述後宣誓シタル場合モ亦罪ト爲ルカ自説判例 積極(比民訴
一六條二、大元年
一〇五頁)

第四問 宣誓ヲ用ヒス訊問セラレタル者カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ハ如何

第一六九條偽證罪ト爲ラサルハ勿論第一〇四條證據湮滅ノ規定ニモ該當セス(大
九年八四
九頁)

客體 (1) 罪ノ客體ハ宣誓ニ基ク陳述ノ信用ナリ當事者ノ利益並ニ裁判ノ正鵠
ニ非ス(明行爲ノ説
比較)

(2) 行爲ノ客體ハ陳述ヲ聽取スル當該公務員
行爲 虚偽ノ陳述ヲ爲スルコト是ナリ (1) 虚偽ノ陳述トハ證人カ實在セサル
記憶ヲ構造シ又ハ實在スル記憶ヲ掩蔽シ若クハ之ヲ變更シタル答辯ヲ謂フ (2)

全部ノ掩蔽即チ默秘ニ相當スル行爲ハ陳述ヲ肯セサル者(民訴第三一〇二條)ニシテ
偽證ニ非ス (3) 一部ノ掩蔽ハ陳述ノ全部又ハ他ノ一部ニ虚偽ノ性質ヲ與フルヤ

否ヤニ因リ偽證ト爲リ爲ラサルヲ區別ス (4) 證人ハ其記憶ニ存スル過去ノ見聞
ヲ陳述スルヲ本務トス然レトモ訊問ニ應シ其記憶ヲ綜合シタル意見ヲ陳述スル

コトヲ妨ケススル場合ニ虚偽ノ意見ヲ陳述スルハ亦偽證ナリ(大正二二年
四二五頁) (5) 反
之諮問ニ應シ現在ノ實驗ニ基キテ表示スル opinion ハ鑑定ナリ(明四三年
一八三五頁)

第一問 虚偽ノ陳述カ裁判ノ結果ニ影響ヲ及ホス虞有ルコトヲ必要トスルヤ
判例 1 積極 2 以下消極

- 1 不實ノ陳述カ偽證罪ト爲ルハ裁判ヲ誤ラシムル虞アルヲ以テナリ被告ノ爲シタル不實ノ陳述ハ本案窃盜被告事件ノ判斷ニ影響ヲ及ホスヘキ事實ニ關スルカ故ニ偽證罪ヲ構成ス(明四一五年一五七頁)
- 2 地代値上ノ通告後借地人ヨリ値上前ノ地代ヲ提供シタルニ證人ニ於テ支拂ヲ怠レタト陳述シタル事件(明四〇年一九四頁)
- 3 刑事事件ノ被告人ニ對スル無罪ノ判決確定後其事件ニ於ケル偽證ヲ罰スル理由中(明四二年五二五頁)
- 4 買戻條件附ノ山林及立木ノ賣買ニシテ登記ヲ經タルモノヲ無條件ノ賣買ナリト偽證シ登記ノ對抗力ヲ害セサルカ故ニ裁判ニ影響セスト主張シタル事件(明三一年一八頁) 同趣旨(明四三年〇四四頁)
- 5 親ニ認知ヲ請求スル權利無キ私生子ニ關シ其出生ノ事實ヲ記憶セスト偽證シタル事件(明四四年四三頁)
- 6 某額ノ金圓ヲ受取リタルヤ否ヤニ付キ偽證シタルモノ其點ハ本案刑事被告ノ裁判ニ影響セスト主張シタル事件○説明最詳(大二年八四八頁)
- 7 主要ナル事實關係タルヲ必要トセス○訊問ニ係ル借用證書ハ郵送シタルモノ

ナルニ拘ラス自身持參セリト偽ハレル事件(大三年一〇七六頁)

8 證人カ公證人役場ニ至リタルコトナク又某ノ人違ナキコトノ證人ト爲リタルコト無シト詐稱シタル事實ハ本案民事事件ノ判決ニ影響ヲ及ホスコトナカリシトスルモ警察犯處罰令第二條第廿一號ノ違反ニ非ス偽證罪ナリ(大二年九五六頁)

第二問 真正ノ事實ヲ認識セスシテ虛偽ノ陳述ヲ爲スモ亦罪ト爲ルカ自說判例 積極(大二年八九頁)

第三問 見聞セリト詐稱シタル事實カ偶然事實ニ適合シタル場合ニ於テモ亦罪ト爲ルカ自說判例 積極(明三五年八卷二七頁、明四二年七三七頁、明四四年一七八二頁、大三年六五七頁、〇鑑定亦同、明四二年一七九五頁)

第四問 自己ノ犯罪ニ關係スル事實ニ付キ證人トシテ虛偽ノ陳述ヲ爲スハ罪ト爲ルカ自說判例 積極(明四四年一六二頁、明四四年一五一頁)

故意 陳述カ過去ニ於ケル自己ノ見聞ト異ルコトノ認識有ルヲ以テ足り(大五年七頁六) (1) 別ニ其目的カ刑事被告ヲ曲庇スルニ在ルト陷害スルニ在ルト民事ノ原告又ハ被告ヲ利スルニ在ルト害スルニ在ルト(明四二年二六頁、同一三) (2) 單ニ自己ノ外聞ヲ虛飾スルニ在ルトヲ區別セス (3) 又陳述カ現實ニ刑事被告人ヲ曲庇又ハ陷害スルモノタルヲ知ルコトモ必要ニ非ス(明四二年一三八頁)

罪狀

甲 未遂既遂

(1) 偽證ノ未遂狀態ハ存在スルコトヲ得ト雖モ之ヲ罪トスル規定無シ (2) 陳述ノ訂正ヲ許ス時期ニ於テ訂正スレハ罪ト爲ラス證人訊問終結前ハ之ヲ訂正スルコトヲ得虛偽ノ陳述ヲ訂正セス訊問終結スルトキハ其時ヲ以テ既遂ト爲ル

乙 併合罪關係

- 1 同一被告事件ニ於テ同一被告ヲ曲庇スル爲メ數個ノ事實ニ付キ虛偽ノ陳述ヲ爲スハ一偽證罪(大四年二頁)
- 2 教唆者ハ正犯ニ準シ之ト同一ノ罪責ヲ負擔スヘキモノトス故ニ數次ニ數人ヲ教唆シタル場合ハ固ヨリ縱令一次ニ之ヲ爲スモ數人ヲシテ數個ノ偽證罪ヲ犯サシメタルトキハ正犯ノ犯シタル數ト同一ナル偽證ノ併合罪ヲ構成シ一連續罪又ハ包括一罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス(大五年一、二頁、同一年一、三頁、大六年四、九、六頁)
- 3 一次ノ教唆ニ因リ其特定セサル數人ノ教唆者ヲ出タシタル場合亦前例ニ同シ(大六年一、五頁)
- 4 一個ノ教唆行爲ニ依リ數個ノ虛偽鑑定ヲ爲サシメタル場合ハ一虛偽鑑定教唆

罪ヲ構成スルニ止マリ各虛偽ノ鑑定毎ニ別個ノ虛偽鑑定教唆罪ヲ構成スルモノニ非ス(明四年一、六頁)

- 5 數人共謀シ詐欺取財ヲ犯ス爲メ虛偽ノ事實ニ基キ民事訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テ其中ノ一人カ目的ヲ達スル手段トシテ偽證ヲ爲シタルトキハ詐欺未遂ト偽證トノ牽連罪(第五四條第一項後段)ナリ(大五年四、五、八頁)
- 6 一個ノ詐欺取財遂行ノ爲メ二人ヲ各別ニ教唆偽證セシムルハ詐欺ト偽證トノ牽連罪ナリト雖モ偽證教唆ハ連續罪ニ非ス(大正一、二年二、五頁)
- 7 人ヲ誣告シ其被誣告人カ刑事被告人トシテ取調ヲ受クルニ當リ誣告ノ趣旨ヲ維持スル爲メ證人トシテ虛偽ノ陳述ヲ爲スハ別個ノ二罪ナリ(大元年一、三、七頁) 自說牽連罪

丙 教唆罪

偽證教唆罪ニ關シ屬々問題トセララル所ハ刑事被告人カ自己ヲ曲庇セシムル爲メ他人ニ囑託シテ有利ナル偽證ヲ爲サシメタルトキ本罪ヲ構成スルヤ否ヤノ點ニ在リ判例一貫シテ積極ニ解シ來レリ亦爾アラサル可ラス(明四年一、一、六、一、〇、八、六、三、四、三、五、三、〇、頁、同一年一、九、一、頁、大三年一、三、二、五、頁、大六年八、五、〇、頁)

甲カ乙ヲ教唆シ更ニ之ヲシテ丙ヲ教唆セシメテ丙カ偽證ヲ實行シタル場合ニ
甲ニ偽證教唆ノ責アリヤ判例ニ於テハ明文ヲ缺ク舊刑法ニ付テモ之ヲ積極ニ解
セリ(明四一年一五四頁、明四二年一八三頁)刑法ニ於テハ第六一條第二項ノ明文アリ疑ヲ生セ
ス尙左例ヲ比較スヘシ

1 右ニ掲クルト同一ノ場合ニ於テ甲ノ罪ヲ罰スルニハ丙カ處罰セラレタルコト
ヲ以テ必要條件ト爲サス(明四四年一三頁)

2 偽證教唆罪ノ成立スルニハ教唆ノ當時被教唆者カ證人トシテ取調ヲ受クヘキ
地位ニ存ルコトヲ必要トセス○未タ公訴ノ提起セラレサル前ニ於テ將來ノ偽
證ヲ囑託シタル事件(大八年九〇頁)

3 自己ト從兄弟ノ間柄ナルニ因リ宣誓能力ナキ者ト雖モ之ヲ教唆シテ偽證セシ
メタルトキハ偽證教唆ノ責ヲ免レス(明四二年一七四頁)○而シテ此種ノ者ニ資格ヲ詐
ハリ宣誓スヘキ旨ヲ教唆スルコトハ該教唆罪ノ成立要件ニ非ス(大七八年一四七三頁)

偽證ノ際陳述スヘキ虛偽ノ事實ヲ具體的ニ指示スルコトナク單ニ概括的ニ諷
示シタル場合ト雖モ教唆罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ(大三年一三頁)

5 教唆者ノ指示シタル所ト些細ナル相違アルニ過キササルコト例ハ陳述ニ係ル

證書ノ日附カ指示シタル所ト異ルカ如キ(大五年三二頁)又ハ陳述中指定セラレタル
所ヨリ見聞シタリト詐稱スル人又ハ物ノ數ヲ誇大シタルカ如キ(大一年五七一頁)亦同
シ

6 甲カ詐欺ノ目的ヲ以テ虛偽ノ事實ニ基キ乙ニ對シテ民事訴訟ヲ提起シタルト
キ甲カ自己ノ利益ノ爲メ丙ヲ教唆シテ偽證セシメタルトキハ縱令甲ハ刑第二
五一條第二四四條ニ因リ乙ニ對スル詐欺ノ刑ヲ免除セラルヘキ間柄ニ在リテ
モ甲ノ丙ニ對スル偽證教唆罪ノ責ハ之ヲ免ルルコトヲ得ス(大二年八三二頁)

其二 偽證罪ノ自白ニ基ク刑ノ減免 第一七〇條

偽證ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタ
ルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得 (1) 自白ハ廣義ナリ狹義ノ自白ト及
ヒ自首トヲ包括ス(明四二年八〇二頁) (2) 自白ニ基ク刑ノ免除ハ罪有ルコトヲ認メタルモ
ノナリ之ニ對シ被告人ハ上訴ヲ爲スコトヲ得(大三年八五五頁) (3) 訊問終結前ノ訂正ハ
右ニ所謂自白ニ非ス且ツ訂正ヲ爲セハ犯罪ヲ構成セス (4) 減輕又ハ免除ヲ與フ
ヘキヤ否ヤヲ決スル理由トシテハ自白其モノ、情狀ノ外更ニ進ンテ其偽證ヲ犯
スニ至レル徑路ヲ斟酌スルコトヲ妨クス(大三年三三四頁) (5) 同一證人カ第二審ニ於テ

第一審裁判確定前ニ爲シタル自白ヲ覆スモ第一審ニ於ケル自白減免ノ適用ヲ妨クルコトナシ(大八四年九號)

其三 虚偽鑑定通譯罪 第一七一條

犯罪ノ構成及ヒ自白ニ基ク減免總テ偽證ノ例ニ同シ

第二十一章 誣告ノ罪

客體 (1)罪ノ客體ハ刑事又ハ懲戒ノ處分ノ動機ト爲ル可キ申告ノ信用ナリ其

官廳又ハ官吏ノ事務若クハ個人ノ名譽ニ害ヲ及ホシ或ハ害ヲ及ホス虞ヲ生スル

ハ間接ノ結果ニ過キス (2)行爲ノ客體ハ申告ヲ受クル官廳又ハ官吏及ヒ申告ノ

内ニ指定セラレタル各人

行爲 人ニ對スル刑事又ハ懲戒ノ處分ノ動機ト爲ル可キ虚偽ノ申告ヲ爲スコ

ト是ナリ其要件左ノ如シ

第一 申告ヲ爲スコトヲ要件トス (1)申告トハ該管公務署又ハ公務員ヲシテ

某事實ヲ知悉セシムヘキ行爲ヲ謂フ (2)口頭ニ依ルト書面ニ依ルト書面ニ依ル

場合ニ署名有ルト匿名ナルト自己ノ名ヲ署スルト他人ノ名ヲ署スルト凡ソ申告

ノ方法及ヒ形式ノ如何ハ誣告罪ノ成否ニ關係スルコトナシ(明四年一三九頁、大八

九年八〇

第二 右ノ申告ハ人ニ對スル刑事又ハ懲戒ノ處分ノ動機ト爲ルヘキモノニ係ルコトヲ要件トス其結果

甲 人ヲ特定スルコトヲ要ス (1)人ハ現ニ存スル自然人及ヒ刑事處分ノ動機

ト爲ル可キ法人ヲ包括ス(法人ニハ懲戒) (2)但シ之ヲ明示スルト暗示スルトヲ區

別スルコトナシ (3)死者又ハ假設ノ人物ヲ材料ト爲シ若クハ人ヲ特定セサルト

キハ警犯令第二條二一

乙 或ハ刑事處分ノ動機ト爲ル可キ申告ニ係ルコトヲ要ス (1)刑事處分ト曰

フハ刑ノ言渡ト曰フニ比シ其範圍遙ニ廣シ故ニ有罪ノ嫌疑ノ下ニ捜査ヲ開始セ

シム可キ程度ノ申告ヲ爲スニ於テハ實際捜査ヲ開始スルヲ待タス(大二年二〇一

八三)且ツ取調ノ結果無責任能力ノ故ニ因リ無罪ヲ言渡サルヘキ幼者狂者ヲ指定

シタル場合ト雖モ誣告罪ハ成立ス可シ (2)告訴又ハ告發ニ係ル事項カ有罪科刑

ノ要件ヲ具備セサル場合(明四年七五九頁) (3)告訴狀カ法律上ノ要件ヲ具備セ

サル場合(明四年四〇年) (4)刑法ニ所謂告訴又ハ告發ノ形式ニ依ラス單ニ情報ヲ送

致スル場合亦同シ、丁ニ舉タル判例比較 (5) 死者ニ對シテ本罪成立スルヤ否ヤハ議論ノ岐ルル所ナリ消極ニ解スルヲ可トス甲ノ (3) 及ヒ故意ノ説明比較

丙 或ハ懲戒處分ノ動機ト爲ル可キ申告ニ係ルコトヲ要ス (1) 文官ニ付テハ職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタル事實、武官ニ付テハ軍事上ノ定則ニ違ヒ又ハ紀律ヲ害シタル事實ヲ指摘スルハ固ヨリ (2) 單ニ文官ニ就テハ官職上ノ威信ヲ失フヘキ事實、武官ニ就テハ風紀ヲ紊リタル事實ヲ指摘スルモ仍ホ懲戒處分ノ動機ト爲ル可シ(例、文官懲戒令第二條、陸軍懲戒令第一條、海軍懲戒令第九條等)

丁 處分ノ動機ト爲ルヘキコトヲ要件ト爲スカ故ニ申告ハ之ヲ乙ノ場合ハ刑事上搜查權丙ノ場合ハ公務員監督權有ル公務署若クハ其補助機關ニ對シテ爲スコトヲ要件トス

1 告訴狀ヲ警察署ニ提出シ司法警察官ニ不實ノ申告ヲ爲シタル以上ハ檢事ニ到達セサル以前誣告罪完成ス(大二年三六七頁)

2 搜查權ヲ有スル官吏又ハ其補助機關タル吏員(例、巡查)ニ申告ヲ爲スヲ以テ足り起訴權有ル官廳ニ到達スルコトヲ要セス(明四一年九三〇一頁、大二年九三〇一頁)

3 告訴狀カ當該搜查官署ニ到達シ搜查官吏ノ閱覽シ得ヘキ状態ニ措カルレハ捜

查ニ着手スルヲ待タス云云(大三年二四年八〇六頁、大一年四年八〇六頁)

4 懲戒處分ノ爲メノ誣告ハ必スシモ本屬長官ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ要セス監督權有ル上官ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル〇監督判事又ハ地方裁判所長ニ向ヒ區裁判所書記ニ對スル誣告ヲ爲スノ類(明四五年四六二頁)

5 官吏ノ服務規律違背ヲ具申シ本屬長官ノ懲戒處分ヲ促ス職權ヲ有スル監督者ニ對シテ爲スヲ以テ足ル〇鐵道踏切番ノ事ヲ保線區主任ニ誣告シタル事件(大九年七六頁、同性質、大四年二七五頁)

6 苟モ處分ヲ誘發又ハ促進スルニ足ル程度ノ申告タルニ於テハ(大四年一三九四頁、大九年一三九四頁)〇犯罪ノ日時場所構成要件ヲ具體的ニ舉示セス(大七九年六七七頁)〇處分ヲ求ムル意思ヲ明示セス(大八年八九〇頁)〇選舉ニ關シテ收賄セリト誣告シタル多數選舉人中選舉權無キ者ヲ加ヘ(大七七年七七七頁)〇收賄ノ誣告ニ贈賄者ヲ指定セサル(大一年一〇一年)如キ何レモ誣告罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非スト雖モ〇事實ヲ捕捉スヘカラサル抽象的ノ申告ハ此限ニ在ラス(大四年九四九頁)

第三 申告ハ虛偽ニ係ルコトヲ要件トス (1) 全然虛偽ニ係ル場合ハ固ヨリ針小棒大ノ申告モ亦誣告ナリ (2) 處分ノ動機ト爲ル可キ材料真實ニシテ申告人ノ

名義ノミヲ詐リタル文書ヲ作成行使スルトキハ文書偽造行使ノ範圍ニ入ル
 故意 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テスルコトヲ要件
 トス (1)立法論トスレハ人ヲシテノ四字ヲ削リ受ケシムル目的ヲ以テノ十字ヲ
 改メテ爲サシム可キノ六字ト爲シ申告ノ信用ヲ保障スル純客觀主義ヲ採ラサル
 可ラス (2)然ルニ現行法ハ犯人ノ目的ヲ明揭シタル結果刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ
 受ケシメントシテ指定シタル自然人又ハ法人ノ現存スルコトヲ要ス現存セサル
 人ヲ材料ト爲シ斯ル目的ヲ以テ行動スル理無ケレハナリ故ニ死者又ハ假設ノ人
 物ヲ舉示シ若クハ人ヲ特定セサル場合ニハ本罪成立セス (3)又處分ヲ受ケシム
 ル目的ト云フ辭アル爲ニ處分ヲ求ムルノ意ナク惡戯又ハ復讐ノ動機等ニ出ツル
 場合ヲ含マサルカ如シト雖モ處分ヲ受クルコトアルヘキノ認識アルヲ以テ足レ
 ラトシ(大四年)敢テ之ヲ希望スルコトヲ必要トセスト解セラル○復讐ノ爲メ連帶
 借用者ヲ指シテ證書ヲ偽造セリト誣告シタル事件(大〇一四年)
 違法性 被告人ノ承諾ハ違法性ヲ阻却セス○借金踏倒シノ一策トシテ相手
 方ト協議ノ上誣告シタル事件(大元七年一)
 罪狀

甲 未遂既遂

(1)未遂ハ罪ト爲ラス (2)申告ヲ了スレハ刑事ニ付テハ公判又ハ豫審ハ固ヨリ
 未タ搜查處分ニ着手セザルトキモ既遂ト爲リ懲戒ニ付テハ手續ヲ開始スルヲ待
 タス既遂ト爲ル行爲ノ部丁所掲判例比較 (3)誣告ノ書狀ヲ發送シ其未タ該算公
 務署又ハ公務員ニ到達セザル間ハ罪ト爲ラサル未遂狀態(明四三年一) (4)到達ス
 レハ既遂(大四年れ)

乙 併合罪關係

(1)一次ノ誣告ニ依リ數人ヲ陷害スルハ判例上舊法ニテハ純數罪(明三四年六卷
 〇年一二五頁、明四)現行法ニテハ第五四條第一項前段一行爲數個罪名ニ觸ル、モ
 ノ(明四三年七五八頁、明四四年) (2)數個ノ事實ヲ舉クルモ一次ノ誣告(例、一通ノ告誣
 出頭陳)ニ依リ一人ヲ陷害セントシタルハ一罪(明三七年一、二五頁、明四三年九七三
 三〇大二年) (3)同一誣告事項ヲ記載シタル書面數通ヲ異リタル搜查官吏ニ送致ス
 ルハ一次ニ發送スル場合モ連續罪(明四四年一) (4)數人ニ對シ日時ヲ異ニシ數次
 ニ同一事項ノ誣告ヲ爲スハ各人ニ對シテハ各一罪(明四〇年一) (5)曩ニ誣告シタ
 ル事項ニ付キ後ニ證人トシテ偽造ヲ爲スハ二罪(大元七年一) 自說牽連罪 (6)同一

人ニ對シ同一事實ヲ數次反覆誣告スルハ誣告ノ内容ヲ増大スルコトナシト雖モ第五五條連續罪ナリ(明四三年二〇四八頁) (7) 私信ヲ偽造行使シテ人ヲ誣告スルトキハ第五四條第一項前段ノ適用ヲ生ス(大八一年八頁)

丙 共犯

數人通謀シテ一人ヲ誣告スル場合ハ文書ノ作成又ハ其發送ノ事ニ干與セザリシ者ト雖モ仍ホ共同正犯ナリ(明四三年八八八頁)

處分 (1) 誣告ノ刑ハ第一六九條偽證ノ刑ニ同シ (2) 裁判確定前又ハ懲戒處分前誣告犯人自白シタルトキハ刑ヲ減免スルコトヲ得(第一七三條)

第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

其一 公然ノ猥褻行為罪 第一七四條

(1) 公然トハ不定又ハ現實ノ多數人ヨリ見聞セラル可キ状態ヲ謂フ (2) 本罪ハ其公然タルノ故ニ因リ罪ト爲ルモノトス (3) 警犯令第三條二比較

其二 猥褻ノ文書、圖畫、物件頒布販賣公然陳列爲販賣所持罪 第一七五條比較

一、出版法第一九條、第二〇條、第二七條、第二八條 二、新聞紙法第二三條、第二八條

1 非賣品タル出版物ト雖モ種類及ヒ員數ノ不定ナル多數ヲ觀覽スヘキ狀況ニ在ルトキハ公然ノ陳列ナリ(法會決明四四年第一號)

2 風俗ヲ壞亂スル文書、圖畫ヲ自ラ印刷シテ發賣、頒布又ハ所持スル行為ハ出版法第二七條ニ依リ處斷スヘク刑第一七五條ヲ適用スヘキニ非ス(大四年一、九七八頁)

3 販賣トハ不定(自說又ハ特定)ノ多衆ニ對シテ爲スノ目的ニ出テタル有價讓渡ヲ謂フ故ニ斯ル目的ヲ以テシタルトキハ止タ一人ニ對シ一回ノ讓渡ヲ爲シタル場合ト雖モ第一七五條ニ所謂販賣ナリ(大六年四九〇頁)

4 豫メ發行、配布シタル切符ヲ持參シタルモノハ何人ヲモ入場セシムル方法ニ依リ猥褻ノ活動寫真ヲ映寫シ之ヲ觀覽セシメタルハ第一七五條公然猥褻ノ圖畫ヲ陳列シタルモノニ該當ス(橫地裁大五年五月一〇日判)

其三 強行猥褻罪、必然強行猥褻罪 第一七六條

(1) 強行猥褻罪トハ十三歲以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行為ヲ爲ス罪、第一七六條前段ヲ謂ヒ (2) 必然強行猥褻罪トハ十三歲未滿ノ男女ニ對シ猥褻ノ行為ヲ爲ス罪、第一七六條後段ヲ謂フ (3) 年齡ハ出生ノ日ヨリ起算ス(明三年法第五〇號民第一四四五條準用) (4) 十三歲以上ハ滿十三歲ノ者及ヒ之ヲ超エタル者ヲ含ムノ意ナ

- 1 或ル夫婦ヲ強要シ之ヲシテ其寢室ニ於テ交接セシメタル場合ニ於テ強要者ヲ除ク外其他ノ者其個所ニ在ラサレハ第二二三條ノ罪ト爲ルハ格別第一七六條ニ該當スルモノニ非ス(刑大六〇年大邸刑控六三一號)
 - 2 婦女カ數名ノ男子ニ押倒サレ居ルニ乗シ指ヲ其×部ニ挿入スルカ如キハ其行爲自體ニ於テ暴行ニ依ル猥褻罪ヲ構成シ其以外別ニ暴行又ハ脅迫ヲ用ヒタルコトヲ必要トセス(大七一三年七五一頁)
 - 3 臥床ニ横ハレル婦女ヲ其意ニ反シテ抱擁シ手ヲ×部ニ觸ル、行爲ハ其用ヒタル力ノ強弱ヲ問ハス第一七六條ノ罪ナリ(大七一三年七五一頁)
 - 4 十三歳未滿ノ男女ニ對スル猥褻罪又ハ姦淫罪ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テセサル場合(大二年一五七頁)並ニ承諾ヲ經テ犯シタル場合(大八年五九八頁)ト雖モ之ヲ強行猥褻罪ト爲ス
 - 5 若シ公然此種ノ罪ヲ犯ストキハ第一七六條第一七四條第五四條第一項前段ノ適用ヲ生ス(明四三年一〇一五頁)
- 其四 強姦罪必然強姦罪

- (1) 強姦罪トハ十三歳以上ノ婦女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ姦淫ヲ爲ス罪第一七七條前段ヲ謂ヒ
 - (2) 必然強姦罪トハ十三歳未滿ノ婦女ヲ姦淫スル罪第一七七條後段ヲ謂フ比較前示判例(4)
 - (3) 具體的ノ說示ヲ要セス(大二年一〇一五頁)
- 第一七七條ニ所謂姦淫ハ異性ノ肉交ヲ指シテ言ヒ第一七六條ニ所謂猥褻ノ行爲ハ姦淫ノ目的ニ出ツルコトヲナク其他ニ於テ性慾ニ關スル公序良俗ニ反スル一切ノ行爲ヲ指シテ言フ故ニ猥褻ノ行爲ニシテ姦淫ノ目的ニ出ツルモノハ第一七七條ノ着手中ニ包含セラレ別ニ又第一七六條ニ觸ルルモノニ非ス(大三年一五七三頁)之ニ異ル判例(明四五年四五頁)ハ失當ナリ
- 其五 準強行猥褻罪、準強姦罪 其一七八條
- 刑法カ暴行脅迫ト同視シタル状態ニ於テ犯ス所ノ猥褻罪ヲ準強行猥褻罪ト謂ヒ姦淫罪ヲ準強姦罪ト謂フ其状態ニ二種アリ、一ハ被害者ノ心神喪失他ハ被害者ノ抗拒不能是ナリ而シテ斯ル状態ニ乗シテ犯ス場合ニ更ニ二種ノ區別アリ
- 一ハ犯人ノ惹起シタル所ニ非サル被害者ノ心神喪失又ハ抗拒不能ニ乗スル場合第一七八條前段ト
- (2) 他ハ犯人ノ惹起シタル所ニ係ル被害者ノ心神喪失又ハ抗拒不能ニ乗スル場合第一七八條後段ト是ナリ
- (3) 若シ夫レ其心神喪失又ハ抗拒

不能ノ状態カ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルニ基因スルモノナランカ第一七八條ヲ援用スルコトナク直ニ第一七六條又ハ第一七七條ニ問擬スヘキモノトス。

其六 未遂罪 第一七九條

第一七六條乃至第一七八條ノ未遂ハ罪ト爲ル

其七 親告罪 第一八〇條

第一七六條乃至第一七八條ノ罪及ヒ其未遂罪ハ告訴ヲ以テ訴訟條件ト爲ス親告罪ナリ

1 他人ノ誘導ニ基ク告訴ト雖モ加害行爲ヲ當該官署ニ申告スル眞意ニ出テタルモノハ告訴トシテ有效ナリ(七〇四年頁)

2 強姦ノ被害者ニシテ且無能力ナル者ト其法定代理人タル親權者トハ各獨立シテ告訴權ヲ有ス故ニ起訴前ニ其双方ヨリ告訴シタルトキハ起訴後親權者ノミ告訴ヲ取下クルモ仍ホ本人ノ告訴殘存スルカ故ニ訴訟條件ニ缺クル所ナシ(大三〇九年二頁)

3 猥褻罪又ハ姦淫罪ノ告訴ハ法定代理人カ被害本人ノ名ヲ以テスルモ自己ノ名ヲ以テスルモ共ニ有效ナリ(大四年頁)

其八 因猥褻姦淫致死傷罪 第一八一條

1 第一八一條ニ掲クル所ノ死傷ニ付テハ (1)故意又ハ過失ニ出テタルコトヲ以テ要件ト爲サス(明四年七頁) (2)若シ故意ニ出テタルトキハ致死傷ト故殺、故傷トノ二個ノ罪名ニ觸ル(大四年九頁)

2 強姦ヲ犯シ因テ麻毒ヲ感染セシムルハ強姦致傷罪舊刑第三五一條、刑第一八一條(明四年三六頁)

3 刑法ニ所謂傷害トハ身體ノ現状ヲ不良ニ變更スルノ謂ニシテ必スシモ其組織ヲ物質的ニ破毀スルコトヲ要セス原審判示ノ腔口哆開並ニ周圍發赤ヲ生セシメタル行爲ハ何レモ身體ノ現状ヲ不良ニ變更シタルモノニシテ猥褻行爲ノ結果ナルカ故ニ正ニ第一八一條ニ該當ス○酒氣ニ乘シ十三歳未滿ノ男女ニ交接ノ狀ヲ爲サシメ加之指ヲ女子ノ腔口ニ挿入シ前記傷害ヲ致シタル事件(明四年四一頁)

4 處女膜ノ裂傷ハ傷害ナリ(明四年四二頁)○毛髮鬚髯、爪端ヲ切斷スルト異リ生活機能ニ障碍ヲ與フルヲ以テ傷害ナリ(大三年九頁)○當然第一七七條ニ含マルルモノニ非スシテ第一八一條ニ該當ス(大九年九頁)

- 5 猥褻行為又ハ姦淫ノ未遂タル場合ト雖モ因テ死傷ニ致シタルトキハ第一八一
條ノ既遂ナリ(大二年頁)
- 6 婦女ノ睡眠中抗拒不能ニ乘シ姦淫ノ目的ヲ以テ指テ其×部ニ挿入シテ負傷セ
シメ而モ姦淫ノ目的ヲ達セザリシ場合ハ被害者ノ身體ヲ抑制スル爲メ暴行ヲ
手段トシタルモノニ非サルヲ以テ第一七七條ニ觸ル、コトナク單ニ第一七八
條及ヒ第一八一條ニ該當スルモノトス(大一年七頁)
- 7 第一八一條ニ所謂死傷ハ猥褻行為又ハ姦淫自體ヨリ生シタルモノハ固ヨリ其
手段タル暴行又ハ脅迫ヨリ生シタルモノ(大四年一八九三頁)○及ヒ既ニ犯シテ
逃走ヲ容易ニスル手段ヨリ生シタルモノモ共ニ之ヲ含ムモノトス(明四四年一頁)
- 8 第一八一條ノ罪ハ既遂又ハ未遂ノ猥褻行為又ハ姦淫ト致死傷トノ結合シタル
一獨立罪ナリ故ニ致死傷ノ場合ニハ別ニ第一七六條乃至第一七九條ヲ援用ス
ルコトヲ要セス(明四四年一七一四頁)
- 9 第一七六條ノ猥褻行為ニ因ル致傷ト第一七七條ノ姦淫ニ因ル致傷トハ共ニ第
一八一條ニ該當スル同性質ノ犯罪ナルカ故ニ同一意思ノ發動ニ基キ同一人ニ
對シ第一八一條ノ罪ト第一七六條又ハ第一七七條後段ノ罪トヲ犯スハ一連續

罪(第五條)ナリ(大三年一四一四二頁)○其別人ニ對スル場合亦同シ(大八年〇〇頁)○自說後ノ
場合ハ二罪

10 甲乙共謀シ丙ヲ強姦スルニ當リ甲カ暴力ヲ以テ丙ノ身體ヲ抑壓スルニ乘シ乙
カ姦淫ヲ遂ケタル場合ハ乙ニ對シ第一七八條ヲ援用スルコトナク甲乙兩人ヲ
直ニ第一七七條ニ問擬スヘキモノトス(明四〇年一三三頁)○而シテ甲カ之カ爲ニ丙ニ股
間ニ負ハシメタル數個ノ擦過傷ニ付テハ乙モ亦其責ヲ免ルヘキモノニ非ス(明
大八年三九三頁、同總旨
大八年れ八二八頁)

11 第一八一條ノ罪ハ親告罪ニ非ス(明四四年一三三三頁)
○強姦ニ付テ提起シタル公訴ノ中ニハ強姦ニ因テ致シタル死傷ノ結果モ亦之ヲ
含ムカ故ニ強姦ノ告訴アリタル事件ニ付キ死傷ノ事實ヲ審判スルモ之ヲ以テ
訴ヲ受ケサル事實ノ審判ナリト云フコトヲ得ス(明四一年一五八五頁)

其九 勸誘婦女姦淫罪 第一八二條

第一 營利ノ目的ヲ以テスルコト 即チ財産上ノ利益ヲ取得スル意圖ニ出ツ
ルコトヲ要件トス其營業又ハ常習ニ係ルト否トヲ區別スルコト無シ

第二 淫行ノ常習無キ婦女ニ對スルコト ヲ要件トス (1)故ニ賣春婦ニ對ス

ル行爲ハ警犯令第一條二同第四條ニ觸ルルコト有ルヘキモ本罪ニ觸ルルコト無シ
(2) 賣春婦ニ對スルニ非ストスルモ淑徳ヲ顧慮セサル素行ノ婦女ニ對スル場
合亦之ヲ含マス (3) 未成年ノ男子ニ亂行ヲ勸誘スル行爲ヲ罪トスル立法例尠カ
ラスト雖モ我第一八二條ハ之ヲ含マス

1 十三歳ニ滿タサル婦女ト雖モ事實上淫行ノ常習アル者ニ係ルトキハ之ヲ勸誘
シテ姦淫ヲ遂ケシムルモ第一八二條ノ罪ニ非スシテ警犯令第一條第二號ノ違
反ナリ(大八年號)

2 其淫行ノ常習ナキ者ニ對スルトキハ十二歳未滿タルト以上タルトヲ分タス第
一八二條ノ範圍ナリ(大三元七頁)

第三 淫行ヲ勸誘スルコトヲ要件トス勸誘ハ教唆ノ外既ニ存スル決意ノ助
勢ヲモ含ム

第四 姦淫セシメタルトキ既遂ト爲ル

其十 有夫姦(姦通)罪 第一八三條

第一八三條ニ所謂有夫ノ婦ハ民法施行後ハ民法ニ依リ民法施行前ハ當時ノ法
令又ハ習慣ニ依リ有效ナル夫ノ存在スル婦女ナリ(比明三九年)俗ニ内縁ノ妻ト稱

スルモノヲ含マス

同第二項ニ所謂縱容ハ事前ニ於ケル犯罪ノ許可ト事後ニ於ケル告訴權ノ拋棄
トヲ含ム

營利ノ目的ヲ以テ本婦ノ姦通ヲ教唆又ハ縱容シタル夫ヲ罰スル立法例アリ風
紀上必要ナリト信ス

1 意思ヲ繼續シテ會合ヲ重ヌルハ一連續姦通罪ナリ(大六年一)

2 姦通罪ハ親告罪ナリ本夫ノ告訴ヲ以テ訴訟條件トス訴訟條件ハ處罰條件ニ非
サルヲ以テ其具備シタルコトヲ判決理由中ニ證據ヲ擧クテ説明スルノ要ナシ
(大七一年)

3 夫カ妻ノ姦通ヲ告訴スルハ其權利ナリ之ヲ以テ妻ニ對スル重大ナル侮辱ト爲
スコトヲ得ス(大四年東地裁)

4 妻カ姦通シタル場合ニ夫カ之ヲ毆打スルカ如キハ人情ノ常ナリ之ヲ以テ直ニ
同居ニ堪エサル虐待ト爲スコトヲ得ス(上同)

5 甲ナル有夫ノ婦カ乙及ヒ丙ト姦通シタルニ因リ本夫ノ告訴ニ基キ兩罪ヲ併合
シテ審理スルニ當リ本夫カ乙ニ對スル告訴ヲ取下タルモ其利益ハ丙ニ及ハサ

ルモノトス(大七七年)

- 6 妻ノ提出シタル強姦被害ノ告訴狀ニ夫カ連署シタルトキハ爾來單純ナル姦通罪トシテ審理スルニ付キ夫ノ告訴アリタリト做スヲ妨ケス(大九四年一頁)
- 7 夫ハ妻ヲ離別シタル後ト雖モ前ニ犯シタル姦通ヲ告訴スル權利アリ(大九九年九頁)
- 8 姦通ノ如キ親告罪ニ付キ上告審ニ於テ告訴ノ取下アリタルトキハ上訴ヲ爲ササル相姦者(共同被告人)ニ對シテモ亦原判決ヲ破毀シ直ニ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス(明四三年三七頁、同八九年二頁)
- 9 姦通、窃盜、文書偽造行爲ヲ併合罪トシテ處斷シタル判決ノ上告中姦通ニ關スル告訴ノ取下アリタルトキハ上告裁判所ニ於テ原判決全部ヲ破毀シ姦通罪ニ付テハ免訴ノ言渡ヲ爲シ窃盜及ヒ文書偽造行使ニ付テハ更ニ相當ノ判決ヲ爲スヘキモノトス(大三年一頁、六〇〇頁)
- 10 姦夫ハ本夫ニ慰藉料ヲ支拂フ義務アリ(明三四年一頁、三三二頁)
- 11 姦婦ノ承諾ハ姦夫ノ住宅侵入行爲ノ違法性ヲ阻却セス(大七一年一頁、五〇八頁)
- 21 告訴ノ拋棄ニハ法定ノ形式ナシ故ニ夫カ妻ノ姦通ヲ覺知シ一旦實家ニ歸ラシメ更ニ之ヲ引取リテ同居同衾シタル事實ヲ以テ本夫ノ告訴拋棄ト認ムヘキヤ

否ヤハ一ニ事實ノ認定ニ因ル(大四年一頁、二二八一頁)

其十一 重婚罪 第一八四條

配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキ(民第七六六條)既遂ト爲リ同棲シタル事實アルコトヲ要セス

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第一種 單純賭博罪 第一八五條

賭博トハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲スヲ謂フ

第一 偶然ノ輸贏ニ關シトハ當事者ノ確知セサル事實又ハ自由ニ其結果ヲ支配シ得サル事實ヲ以テ勝敗ノ根據ト爲スノ謂ナリ (1) 必スシモ未來ノ事實ニ係ルコトヲ要セス (2) 必スシモ客觀的ニ不確定ナル事實ニ係ルコトヲ要セス (3) 當事者カ自由ニ其結果ヲ支配シ得サル鬪雞(大九一年三頁、三七九頁)ヲヤン拳(大九二年一頁)ノ類ヲ初メトシ (4) 圍碁、撞球、其他各種ノ技倆ヲ戰ハセテ勝敗ヲ決スル行爲ト雖モ運命ヲ逆睹スヘカラサル状態ニ在ルモノハ偶然ノ輸贏ナリ(明四四年一八〇頁、同六頁) (5) 多數當事者ノ中一人ノミカ勝者トナリ一人ノミカ敗者トナリ中間

ノ者ハ勝敗ナシト定ムル駒揚カリノ類モ其全員ニ對スル偶然ノ輸贏ナリ(大三年八頁)

若シ自己又ハ自己ノ通謀者ノミニ有利ナル特殊ノ方法(例ヨシト稱スル骨牌博奕ニ於テソク^〇札^〇五^〇年)ヲ用ヒ若クハ確知セル事實又ハ懸隔セル技倆ヲ隱蔽シ的確ナル勝利ヲ得ルハ賭博ニ非スシテ詐欺取財ナリ其相手方ハ賭博ノ共犯ニ非スシテ詐欺取財ノ被害者ナリ〇然レトモ詐欺賭博即チ詐欺取財ノ犯人カ相手方ヲシテ詐欺手段ヲ用ヒタルニ非サルコトヲ信セシメンカ爲メ引續キ普通手段ヲ用ヒテ賭博ヲ爲シタルトキ相手方カ之ニ加ハレハ其行爲ハ賭博ト爲ル(大一年六五頁)

第二 財物ヲ以テトハ有體財産ヲ得喪スル約束ヲ爲スヲ謂フ (1) 動産不動産ヲ分タス (2) 數額ヲ確定シ置クコトヲ要件ト爲サス(明四年三〇頁) (3) 金錢ニ見積リ得ルコト、交換價格有ルコトモ亦必要ニ非スト雖モ (4) 有體財物ト解スル以上ハ勞力ヲ賭スルノ類ヲ含マスト做ササルヲ得ス
物ヲ賭スト雖モ一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭スルニ過キサルトキハ罪ト爲ラス(第一八五條但書)故ニ (1) 地、時及ヒ人ノ事情ヲ綜合シ風紀ヲ紊ルニ至ラサル程度

ニ於テ現場ニ於テ消費スル飲食物ヲ賭シ又ハ其飲食物ニ對スル代金ノ全部若クハ一部ヲ讓出提供スルノ類ハ罪ト爲ラス(大四年二〇九頁) (2) 觀劇ノ費用ハ一時ノ娛樂用ニ非スト云ヘル例アリ(大一年二月二日) (3) 數額ノ輕少ナル一事ヲ以テ娛樂用ト速斷スルコトヲ得ス(大三年九〇頁) (比九四五年)

代金又ハ費用ニ非サル金錢ヲ賭シタル場合ニ對シ第一八五條但書ノ適用アリ

1 金錢ト雖モ一時ノ娛樂ニ供スル物ト認ムルコトヲ得ル場合アリ(大三年二九〇頁九)

2 金錢ハ其性質上一時ノ娛樂ニ供セラルモノニ非ス從テ賭シタル金錢ノ多少ハ賭博罪ノ成立ニ消長ナシ〇判詞ニ數額ヲ明示セサル金錢ヲ賭シ秋田花ヲ引キタル事件(大一年四頁)〇賭財ハ罪體(第一九條第一項)ナリ(大三年五九六頁、大一年三〇三頁) 闘雞賭博ニ用フル雞ノ貸賃ハ同第三號後段所得物(大一年四一五頁)

第三 博戲又ハ賭事ヲ爲スコトヲ要件トス兩者ノ區別ニ付キ (1) 主觀的標準說ハ當事者カ偶然ノ出事來ニ基キ利益ヲ獲ル目的ニ出ツル場合ヲ博戲ト做シ各自ノ主張ヲ強ムル爲メ條件附ニ利益ヲ授受スル場合ヲ賭事ト做シ (2) 客觀的

標準説ハ當事者自身又ハ其代人ノ動作ニ依テ勝敗ヲ決スル場合ヲ博戯ト做シ、他人ノ動作又ハ人爲外ノ事實ニ依テ勝敗ヲ決スル場合ヲ賭事ト做シ、(3)亦全ク兩者ノ間ニ區別ナシトスル説アリ、(4)按スルニ博戯ハ邦語ノパクチ賭事ハカケゴトノ漢字タルニ過キスシテ其意義ハ或ハ主觀説ニ合シ或ハ客觀説ニ合シ明確ナル區別存セサルノミナラス同一條項内ノ同一罪ニ關スル行爲ナルカ故ニ深ク之ヲ爭フノ實益ナシ、(5)チーパニーニ付キ富籤ノ説明比較

罪狀

甲 未遂既遂

賭博罪ハ前掲第一及ヒ第二ノ要件ヲ備ヘタル博戯又ハ賭事ヲ爲シタルトキ既遂ト爲ル故ニ左ニ掲クル場合ハ總テ未遂ニ非スシテ既遂ナリ

1 錯誤ニ因リ勝敗ノ決セサル場合○空米相場ニ於テ買ト賣トノ誤記アリシ事件 (大三年 八六〇頁)

2 障碍ニ因リ勝敗ヲ決スルニ至ラサル場合○花札ヲ五人ニ分ク二人落チ三人ニテ之ヲ弄シ居ルトキ取押ヘラレタル事件 (大六年一頁) ○ムシ札四十枚ヲ分チ今ヤ大阪ムシ略稱ムシト稱スル賭錢博奕ヲ爲サントスル所ヲ取押ヘラレタル事件

(大一年 三八九頁) ○鬪雞無勝負 (大二年 二九八頁)

3 勝敗ノ決セサルコトアルヘキ方法ニ依ル場合○張方ヨリ手仕舞ノ申込ヲ爲ササレハ勝敗ノ決セサル米穀又ハ株式ノ空相場 (明四年 八七三頁)

4 勝敗ヲ決スヘキ事實ノ到來セサル場合○空米相場ヲ爲シタルモ相場ノ騰落ナカリシ事件 (明四年 九五八頁) ○地方ニ於テ薄敷ト稱スル株式ノ空相場ヲ爲ス爲メボンキ即チ證據金ノ納入ヲ爲シタルモ東京取引所ノ相場ノ入電ナカリシ事件 (大二年 七四六頁)

5 未タ賭財ヲ授受セサル場合○端相場ニ買又ハ賣ノ申込ヲ爲シ未タ證據金ヲ提供セサリシ事件 (明五年 九七五頁) ○十八ト稱スル骨牌博奕ヲ爲シ未タ現金ノ授受ヲ爲ササリシ事件 (大一年 二頁)

乙 併合罪關係

1 舊新刑法時代ニ跨ル一連續賭博罪ハ新刑法ニ依テ處斷スヘキモノナルカ故ニ現行犯タルコトヲ成立要件ト爲サス (明四年 一八二頁)

2 時所ヲ同クシテ賭博ヲ爲ス場合ハ時々相手方カ變更スルモ仍ホ一罪ナ (大五年 頁八)

丙 共犯關係

1 五人一座トナリ俗稱馬鹿花ト稱スル骨牌博奕ヲ爲スニ當リ手ノ惡ルキ爲メ二人ハ落チ三人ニテ實行スル際取押ヘラレタル場合ニ於テ其落チタル二人ハ亦共犯ナリ(大六一年一頁)

2 賭博ノ現場ニ於テ財物ヲ賭シ勝敗ヲ争フ者ハ固ヨリ其外勝者ニハ一定ノ支拂ヲ爲スヘキ約束ヲ以テ博戲ヲ行フ者モ亦共犯ナリ(五六一年一頁)

判詞

賭博ノ方法及ヒ其名稱ハ頗ル多種多樣ナルカ故ニ裁判上顯著ナラサル事實ニ付キ左記ノ如キ判詞ヲ用フルハ理由不備ノ缺點アルヲ免レス

1 單ニ財物ヲ賭シテ モノドハキ及ヒカブ(大三一年一頁) シツピン(大五年一頁) チツ(大八一年一頁) ヲ爲セリト云フノ類

2 反之 金錢ヲ賭シ骨牌ヲ使用シテイレタト名クル博戲ヲ爲シ(三〇八年一頁) 金錢ヲ賭シ骰子及ヒ骨牌ヲ使用シテサイホソビキヲ爲シ(大八年一頁) 金錢ヲ賭シ骨牌博奕タル押ヘタヲ爲シ(大一年二頁) 骰子ヲ其用法ニ從テ使用シ金錢ヲ賭シテ狐チヨボヲ行ヘリ(大一年二頁)ト云フノ類ハ更ニ進ンテ骰子又ハ骨牌ノ使用方法ヲ詳

述スルコトナシトスルモ以テ理由不備ノ判詞ト做スヘキニ非ス

3 眞實賣買取引ヲ爲ス意思ナク米穀取引所ノ立會相場ニ依リ差金ノ授受ヲ爲ス薄張(一名薄敷)及ヒ合百並ニ骨子五個ヲ使用シ出目ノ如何ニ依リ勝敗ヲ決スル天賽賭博ハ共ニ裁判上顯著ナル事實司法省調査課編司法資料定型アル犯罪ノ調査賭博論島本得一著取引所法令ト通語ニ屬スルヲ以テ前示程度以上其方法ニ付キ證據ニ基ク説明ヲ爲スコトヲ要セス(大〇一年一頁)

4 賽廻シ(骰子三個ヲ使用シ親カ之ヲ振り其目ノ數カカビリ(七十二、十七)ハチ(三八、十三)シク(四、九、十四)トヲ(五、十、十五)トナレハ子ノ勝トナリトナリ(六、十一、十六)トナレハ親ノ勝トナル博戲ニ供シタル金錢ハ罪體ニシテ犯罪用具ニ非スト雖モ第一九條ヲ適用シテ沒收シタル以上ハ上告破毀ノ理由トナラス(三九一年一頁)

比較

甲、取引所法(明三二年法第五號追加)

第二六條ノ二 取引所ニ依ラスシテ定期取引ト同一若ハ類似ノ取引ヲ目的トスル市場ヲ開キ又ハ其ノ市場ニ於テ取引ヲ爲スコトヲ得ス(第三一條五千圓以下ノ罰金)

第三二條ノ五 取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
取引所法第三二條ノ五ハ大正三年追加セラレタル所ニシテ其以前ニ在リテハ斯ル行爲ハ刑法ノ賭博ニ該當セシモノトス(明四五年九五六頁)

1 取引所法第二六條ノ二ハ取引所外即チ禁止ノ場所ニ於テ眞ノ取引ヲ爲ス者ヲ罰シ同第三二條ノ五ハ眞實ノ取引ヲ爲サスシテ差金ノ授受ヲ爲ス賭博ノ一種ヲ罰スルモノナリ(大七一年三七六頁)

2 取引所ノ相場ニ依ラス單ニ事實上行ハルル株式現物市場ノ相場ヲ標準トシテ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ハ取引所法第三二條ノ五ノ罪ニ非スシテ刑第一八五條ノ賭博罪ナリ(大七一年八七一頁)

乙 舊商法破産編(明三二年法第三二號)

第一〇五一條 破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキハ過怠破産ノ刑ニ處ス

第一 一身又ハ一家ノ過分ナル費用博奕空取引又ハ不相應ノ射利ニ因リ貸方財産ヲ甚シク減少シ若クハ過分ノ債務ヲ負ヒタルトキ

○法律又ハ習慣ニ因リ空取引等別個ノ名稱ヲ有スル行爲ト雖モ刑第一八五條ノ要件ヲ備フルモノハ賭博ナリ(大元九年三〇九頁)但シ大正三年後取引所法第三二條ノ五ニ該當スルモノハ此限ニ非ス

犯地

1 帝國ニ在ル締盟國ノ大使館又ハ公使館ノ構内ハ帝國ノ一部ナリ故ニ該構内ニ於テ犯シタル賭博罪ニハ帝國ノ刑法ヲ適用ス(大七年五三三頁)

2 帝國ノ領事裁判權ノ行ハルル天津租界内ニ於テ犯シタル賭博罪ハ刑第二條乃至第四條ニ擧ケサル所ナリト雖モ之ニ對シテ帝國刑法ノ適用アリ(大七二年一七七頁)

第二種 常習賭博罪 第一八六條第一項

右條項ノ所謂常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處スニ該當スルニハ

第一 博戲又ハ賭事ヲ爲シタルコト ヲ要件トス博戲及ヒ賭事ノ解前條ニ同シ

第二 常習トシテ之ヲ爲シタルコト ヲ要件トス賭博ノ常習トハ數次賭博ヲ反覆シ其習癖ト爲レル事實ヲ謂フ故ニ (1)其嗜好ヲ有スルコト顯著ナリトス

ルモ僅ニ一次賭博ヲ爲シタルニ過キサレハ之ヲ指シテ常習者ト言フ事ヲ得ス
 (大三年四六六頁) (2) 數次反覆スト雖モ常習ト認ムヘカラサル者ハ若シ第五五條ノ要件
 ヲ備フレハ一連續賭博罪ナリ(大三年三〇三頁) (3) 常習者ト認ムルニ付キ前ニ數回賭博
 罪ノ確定判決ヲ受ケタルコトアルヲ要件ト爲サス(大三年九三六頁) (4) 前ニ賭博罪ノ刑
 ヲ受ケタルコトアルノ一事ヲ以テ當然常習者ナリト斷定スルコト能ハサルト同
 時ニ之ヲ以テ常習者ナリト斷定スル證據ノ一ト爲スヲ妨ケス(大三年二四六頁、同
 頁七二) (5) 前科其他ノ事實ニ據リ習癖アリト做スヘキ者ニ係ルトキハ 其後僅ニ
 一二回賭博ヲ爲シタル者(大三年五三七頁) 累犯加重ノ期間ヲ經過シタル後犯シタル者
 (大二年七五四頁) 一定ノ正業ヲ有シ(大二年九五四頁) 賭博ヲ以テ常業職業ト爲ス博徒ニ非ツ
 ル者(大三年四六八頁、大二年七八七頁)ト雖モ亦常習賭博者ナリ (6) 同一意思ノ發動ニ
 因リ之ヲ反覆スルコトヲ要件ト爲サス(大二年一九二頁) (7) 必スシモ既往ニ於テ賭博ヲ
 累行シタル事實アルコトヲ要セス現ニ賭博行爲ヲ累次反覆シタル本案ノ事實ニ
 徴シテ之ヲ認定スルコトヲ妨ケス(大二年二七七頁) (8) 取引所法第三二條ノ五ノ行爲ハ
 賭博ナリ故ニ第一八五條ノ特別規定ニシテ若シ其常習アル者ハ專ラ第一八六條
 第一項ニ該當ス(大三年三七五頁)

- 1 數回賭博ヲ反覆シ常習ト爲レルコトヲ證示シタルトキハ特ニ意思ノ連續シタ
 ルコトヲ舉示セスシテ常習賭博者ナリト判定スルモ理由不備ト做スコトヲ得
 ス(大六年一六六頁五)
- 2 常習賭博罪ト爲ルニハ累次賭博ヲ反覆シ因テ習癖トナレルコトヲ發現スルヲ
 以テ足り各別ノ意思ニ基ク行爲ヲ反覆シタルコトヲ要件ト爲サス故ニ其點ヲ
 舉示セサル判決ヲ以テ理由不備ト做スコトヲ得ス〇三日間數次狐源兵衛ヲ實
 行シタル事件(大一年三〇頁年)
- 3 前科ヲ以テ常習ト認定スル材料ト爲シ而モ其前科ヲ認メタル資料ヲ舉示セザ
 ルハ理由不備ナリ(大四年四〇四頁四)
- 4 單ニ巡查ノ作成シタル 風聞記錄(大三年九〇〇頁) 素行調書(大三年九三四頁大
 五年八頁) 皆有名ナル賭博常習者ナリト云ヘル報告書(大三年二〇三頁) ノミヲ採テ斷
 罪ノ用ニ供スルハ理由不備ナリ
- 5 「晝夜二回金錢ヲ賭シ骨子並ニ金錢代表ノ紙札ヲ使用シ俗ニ三粒ト稱スル賭博
 ヲ常習ト爲シ」トノミ云ヘル判詞ハ常習賭博罪ノ成立ヲ認ムル理由トシテハ不
 備ナリ(大一年八二頁年) 方法複雜賭金多額數日續行シタルハ常習ナリ(大一年七六頁年)

罪狀

甲 未遂

本罪ノ未遂狀態ハ單純賭博ノ既遂罪ナリ

乙 併合罪關係

常習者カ反覆スル賭博ハ前後ヲ集合シテ一常習賭博ナル加重罪ト爲ル故ニ

- (1) 連續犯ニ關スル第五五條ノ適用ナシ(大四年九頁、同八年八頁、明四年三頁、同六年六頁、大一年一三頁)
- (2) 別個獨立ノ意思ヲ以テ犯シタル場合ト雖モ併合罪ニ非ス(大三年三一頁)

丙 累犯加重

前ニ常習賭博罪ニ因リ懲役ニ處セラレタル者其後累ネテ賭博罪ヲ犯シタルト

キハ第五六條ノ適用アルカ自説判例積極(大七年八五〇頁、同八年一四頁)

丁 共犯關係

常習ト云フ事實ハ賭博者ノ身分ニ基ク加重要件ニシテ別種獨立罪ノ構成要件ニ非ス故ニ甲乙丙ノ三人賭博ヲ爲シ甲ノミカ常習者ナルトキハ第五六條第二項ニ依リ甲ノミ第一八六條第一項ノ適用ヲ受ケ其他ハ第一六五條ノ適用ヲ受ク(大三年三一頁)

八年九三八頁三

第一問 賭博ノ常習ナキ者カ常習アル者ノ賭博ヲ幫助シタルトキハ如何ニ處

分スヘキカ左記判例1及ヒ2ノ如ク單純賭博ヲ標準トシテ第六二條第一項、第六三條、從犯ノ減輕ヲ與フヘシ、3ノ判詞ニ見ル如ク教唆者ニ關スル理論モ同一ナ

リ

1 第一八六條第一項ハ身分ニ因リ刑ヲ加重シタルモノナリ故ニ身分ナキ者之カ

從犯トナレルトキハ第一六五條ヲ基礎トシ從犯ノ減輕ヲ與フヘシ、○取引所法

改正前空米相場幫助ノ件(大二年三五六頁)

2 取引所法第三二條ノ五ノ行爲ハ賭博ノ一種ナルカ故ニ常習トシテ之ヲ爲ス者

ハ刑第一八六條第一項ニ該當スト雖モ該條項ハ犯人ノ身分ニ基ク刑ノ加重ナ

ルカ故ニ常習ニ非サル者カ常習者ノ右ノ行爲ヲ幫助スルトキハ取引所法第三

二條ノ五、刑第六二條第一項、第六三條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス(大七年四頁)

3 賭博ノ幫助者又ハ教唆者カ其常習ナキ者ニ係ルトキハ第一八五條ノ適用ヲ生

ス(大七年八四頁)

第二問 賭博ノ常習アルニ因リ自ラ之ヲ實行スルニ於テハ第一八六條第一項

ノ適用ヲ受クヘキ身分ノ者カ他人ノ賭博ヲ幫助又ハ教唆シタルトキハ如何ニ處分スヘキカ左ノ如キ反對ノ判例アリ2乃至4ヲ正解トスヘシ(改説)

1 刑第一八六條第一項ハ常習トシテ賭博ヲ實行スル者ニ限り其適用アリ自ラ實行セス他人ノ賭博ヲ幫助スル者ハ其者賭博ノ常習アル場合ト雖モ單純賭博第一八五條ノ從犯ナリ○常習賭博者カ自ラ加入セサル賭博ノ爲メ二階座敷ヲ貸與シタル事件(大三年二)

2 刑第六五條第二項ハ正犯教唆犯從犯ニ對シ均シク其適用アリ故ニ賭博常習者カ他人ノ賭博ヲ幫助シタルトキハ第一八六條第一項第六五條第二項第六二條第一項第六三條ノ適用ヲ生ス○常習賭博者カ常習者非常習者共同ノ賭博ノ爲メ房屋及ヒ骨牌ヲ貸與シタル事件説明詳細(大三年九)(比大〇一三年)

3 賭博ノ幫助者又ハ教唆者カ常習者ナルトキハ第六五條第二項ニ基キ第一八六條第一項ノ刑ヲ標準トシテ處分セサル可ラス故ニ賭博ノ幫助本件ハ見張ノ場合ヲ教唆シタル者カ常習者ナルトキハ第一八六條第一項ノ刑ニ基キ第六二條第二項第六三條ノ適用ヲ爲サ、ル可ラス(大七年八)

4 取引所法第三二條ノ五ノ罪ヲ幫助スル常習アル者ハ第一八六條第一項ヲ基礎

トシテ從犯ノ減輕ヲ與フヘキモノトス(大一一五年)

第三種 賭場開張圖利罪 第一八六條第二項前段

圖利即チ利益ヲ取得スル目的ヲ以テ賭博ヲ爲ス場所ヲ設置スルニ因テ成立ス(1) 利益ハ法律上其種類ニ制限無シ但シ事實上ハ財産上ノ利益特ニ寺錢、口錢、手數料ノ如キ金錢上ノ利益ヲ圖ルヲ以テ通例トス (3) 利益ヲ取得スル目的ヲ以テシタルコトヲ要件トスルノミニシテ現ニ其利益ヲ取得シタルコトヲ必要ト爲サス(明三五年五至一、二六頁、明四五) (3) 又賭博ヲ爲ス場所ヲ設置スルニ於テハ其所ニ於テ他人カ賭博ヲ爲シタル事實有ルヲ待タス本罪完成ス(明四三年一八九一頁、大三〇頁三) (4) 賭博ヲ爲ス者アリタル場合ト雖モ開張者ハ開張罪ノ外別ニ賭博幫助罪トナル事ナシ(大〇六年) (5) 自身賭博者ヲ誘引スルコトハ開張罪ノ要件ニ非ス(大二年一) (6) 賭場ハ野天タルト室内タルトヲ區別セス室内ニ於テスル場合ニ其家屋ノ自己ニ屬スルト別人ニ屬スルトヲ區別セサルナリ (7) 客ヨリ數次口錢ヲ取ルモノ一罪(大三年三)

第一問 賃錢ヲ得テ賭博者ニ房屋ヲ給與スル罪ト賭場ヲ開張シテ利ヲ圖ル罪トノ區別如何後者ハ世俗親分又ハ貸元ト稱スル者等ニ相當シ賭博ノ主宰者トシ

テ場所ヲ供給スル者ニ係リ(空相場亦同シ)前者ハ單ニ他人ノ犯行ヲ幫助スル從犯ニ屬ス故ニ常習ナキ者カ單純賭博實行者ヲ幫助スルトキハ第一六五條ノ從犯賭場開張者ヲ幫助スルトキハ第一八六條第二項前段ノ從犯ナリ(大二年七)

第二問 賭場開張者カ自身モ賭博ヲ實行シタルトキハ一罪カ二罪カ判例之ヲ或ハ一罪ト做シ(明四年六八七頁、同九一七頁、同九七五頁、同八八九頁)或ハ二罪ト做セリ(明三年四卷一頁、大一年七三頁、一六四頁、大四年四〇頁、同三)二罪說ヲ可トス、左記別問題判例比較

- 1 取引所法第三二條ノ五ノ罪ニ關シ相場ヲ告知スルハ賭博者カ財物ノ得喪ヲ決スヘキ偶然ノ事情ヲ賭博者ニ告知スルモノニシテ賭博ノ幫助ナリ賭博者ヲ誘引スルハ賭博開張者ノ利ヲ圖ル行爲ノ幫助ナリ(大六年一)注意第五四條第一項後段ノ適用ヲ生スル場合アルヘシ
- 2 賭場開張圖利罪ハ賭場ニ於テ賭博ヲ爲ス者ヲ幫助スルノ性質ヲ包擁ス故ニ開張者ニ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者ハ後ニ賭場ニ於テ賭博カ實行セラレタル場合ト雖モ單ニ賭場開張圖利幫助ノ一罪ナリ(大九年八)
- 3 賭場開張者ノ爲ニ賭者ヲ賭場ヘ誘導シ尙賭場ニ於テ下足番其他ノ手傳ヲ爲ス

者ハ賭場開張圖利罪ノ從犯ナリ(大一年五三四頁)

4 人ヲ誘引シテ賭場開張圖利者ヲ幫助シタル者モ開張者カ誘引ノ事實ヲ知ラサル場合ト雖モ誘引者ハ賭場開張圖利罪ノ從犯ナリ(大一年九二四頁)

5 賭場ヲ開張シ空相場ノ一種「現場」ト名クル取引所法第三二條ノ五ノ罪ヲ犯シ開張者自身モ其賭博ヲ爲スニ當リ開張者ト賭博者トノ間ニ介在シ賭財ト手數料トヲ含ム金錢ノ取次ヲ爲スハ其賭財ヲ取次ク方面ニ於テ賭博幫助ノ罪名ニ觸レ手數料ヲ取次ク方面ニ於テ賭場開張圖利ノ罪名ニ觸レ第五四條第一項前段ノ適用ヲ生ス(大一年七三〇頁)

5 賭博罪及ヒ賭博幫助罪ハ之ヲ反覆スル習癖アルトキハ常習賭博罪ヲ構成スト雖モ賭博罪ト異ル賭場開張圖利罪及ヒ賭場開張圖利幫助罪ハ假令之ヲ反覆スル習癖アリトスルモ之ヲ以テ賭博罪又ハ賭博幫助罪ノ常習性ヲ認定スルコトヲ得ス(大一年一三頁)

第四種 博徒結合圖利罪 第一八六條第二項後段 利益ヲ取得スル目的ヲ以テ(利圖)賭博者ノ團體ヲ組織シ自ラ之カ統括者タル地位ニ立ツニ因テ成立ス (1)利益ノ種類及ヒ其既得未得ヲ分タサルコト賭場開張罪

ノ例ニ同シ(明六四三年一) (2) 團體ノ組織成ルニ於テハ時所ヲ特定シテ賭博ヲ爲サシメタル事實有ルヲ待タス、隨時隨所ニ參集シ賭博ヲ爲スノ方便ヲ授ケタル場合ニ於テモ亦本罪完成ス(明六四三年一) (3) 統括者タル地位ノ繼續スル間ハ賭博ノ開張、財物ノ徵收カ數次ニ涉ルモノ一罪ナリ(明六四三年一) (4) 博徒結合ト賭場開張トハ二罪、但シ第五四條第一項後段ノ適用アリ(明六四三年二)

1 賭場開張又ハ博徒結合ノ行爲ナキ者カ賭博者ヨリ寺錢其他ノ名義ヲ以テ金錢ヲ徵收スルハ徵收ノ手段如何ニ因リ別罪ト爲ルハ格別第一八六條第二項ニ該當スルモノニ非ス(明六四三年一)チーバー用印判及ヒチーバー用紙ハ第一九條第一項第二號ニ該當ス(明六四三年一)賭博ノ常習タルコトヲ認ムルニ當リ反覆セラレタル行爲ノ博徒ト賭事トノ何レヲ爲セシカチ一々具體的ニ舉示スルコトヲ要セス(明六四四年一)

2 博徒結合者ノ爲メニ乾兒タル博徒ヨリ親分ニ送付スル年度金ノ取立乾兒間ニ生シタル紛議ノ裁斷及ヒ仲裁親分ヨリ乾兒ニ對スル指揮命令ノ傳達等ヲ爲スハ博徒結合圖利罪ノ從犯ナリ(明六四四年一)

第五種 富籤發賣取次授受ノ罪 第一八七條

富籤ハ富札ヲ交付シテ財物(通常富札賣渡代金)ヲ醜集シ抽籤ノ方法ニ依リ當籤者ニハ利益(通常鉅額ノ金錢)ヲ與ヘ不富籤者ニハ醜出セル財物ノ全部又ハ一部ヲ喪失セシムル射僥行爲ナリ故ニ (1) 抽籤ノ方法ニ依リ利益ヲ僥得セシムル行爲ト雖モ籤札ヲ配付セサル場合ハ本罪ニ非スシテ賭博又ハ賭博類似ノ罪ナリ(大三年一四頁) (2) 籤札ヲ配付シタル場合ト雖モ醜出シタル財物ノ利息ノ全部又ハ債券ノ如ク利息ノ一部を失フニ止マリ或ル時期ニ元本ノ全部ヲ返還セラル、モノハ富籤ニ非ス (3) 富札ハ當籤者ニ利益ヲ與フル約束ヲ證明スル爲メ賣買授受セラルル有形物ナリ(明六四三年一四三〇頁) (4) 富籤ノ發賣トハ富札ヲ賣渡スヘキ旨ノ意思ヲ表示スルヲ謂フ (5) 富札ヲ賣渡スヘキ旨ノ意思表示(提供)アリタルトキハ未タ一人ノ買受人存ラサル場合ト雖モ本罪ノ既遂ナリ(舊刑第二六二條ト同シカラス) (6) 抽籤ノ度數ノ如キ固ヨリ本罪ノ構成ニ影響ナシ

第一問 賭博ト富籤トノ區別如何 (1) 賭博ハ必スシモ抽籤ノ方法ヲ用フルコトヲ要セスト雖モ富籤ハ之ヲ用フルコトヲ絕對ノ要件トス (2) 從テ賭博ハ必スシモ籤札ヲ配付セスト雖モ富籤ハ必ス富札ヲ配付ス (3) 賭博ノ財物ハ勝敗ノ決スルマテ賭者其所有權ヲ失ハスト雖モ富籤ニ於ケル富札ノ對價ハ之ヲ引渡スト

共ニ權利移轉ス (4) 賭博ハ干與者全部勝敗ノ危險ヲ負擔スト雖モ富籤ハ發賣者ニ於テ何等ノ財物ヲ賭セサルカ故ニ毫モ之ヲ失フノ危險ヲ負擔スルコトナシ是兩者ノ區別ノ大要ナリ (明三八年一八五頁、大元一年一) 故ニ初ニ切手ヲ賣出シ抽籤ニ依テ之ヲ商品ト引換ヘ商品存セサル場合ニ其代金ノ全部ヲ返還スル行爲ハ賭博ニモ富籤ニモ非ス (大三年一) (五三三頁)

第二問 勝馬投票引換券ノ密賣買ノ性質如何該券ノ買受人ハ其代金ヲ出捐シテ競馬ノ結果ナル偶然ノ事情ニ因リ景品券ヲ取得スルヤ否ヤヲ決スル射倖取引ヲ爲シタルモノナリト雖モ其引換券ノ代金ハ支拂ト同時ニ賣渡人ノ所得ニ歸シ各買受人間ニ於ケル得喪ノ目的トナル所ニ非サルヲ以テ其間ニ賭錢行爲アリト做スコトヲ得ス又買受人カ取得ヲ爭フ景品券ハ開催者カ勝馬投票引換券ノ賣渡ニ因リテ得タル代金ノ範圍内ニ於テ支辨調製シタル財物ニシテ單ニ勝馬投票者ノミニ交付スヘキモノナレハ是亦各投票者間及ヒ競馬開催者間相互ニ得喪ノ目的ヲ以テ賭シタル財物ト做スコトヲ得ス故ニ此種ノ行爲ハ別ニ賭博富籤類似ノ行爲ヲ取締ル罰則ニ觸ル、コトアルヘシト雖モ賭博富籤其モノニ非ス (大九年七) (四六頁)

第三問 七八ハ賭博ナリヤ富籤ナリヤ判例賭博從テ蟻走者ハ賭博從犯 (大三年四) (三三頁)

頁三

第四問 比較

紋附一名紋富ハ賭博ナリヤ判例

積極 (大五年四) (三八頁)

明四二年内省令第二〇號 懸賞又ハ富籤類似其他射倖行爲取締方

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

概念 本章ニ規定スル罪ハ總テ信仰ヲ基礎トスル即チ宗教上ノ善良ノ風俗ヲ危害スルニ因テ成立ス故ニ行爲及ヒ其客體ノ種類及ヒ範圍ニ至リテモ常ニ必ス此思想ヲ以テ取捨ノ標準ト爲ス可キナリ

第一種 對禮拜所不敬罪 第一八八條第一項

正條 神祠、佛堂、墓所、其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲有リタル者云々

客體 (1) 行爲ノ客體タル神祠、佛堂、墓所ハ孰モ禮拜所ノ例ナリ故ニ (2) 禮拜ノ對象タルコト止ミ荒廢シタル壇廟寺觀ノ類ハ此内ニ包括セラレスト雖モ (3) 仍ホ禮拜ノ對象トシテ世人ノ尊崇スルモノハ信仰ノ内容ノ幼稚ナルト玄妙ナルトヲ分タス總テ之ヲ包括ス (4) 但シ其祠堂カ却テ其國其時代ノ風俗ニ害有ル淫祠

妖堂ニ係ルトキハ多少ノ迷信家ニ由リ尊崇セララルトモ本罪ノ客體ト爲ルヘキ限ニ非ス(警犯令第二條十七、十八比較)

行爲 公然不敬ノ行爲有ルコト是ナリ (1)公然ナラサル場合ハ警犯令第二條三十三等ニ觸ルルコト有ルヘシ本罪ヲ構成セス (2)不敬ノ行爲ハ犯人ノ方面ヨリ言ハハ輕侮ノ意思表示ナリ禮拜所ノ方面ヨリ言ハハ尊嚴ノ毀損ナリ但シ尊嚴ヲ毀損スヘキ性費有ルヲ以テ足り必スシモ之ヲ毀損シタルコトヲ要セス (3)言語ニ依ルト舉動ニ依ルトテ問ハス積極行爲ニ係ルト消極行爲ニ係ルトテ分タスト雖モ (4)現場ニ於テ禮拜所ニ對シテ不敬ニ亘ル具體的ノ行爲有ルコトヲ要件トス他所ニ在リテ迷信ノ道具ニ過キササル旨ヲ演說又ハ記述スルノ類ハ之ヲ含まサルナリ

故意 第三八條ノ例外タル規定無キカ故ニ本罪ノ成立ニ付テモ不敬ヲ加フル故意有ルコトヲ要件トス風俗ヲ知ラサル外人ノ舉動ニ於テ此要件ヲ缺クコト其實例ニ乏シカラサルノミナラス内國人ト雖モ平素傲慢無禮ノ態度ヲ爲スノ癖有リテ不知不識ノ間ニ禮拜所ニ於テ其態度ヲ改メザリシカ如キモ亦其一例ナリ

第二種 說教禮拜葬式妨害罪 第一八八條第二項

(1)說教禮拜及ヒ葬式ハ限定的ナリ祭事祝儀又ハ其行列ニ對スル惡戯又ハ妨害ハ警犯令第二條九ノ罪ト爲ル (2)現ニ行フ所ノ說教禮拜又ハ葬式ノ平穩ヲ紊亂スルニ因テ成立ス (3)本條項ニ妨害シタル者ト曰フト第一二三條ニ妨害ト爲ル可キ行爲ヲ爲シタル者及ヒ第一二四條ニ妨害ヲ生セシメタル者ト曰フトハ少差有ルコトヲ注意スヘシ

第三種 墳墓發掘罪 第一八九條

(1)發掘ニ非サル損壞ハ場合ヲ分チ第一八八條又ハ第二六一條ニ該當ス (2)汚瀆スルニ止マル場合ハ警犯令第二條三十三ノ内ニ入ル (3)禮拜ノ對象ト爲ラサル古墳ヲ含マス (4)皇陵ニ關スルトキハ第七四條末段ノ罪ト爲ルヲ常トシ其餘ノ御陵墓ハ本罪ノ客體ト爲ルニ過キス專條無キハ缺點ナリ (5)第一九一條ノ罪ヲ犯ス着手ノ場合モ亦本條ニ屬ス

第四種 死體遺棄等ノ罪 第一九〇條

正條 死體遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者云云
主體 本罪ノ客體ハ信仰ヲ基礎トスル良俗ナルカ故ニ(大四年八頁八)死體等ニ付キ處分權ヲ有スル者ト雖モ其主體ト爲ルコトヲ得ルノミナラス卑屬カ尊屬ノ死體

等ニ對シ此罪ヲ犯スカ如キハ其情狀頗ル重キヲ常トス

客體 罪ノ客體ハ前示良俗ニシテ行爲ノ客體ハ條文所掲ノ四種 (1)死體ハ人ノ死體ノミヲ含ミ禽獸ノ死體ヲ擲棄スルハ警犯令第三條十ノ範圍ニ屬ス (2)妊娠四月以上ノ死體ハ亦之ヲ死體ト認ムル達有リ(明乙第七年內省)刑法ノ解釋トシテハ必スシモ四月ト云フ妊娠期間ノミヲ以テ標準ト爲サス略四個月程ノ期間ヲ經人ノ形體ヲ備ヘ相當ノ葬祭ヲ營ムヘキ死胎ハ亦之ヲ本罪ノ客體ト爲ルト認ムヘキナリ(明五四年一) (3)遺骨ハ其全部タルト一部タルトヲ區別セス遺齒遺灰ハ骨揚ケ納骨堂納骨壺等ノ通稱ニ據リ刑法遺骨ノ中ニ含ムト解セラル (4)遺髮ハ死者ノ毛髮(通髮)ノミヲ指シテ言フ夫ノ屍ニ副ヘテ葬リ又ハ葬ラントシテ棺内ニ納メタル未亡人ノ髮ハ後段ニ所謂棺内藏置物ナリ (5)棺ハ廣義ニシテ石槨ヲ含ムコト論無シ棺内ニ藏置シタル物ノ内ニハ殮物副葬品ハ固ヨリ死體ニ被ラシメタル衣服ノ類ヲモ包括ス (6)以上四種ニ通シテ葬祭ノ客體タル場合ニ限リ本罪ノ客體ト爲ル故ニ例ヘハ骨揚ノ際拾集セスシテ拋棄シタル灰燼(明四三年一六一六七頁)醫家又ハ病院ニ於テ參考品トシテ貯藏スル肢體博物館ニ陳列シタル木乃伊山野ニ放置セラレタル髑髏ノ類ヲ含マス (7)遺骨ニ付キ墳墓ニ安置セラルヘキモ

ノニ限ルト解スル説有リ(大場各、下)狭キニ過ク納骨堂ハ墳墓ニ非サルナリ

行爲

(1)損壞 (2)遺棄ハ所持監督ノ離脱ノ外應ニ爲スヘキ葬祭其他ノ處置(被服)ヲ爲ササルノ放置ヲ含ム (3)法令又ハ習慣ニ因ル埋葬ニ屬セサルトキハ縱令死體ヲ土中ニ埋ムルモ仍ホ遺棄ナリ(大三年七三〇頁、大) (4)然レトモ自己ニ緣故ナキ小兒カ自己ノ炭燒竈ニ落入リ燒死シタルトキ其死體ヲ棄置キタルハ遺棄ニ非ス(大一年三三頁) (5)領得ハ自己ノ所持内ヘノ移置 (6)其六比較ノ部所掲法令參照

違法性 骨揚ノ際納骨壺ニ收容シタル剩餘(遺骨ノ部類)ヲ遺棄スルハ風俗ニ害無キ習慣上ノ行爲ニ屬シ違法性ヲ備ヘサルカ故ニ無罪ナリ(明四三年一六一頁)

罪狀 人ヲ殺シタル後更ニ又其死體ヲ遺棄スル行爲ハ二罪ヲ牽聯罪カ (1)判例ハ棄屍ハ殺人ノ當然ノ結果ニ非サルカ故ニ牽聯罪ニ非スト認ム(明四三年一八八年一三九頁、大)ト雖モ自說牽聯罪 (2)自ラ殺シタル者ノ死體ヲ差置キテ立去ルヲ棄屍ナリト云ヘル判例(大三年一)ハ失當ナリ (3)人ノ住居スル家屋ニ放火シテ死體ヲ燒燬スルハ第一〇八條第一九〇條第五四條第一項前段ニ該當ス(大二年)

第五種 墳墓發掘死體遺棄等ノ罪 第一九一條

第一九一條ノ罪ハ墳墓發掘罪ヲ犯シ死體ヲ遺棄スル等條文掲ル所ノ行爲有ル

ニ因テ成立ス故ニ適法ニ墳墓ヲ發掘シ又ハ墓地ヲ掘鑿シ過テ破壞シタル棺槨内ノ死體遺骨又ハ殮物ヲ損壞遺棄又ハ領得スルハ第一九〇條ノ罪ナリ(大〇三年二頁)
第一九一條ノ罪ヲ犯シテ領得シタル死體ハ贓物ニ非ス故ニ其一部ヲ買受クルハ贓物故買罪ニ非スシテ第一九〇條ニ該當スル死體領得罪ナリ(大四年九號)

第六種 變死者密葬罪 第一九二條

變死者トハ醫師ノ診療ヲ經ルコト無ク亡故シタル他殺者自殺者他殺自殺不明者其他犯罪又ハ災難ニ由來シ若クハ由來シタルノ疑有ル死體ヲ謂フ(比大四年一頁)
頓死者即チ疾病ニ基ク突然ノ亡故者ヲ含ムヤ否ヤ自說消極檢視ヲ經スシテ之ヲ葬ムルハ埋葬取締規則第三條第四條等ニ觸ルル場合有ルヘシ本罪ニ非ス比較

1 診斷書、檢案書、死産證書等記載事項ノ件 明三三年內省令第四一號

2 刑訴法 第一七六條、第二二三條

3 刑死者及在監死亡者遺骸解剖實驗ニ供用方 明一八年内省令達甲第二五號〇監獄法第七五條

4 變死者死體検査上解剖手續 明一〇年太布第二二號〇官廳內官有工場及艦船

等ニ於ケル變死者檢視手續 明一三年太達第一四號

5 墓地及埋葬取締規則 明一七年太布第二號〇同上違反者處分ノ件 明一七年太達第八二號

第二十五章 瀆職ノ罪

第一種 職權濫用罪 第一九三條

正條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務無キコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキ云云

要件 (1)公務員ノ行爲ニ係ルコト是其一 (2)職權ヲ濫用スルコト是其二、職權ノ濫用ハ公務員ノ有スル職權ノ不法行使ナリ故ニ其權限ト關係無キ公務員ノ行爲及ヒ共犯ノ關係ヲ有セサル非公務員ノ行爲ヲ含マス (3)人ヲシテ義務無キコトヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害スルコト是其三、前者ハ警察官カ故無ク人民ニ退去又ハ移住ヲ命スルノ類後者ハ警察官カ故無ク人民ノ旅行又ハ轉居ヲ差止ムルノ類〇町會議員カ共謀シテ町會ノ決議ニ依リ故意ニ過當ノ課税ヲ爲ス如キハ亦前者ノ適例(大七二年頁) (4)而シテ第一九三條ハ職權濫用ニ關スル概括規定

ナルカ故ニ第一九四條以下其他ニ專條有ラサル一切ノ濫權ヲ包括ス (5)然レトモ村長カ助役ヲ教唆シ公文書ニ虛偽ノ記入ヲ爲サシムルカ如キ其權限ト關係ナキ犯罪ノ教唆ハ第一九三條ノ範圍ニ屬セス(大元三年一頁)

第二種 濫權逮捕監禁罪 第一九四條

本罪ハ之ヲ爲ス者カ裁判檢察又ハ警察ノ職務ヲ行フ者ニ係ルコト之ヲ犯ス條件カ其職權ノ濫用ニ出ツルコトヲ以テ其特色トス逮捕及ヒ監禁ノ内容ハ第三十章所定ノ行爲ニ同シ

第三種 暴行凌虐罪 第一九五條

第一類 裁判檢察警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲ス罪(第一九五條)○巡查カ嫌疑入ニ拷問ヲ施ス如キ其適例(大元五年一頁)

第二類 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ凌虐ノ行爲ヲ爲ス罪(第一九五條)○

(1)暴行ハ身體ニ加フル不法ノ腕力ノ謂物ニ加フル暴行ハ事實如何ニ因リ凌虐ノ中ニ入ル (2)凌虐ハ人道ニ反スル行爲一切ヲ包括ス明律ニ所謂尅減衣糧應請

給衣糧醫業而不請給應聽家人入視而不聽等ハ固ヨリ猥褻姦淫ノ行爲ト雖モ同時ニ之ヲ凌虐ノ行爲ト認ムルヲ妨ケス(大元四年七頁)看守カ獄則ニ違反セル囚人ノ背後ヨリ突然之ヲ引倒シ負傷セシムルカ如キ亦爾リ(明元四年八頁)

第四種 因濫權致死傷罪 第一九六條

第五種 收賄罪 第一九七條

主體 公務員ト仲裁人トニ限定セラル鑑定人及ヒ評價人等ヲ加ヘタル立法例アリ

公務員 第七條ニ其定義アリ收賄ニ關シ公務員ノ資格ナシト認メタル例 (1)

司法省工手○收賄罪ノ成立ヲ否定シ第二四七條背任罪ノ成立ヲ肯定シタル事件(大元五年五頁) (2)製鐵所囑託員○同所工手ト異リ規則ニ其任命及ヒ職務ノ根據ナシトシタル事件(大元九年五〇八七頁) (3)法令ニ基カス又特別ノ任命ヲ受ケスシテ水利使

用出願ニ干與シタル縣吏員(大元四年一頁) 仲裁人 左記法律ニ掲クル如キ仲裁人ノ職ニ在ル者ヲ謂フ自ラ進メテ紛議ノ

示談和解ヲ斡旋盡力スル者ノ如キハ之ヲ含マス(大元五年三頁) (3)通シテ犯行ノ際既ニ

此資格ヲ有スル者ニ係ルコト必要ナリ(明元四年一頁)

1 民訴第七八六條 一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ争ノ判断ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利有ル場合ニ限り其效力ヲ有ス
第七八八條 仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定無キトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

2 商業會議所法第七條七 關係人ノ請求ニ因リ商工業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト

客體 (1) 罪ノ客體ハ公務員又ハ仲裁人ノ廉潔 (2) 行爲ノ客體ハ賄賂即チ行爲ノ部第二甲ニ説明スル利益

行爲 公務員又ハ仲裁人ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束スルコト是ナリ

第一 公務員又ハ仲裁人タル資格ヲ有スル者カ其職務ニ關シテ收賄シタルコトヲ要件トス

甲、事前收賄 既ニ資格ヲ有シ其職務權限ニ關係有ル以上ハ其職權ヲ以テ現ニ處理シ得可キ狀態ニ在ル事務ニ關スルコトヲ必要ト爲サス、此ト反對ナル判例ハ不當ナリ○檢事代理カ未タ分配ノ定マサル事務ニ關シ收賄シタルヲ無罪ト爲シ

タル事件(明三三九一年一)

時期到來後又ハ未必條件發生後處理シ得ヘキ將來ノ事務ニ關スルモノモ亦有罪ト認メタル左記判例ハ相當ナリ

1 村會議員カ將來未必ノ村長選舉ニ關シ收賄シタル事件(明四一四三年一)○縣會議員ガ未提出ニ係ル豫算ニ關スル收賄(明四五年)

2 煙草專賣局製造所作業課長カ將來未必ノ元賣捌人指定ニ關シ收賄シタル事件(明四三年一)○煙草販賣官署長ノ同性質事件(大四年六)

3 郡長ノ命令ヲ受ケタル後浦メテ土木工事ノ検査ヲ爲スヘキ郡技手カ命令前ニ收賄シタル事件(大三年四)○同様土木監督ニ關スル件(大五年八)

乙、事後收賄 職務執行終了後此ニ關シ初メテ收受要求又ハ約束ノ行爲ヲ爲シタル場合(民國刑律所謂)亦同シ(明四二年一四二五頁、明四四年一四一七頁、大一年四一七頁)

丙、請託ノ有無 事後ノ收賄ニハ請託ノ事有リ得可ラス事前及ヒ事中ノ收賄ハ多ク請託ノ意味ヲ有ス請託ノ意味ヲ有スル以上ハ特定又ハ不定ニ某事ヲ請託シタル行爲有ルコトヲ要件ト爲サス判例亦略同趣旨(明四三年一三七九頁、同一年一八九二頁、同一年一〇六六頁、大三年一四四頁、大一年四一七頁、大一年四一七頁、大一年四一七頁)

丁去職後ノ收賄 職ヲ去レル(辭職免職)後甫メテ在職中ノ某事務ニ關シ利益ヲ要求約束收受スルハ法文ヨリ言ハハ公務員(仲裁人)ノ行爲ト謂フ能ハス精神ヨリ言ハハ其廉潔ヲ害シタル事實無キカ故ニ本罪ヲ構成セス(大七一一年)但シ在職中ノ要求又ハ約束ニ基キ去職後利益ヲ收受スルトキハ在職中ノ要求又ハ約束ノ行爲ノミ罪ト爲ル(大四年一〇三一頁比較)

戊職務ト無關係 身ニ官公職ヲ帶フ者ト雖モ其職務權限ニ關セサル斡旋盡力ニ對シテ報酬ヲ受クルハ本罪ニ非ス(明四一六頁一)但シ服務規律ニ違背スルニ因リ懲戒處分ノ事由ト爲ルコトアルハ格別ナリ

公務員又ハ仲裁人ノ職務自體ニ非スト雖モ此ト關涉シ密接ノ關係ヲ有スル事項ヲ含ムヤ否ヤ 判例積極(大二年一四〇一頁縣會議員カ他ノ縣會議員ニ向ヒ某)意見書ノ賛成可決ヲ勸誘シ可決後報酬ヲ得タル事件) 癸右ニ引用シタルモノノ外判例上職務ニ關スト認メタル事件次ノ如シ (1) 縣會議員ノ役員ノ選舉(明四〇二年)議場ニ出席セサル行爲(明四〇四年一)當選ノ承諾又ハ辭退ノ未決中ニ係ル行爲(明四五五年)村會議員カ議案ノ通過ニ盡力スルノ約束(大四年二)郡吏員ノ郡制第七七條ニ基ク里道工事ノ監督(大二年二)郡技手ト土木監督(大三年四)町村助役ト町村營造物管理(明四〇六年)村長ト里道變更工

事ノ管理又ハ監督(明四〇七年)村長ト公金預入(大三年一)村長ト村有財産賣却ノ隨意契約(大七四年一)(3) 北海道土功組合法ニ依ル組合評議員ト業務執行又ハ財産狀況ノ監査(大三年五)(4) 戶籍吏ト届出人ノ自署ニ非サル届書ノ受理(明四五年)(5) 鐵道院(省)技手ト某建設事務所ニ於ケル分配不確定ノ事務(大六年七)同掛員ノ運賃割引特約(大〇九年一)(6) 市書記ト公設市場指定販賣人ノ指揮監督(大一年一)(7) 縣吏員カ乙木管區ヘ轉任後ニ於ケル甲管區ノ工事監督關係(大〇四年)(8) 海軍經理部建築科技生ト海軍航空隊敷地工事ノ監督(大〇〇一年)(9) 査定權ナキ特許局審査官補ト特許實用新案意匠商標ニ關スル審査(大八二年)(10) 遞信局技手ト遞信内職員共濟組合診察所ノ工事監督及ヒ檢査(大七二年五頁)(11) 巡査ト賭博取調(大八四年)上官ノ命令ヲ受ケタル巡査ガ地主ト小作人トノ間ニ入リテ爲ス所ノ調停(大三年三六頁)

第二 賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束シタルコトヲ要件トス
甲賄賂ノ客體 金錢其他ノ財物ニ係ルチ最モ多數ノ事例トス然レトモ經濟上ノ價額ヲ有スルコトヲ要件ト爲サス(大九二年一)苟モ人ノ需要又ハ慾望ヲ滿タスニ足ル有形無形一切ノ利益ヲ包括スルカ故ニ藝妓ノ演藝(明四三年二)貸座敷ニ

於ケル遊興(明四一四年七八八頁) 金錢ノ消費貸借(大三年一四七頁大四年二二七頁一) 一定ノ地位ヲ供與スル約束(大四年七) 男女ノ情交(大四年九) 損失ノ危険ヲ伴フ投機的ノ造船契約(大三年一) 等モ亦其中ニ在リ

乙.收受 ハ賄賂ノ客體トセラレタル利益ヲ取得シタルノ謂

丙.要求 ハ公務員又ハ仲裁人ヨリシテ他人ニ向ヒ自己ニ贈賄ヲ爲スヘキ旨ノ申込ヲ爲スノ謂其應諾セラレタル場合ハ約束ノ部ニ入ル

丁.約束 ハ利益授受ノ合意其申込ノ收賄者ヨリ行ハレタルト贈賄者ヨリ行ハレタルトヲ分タス

加罪要件 苟モ收賄ノ事實有ルニ於テハ縱令ヒ不正ノ行爲ヲ爲サス又ハ相當ノ行爲ヲ爲ストスルモ廉潔ノ美風ヲ破ルコトハ一ナルカ故ニ共ニ罪ト爲ル(大九年八頁、同一年一五八頁) (第一項前段) ト雖モ因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ更ニ公務員又ハ仲裁事務ニ害ヲ加フルカ故ニ罪情加重スルモノトス(同條項) 前者ヲ枉法ノ收賄後者ヲ枉法ノ收賄ト曰フ、○鐵道院書記カ收賄ニ因リ入札金額ヲ内示シタル(大三年二)カ如キ其一例ナリ、○枉法ハ必スシモ外部ニ對スル處分行爲タルヲ要セス(大六年水二)

故意

公務員又ハ仲裁人利益ノ授受カ自己ノ職務ニ關スルコトノ認識及ヒ利益ヲ收受要求又ハ約束スルノ決意有ルコトヲ要件トシ且ツ之ヲ以テ足レリトス因テ枉法ノ請託ヲ縱容スル決意アルコトハ本罪ノ要件ニハ非サルナリ

違法性 風俗ノ善良ヲ害セサル程度ニ於テ贈答ノ禮ヲ爲スハ違法性ヲ備ヘサルカ故ニ受納贈呈共ニ罪ト爲ラス、然レトモ贈答ノ名義様式ヲ籍ルニ止マリ其真意カ職務ニ關シ利益ヲ授受スルニ在ルトキハ其罪ト爲ルコト論無シ

罪狀

其一 未遂既遂

(1)職務ニ關シ利益ノ授與ヲ要求シ又ハ其授受ヲ約束シ若クハ之ヲ收受シタルトキハ職務上ノ枉法又ハ枉法ノ行爲有ルヲ待タス收賄ノ既遂ト成ル (2)要求及ヒ約束ト收受トハ同一系統ニ屬スル行爲ノ階級ニ於テ高低ノ差有ルニ過キサルヲ以テ前ニ要求又ハ約束シ後ニ收受シタルトキハ收受ノ一罪ナリ(明四二年一) (3)枉法ノ目的ヲ以テ收賄シ未タ其枉法ノ行爲ヲ實施セサルトキハ收賄枉法(九七條後)ノ未遂狀態ニ屬スト雖モ之ヲ罪ト爲ス特別ノ規定有ラサルヲ以テ此場合ハ仍ホ枉法ノ收賄(同條前段)ヲ以テ之ヲ論セサル可ラス

其二 併合罪關係

(1) 一ノ條件附約束ニ於テ其條件ノ到來ニ因リ或ハ收賄者ト爲リ或ハ贈賄者ト爲ル行爲有ルトキハ第五四條第一項前段(明四二年一三頁縣會議員在職中役員選舉ニ關シ金錢ヲ贈與收受スル約束)

(2) 公務員收賄ノ結果、○土木監督ヲ疎略ニ爲シ(明七四五年) ○又ハ收稅額ヲ減少シ(大三八三頁) 因テ國家ニ財產上ノ損害ヲ加フルハ一行爲ニシテ收賄枉法ト背任トノ二個ノ罪名ニ觸ル

其三 共犯

公務員ノ身分ナキ者ト雖モ身分アル者ト共謀シテ賄賂ヲ收受スルトキハ第六五條第一項第一九七條ニ依リ收賄ノ正犯ト爲ル○稅務屬ト一私人トカ地坪訂正願ニ關シ願出人ノ請託ニ因リ共ニ金錢ヲ收受シタル事件(大三三二頁)尙贈賄罪末段ニ補足ス

沒收追徴處分 沒收ハ附加刑ナリ(第九條) 既ニ收受シタル賄賂ハ第一九條三後段ニ該當シ附加刑トシテ之ヲ沒收スルコトヲ得然レトモ既收ノ賄賂ハ第一九七條第二項前段ノ特別規定有ルニ因リ第一九條第一項得科ノ沒收ニ非スシテ必科ノ附加刑ナリ(大九八頁) 但シ第一九七條第二項ノ意義ハ (1) 既ニ賄賂ヲ收受シ

タル場合ニ於テ其目的物ノ沒收可能ナルニ於テハ之ヲ沒收スルコトヲ要ス (2) 舊刑第二八八條末段ノ如ク目的物ヲ費用シタル場合ニ限ラス目的物本來ノ性質上例應應沒收不可能ナリトスルモ之ヲ金錢ニ換算スルコトヲ得ルトキハ其價額ヲ追徴ス(大四〇四頁七) (追徴ハ執行ノ方法ヲ異ニシタル沒收ナリ罰金科料ニ非ス)

(3) 沒收追徴均シク不可能ナルニ於テハ(例情交)之ヲ科セスト曰フニ存リ實地ノ判例左ノ如シ

- (1) 收賄トシテ應應ヲ受ケタル場合ハ飲食外ノ應應費モ亦追徴額ノ中ニ算入ス(大元二頁) 收賄者ト共ニ贈賄者ノ列席シタル應應ニ付テハ收賄者ノ爲ニ要シタル費用ヲ以テ追徴額ヲ定ム(大〇四頁三) (2) 債務證書ノ返付ヲ受ケタルトキハ證書面ノ金額(明三〇二頁) (3) 自己ノ所持金ト混同シ現物ノ沒收不可能ナルトキハ既收ノ價額ヲ追徴ス(明四五年) (4) 收賄ノ教唆者又ハ幫助者カ其幾分ヲ費消(明三〇三九頁四) 又ハ取得(明四〇二頁) シタル場合ト雖モ收賄者全部ノ追徴ヲ受ク (5) 數人共同賄賂收受ノ事實アリタルトキ各自全額ノ追徴ヲ受クトノ判例(明三五年三卷八九頁) 明三七年五九七頁
- ト分配額如何ヲ問ハス平等ニ分割シテ之ヲ負擔ストノ判例(明四四年八一四一頁) 明四五年八八七頁
- ト存リ (6) 在職中收賄ノ約束ヲ爲シ去職後目的物ヲ收受シタルトキハ收賄罪ハ

成立スルモ追徴ハ之ヲ科スルコトヲ得ス(大四年一頁) (7) 厘以下ノ端數ハ之ヲ切捨ツ(大四年一頁) (8) 厘位ヲ切捨テタルコトハ上告ノ理由ト爲ラス(大一年一頁) 尙贈賄罪未段所掲ノ問題比較

比較 左記法律ニ特殊收賄ノ專條有リ

1. 明三三年法第一五號 飲食物取締ニ關スル件第四條
2. 明三三年法第二九號 土地收用法第七五條
3. 明三三年法第三八號 精神病者監護法第一五條
4. 明四二年法第三〇號 耕地整理法第九一條ノ二
5. 大四年法第一〇號 畜産組合法第四五條第四六條

第六種 贈賄罪 第一九八條

公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供、又ハ約束スルニ因テ成立ス

1. 公務員ニ賄賂スル趣旨ヲ以テ目的物ヲ其妻ニ差出シタルトキハ賄賂提供ノ既遂ナリ(明四五年二頁)
2. 巡查ニ對シ賄賂ヲ贈ルヘキ旨ヲ申込メハ現實ニ目的物ヲ收受シ得ヘキ狀態ニ置クヲ待タス其提供ノ既遂ナリ(大七年二〇八頁、大一年二年八六四頁)

3. 選舉運動者カ縣會議員候補者ノ爲メ有權者一名ニ付キ金拾圓ツ、ヲ供與スヘキ旨ヲ約束シタルトキハ後ニ至リ其約束ヲ取消スモ衆選法第八七條第一項第五號第一號ノ犯罪成立ス(大一年三頁)
4. 贈賄罪カ公務員ノ職務執行後ト雖モ此ニ關シテ成立シ得ルコトハ收賄罪ニ同シ(大九年一頁)
5. 人カ賄賂ヲ贈ラントスルニ當リ其不足スル金錢ヲ貸與スルハ贈賄ノ從犯ナリ(大一年一〇頁)
6. 一行爲ヲ以テ數名ノ公務員ニ收賄ヲ教唆シ(明四二年一頁) 又ハ之ニ贈賄スル(大一年一五〇頁、大一年一四三二頁) トキハ第五四條第一項前段ノ適用ヲ生ス
7. 賄賂ノ授受ニ依リ公選ノ投票行ハレタルトキハ贈賄者ハ刑施第二五條刑第一九八條、舊刑第二三四條前段、刑第五四條第一項ニ該當シ收賄投票者ハ刑施第二五條刑第一九七條、舊刑第二三四條後段、刑第五四條第一項前段ニ該當ス(大一年一四九八頁)
8. 議員ノ選舉ニ關シ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シテ爲ス響應カ衆選法第八七條第二號又ハ第七號ノ罪ヲ構成スルカ單純ナル社交上ノ行爲トシテ罪ヲ構成セ

サルカハ要應ノ性質及ヒ要應者ノ目的如何ニ因テ定マル事實問題ナリ○町會議員ノ選舉ニ關シ運動者ニ二十錢前後ノ酒食ヲ供シタル事件(大九一年)

9. 店員カ店主ニ謀ラス其商店ノ爲メ擅ニ賄賂トシテ公務員ニ店主ノ財物ヲ交付シタルトキハ店主ハ其財物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得(大八年)

第一問 沒收ノ關係ニ於テ賄賂ハ如何ナル性質ヲ有スルヤ (1) 贈賄者ノ方面ニ於テハ罪體第一九條第一項第一號(大七一年一四一八頁) (2) 收賄者ノ方面ニ於テハ犯罪所得物同第三號後段(大九一年二九八頁)ナリ

第二問 收受後加工シタル財物ノ處分如何 (1) 賄賂トシテ收受シタル反物ヲ

以テ製シタル單衣ノ如キハ縱令肩宛敷宛襟等ノ附加セラレタル物ト雖モ仍ホ賄賂ノ財物トシテ全部之ヲ沒收スヘシ(大六年一四四頁) (2) 同様ノ反物ヲ以テ着物ノ表ト爲シタル場合ハ加工ニ依リ他ノ物ト合體シ一ノ新シキ衣類ニ變化シタルトキハ

之ヲ沒收スルコトヲ得ス賄賂ヲ費消シタルモノトシテ處分スヘシ(大六年七四〇頁)

第三問 賄賂ト非賄賂ト競合シタル利益ノ處分如何 (1) 選舉運動ノ際其實費及ヒ報酬トシテ收受シタル一定金額中報酬ニ屬スル金額ヲ分別スルコト能ハサル場合ハ沒收及ヒ追徵共ニ之ヲ爲スコトヲ得ス(大九一年一八〇頁)ト云フ例アリシカ後受

領額全部ヲ沒收又ハ追徵スヘキモノトス(大九一年一七九六頁)ト改メラレタリ (2) 公務員ノ職務行爲ニ對スル謝禮ト職務外ノ行爲ニ對スル報酬トヲ不可分ニ包括授受シタル財物又ハ利益ハ全部賄賂タル性質ヲ有ス(大九一年一〇二五頁)

第四問 既收ノ賄賂ヲ返還シタルトキハ如何ニ處分スヘキカ之ニ關シ前後相異レル判例アリ曰ク (1) 返還後ハ其價格ヲ追徵スヘシ(明四五年五七五頁)而シテ其追徵ハ

之ヲ贈賄者ニ科スヘキニ非ス依然收賄者ニ科スヘシ(大三年一八六四頁) (2) 目的物若シ收賄者ノ手ニ存スレハ收賄者ヨリ之ヲ沒收シ返還セラレテ贈賄者ノ手ニ存スレハ

贈賄者ヨリ之ヲ沒收ス此區別ノ下ニ於テ沒收セラレヘキ者ノ手ヨリ沒收スルコト能ハサルニ於テハ其者ヨリ其價格ヲ追徵スヘク既ニ返還シタル收賄者ニ對シ

テハ追徵ヲ科スヘキモノニ非ス刑事總部聯合ノ上從來ノ判例ヲ改ム(大九一年二九八頁)

第五問 單一ノ意思發動ニ基キ先ツ收賄シ次テ贈賄シタル場合ノ罪質及ヒ沒收追徵ノ方法如何 甲公務員カ職務行爲ニ對スル報酬ト職務外ノ行爲ニ對スル

謝禮トヲ兼ネテ不可分のニ財物ヲ收受シ而シテ其際ノ趣旨ニ從ヒ其財物ノ一部分ヲ賄賂トシテ乙公務員ニ交付シタル場合ニ於テハ甲公務員ノ行爲ハ第一九七

條第一九八條第五條(連續罪)ニ該當ス而シテ甲公務員ニ對シテハ乙公務員ニ交

付シタル殘餘ノ財物ヲ沒收シ若シ沒收スルコト能ハサルニ至レルトキ其價額ヲ追徴スヘキモノトス(大一年九三頁)○選舉運動ニ關スル財物ニ付キ同趣旨(大一年九三頁同六頁九〇)

第六問 輸入商ノ雇入カ該管公務員ニ贈賄シ關稅ヲ減免セラレタル場合ノ處分如何 贈賄罪ノミ成立シ關稅通脫罪ハ成立セス(大一年四七八頁)

第二十六章 殺人ノ罪

通則

客體 (1) 罪ノ客體ハ生命 (2) 本章ノ殺人行爲ノ客體ハ別ニ專條有ルモノヲ除

ク其餘ノ人(專指自然人而言以下亦做此)

生前ニ人無ク死後ニ人無シ (1) 生前ノ胚胎又ハ胎兒ハ墮胎ノ客體死後ノ遺骸ハ死體損壞ノ客體ト爲ルコトヲ得殺人ノ客體ト爲ルコトヲ得ス (2) 生死ノ標準ハ總則犯罪ノ主體ニ關スル觀念ト一致スルコトヲ要ス (3) 出生ハ獨立呼吸說ニ據テ其標準ヲ定ムルヲ可トス 但シ判例ハ一部露出シ母體ニ關係ナク外部ヨリ殺害シ得ルニ至レハ殺人ノ客體タリト認ム(大一年三七七頁) (4) 然リ而シテ近世ノ法理

ニ於テハ苟モ人間カ懷妊シ發達分婉シ生活機關及ヒ生活機能ヲ保有スル以上ハ總テ之ヲ以テ人ト爲シ其健康狀態ノ良否ヲ分タス○早産ノ爲メ發育不良ノ者(明四三年八五八頁)○分晩時假死ノ狀態ニ在リテ未タ呼吸セサル者(大一年三七三頁)ヲ含ミ亦正形ト畸形トヲ問ハス均シク本罪ノ客體ト爲ルト認ム (5) 從テ羅馬ノ如ク妖怪可殺ノ法無シト雖モ生活機關ヲ備ヘサルニ因リ生活機能ヲ保有セサル鬼胎ハ人ニ非ス本罪ノ客體ト爲ラサルナリ (6) 死亡ハ心臟ノ鼓動ノ絶止ヲ以テ標準ト爲スヲ可トス

行爲 自己以外ノ自然人ヲシテ其生命ヲ喪失セシムルコト是ナリ (1) 手段ノ積極タルト消極タルト有形タルト(例身體傷害)無形タルト(例精神恍惚)ヲ分ツコト無シ (2) 助成事實介入スル場合亦同シ○溺死介入事件(大一年二五九頁)

故意 行爲ノ自覺即チ自己ノ身體ノ動靜ニ因リ他人ノ生命ノ喪失ヲ惹起スル認識有ルコトヲ要スト雖モ (1) 死ノ希望アルコトヲ要セス(大一年二五九頁) (2) 認識ノ確定タルト不確定タルトヲ問フコト無シ(大一年一〇〇頁) (3) 豫謀ニ出ツルト否トモ亦之ヲ分ツコト無シト雖モ豫謀ハ刑ノ量定上罪情加重ノ一事由トシテ觀察セラルルコトアリ

錯誤即認識ト對象ト一致セサル場合ニ付テハ本罪ニ對シテモ亦一般ノ原則ノ適用有リ故ニ要件ニ屬セサル手段又ハ目的物ニ關スル錯誤ハ本罪ノ成立ヲ左右セス(大一年三四頁)

罪狀

其一 豫備未遂既遂 第二〇一條第二〇三條

甲 豫備罪 普通殺人(第一九條)又ハ殺直系尊屬(第二〇條)ノ罪ヲ犯ス豫備行為ハ罪ト爲ル但シ得免ノ規定有リ(第二〇條) (1)殺意ヲ決シ豫備ヲ爲シタル以上ハ殺害カ條件附ナルトキト雖モ其豫備罪ヲ構成ス(明四二年七六九頁) (2)殺意ヲ以テ兇器ヲ携ヘ目的人ノ邸宅ニ侵入スルハ殺人豫備罪ナリ(明四四年三二四九頁)

乙 未遂罪 殺人(第一九條、第二〇條)ノ未遂ハ罪ト爲ル(第三〇條) (1)殺人行爲ニ着手シテ遂ケサルハ一殺人(障害或ハ中止)未遂罪ナリ 既成ノ傷害アル場合ト雖モ別ニ傷害罪ヲ構成セス(法記明四三年第一號) 其豫備行為アリタル場合亦同シ別ニ第二〇一條ノ刑ヲ科スヘキモノニ非ス(大五年八七頁) (2)人ヲ毒殺セントスル者ニ頼マレ之ニ毒物ヲ交付シタルニ止マル行為ハ仍ホ其豫備ノ範圍ニ屬ス(明三六年一五〇頁)ト雖モ例ヘハ毒物ヲ混和シタル飲食物カ目的人ノ家ニ送付セラレタルトキハ目的人又ハ其

家族等カ何時ニテモ飲食シ得ル状態ニ置カレタルモノニシテ其着手ニ達シタルモノナリ(大七年一三五五年) (3)分量ノ不足ナルニ因リ死ヲ生セザリシトキハ障碍未遂ナリ(明三七年一四〇三頁)

其二 併合罪關係

(1)殺人罪ハ單一決意ヲ以テ之レヲ行フモ被害者毎ニ一個ノ殺人罪ヲ構成ストノ判例(明四二年)有リ、自說數次ニ實行セハ併合罪(第六條)一次實行ノ結果ナラハ一罪(2)家宅ニ侵入シ三個ノ殺人未遂ト一個ノ殺人既遂トヲ犯シタルトキハ刑第一三〇條、第一九九條、第二〇三條、第五四條第一項後段第一〇條ニ依リ一ノ殺人既遂ノ刑ニ從フ云(明三八年七頁) 自說、別ニ尙第五五條ヲ引用スヘキ場合有リ (3)殺人ノ豫備行為ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキ(例、殺人用兇器竊取)ハ第五四條第一項前段ノ適用ヲ生ス(大七年一七四頁) (4)殺人罪ト放火罪トノ競合シタル場合亦同シ(大二年九) (5)殺意ヲ以テ人ヲ制縛監禁シ因テ死ニ至ラシムルハ判例一包括殺人罪(大八年) 自說想像上ノ併合 (6)爆發物ヲ使用シ人ヲ殺スハ同取締罰則第一二條ニ據リ同罰第一條ト刑法第一九九條トヲ比較シ重キニ從テ處斷スヘキモノトス(大七年六)

課題

1. 殺意ニ出テ墓口ニ納メ得ル程ノ小刀ヲ以テ人ニ斬付ケタルモ之ヲ殺スニ至ラサリシ場合ハ有罪カ無罪カ(大一年七八頁)
 2. 殺意ニ因リ麻繩ヲ以テ人ノ頸部ヲ絞扼シ既ニ死セリト誤信シテ之ヲ砂上ヘ遺棄シタルニ被害者ハ砂末ヲ吸引シテ死セリ其罪質如何(大二年三八四頁)
 3. 毒藥ヲ混和シタル酒肴ト之カ飲食ヲ勸ムル他人名義ノ偽造信書トヲ人ニ送付シタルモ家人ノ爲メニ發見セラレ何人モ之ヲ飲食セサリシ場合ノ擬律如何(大三年五六頁)
 4. 通説ノ所謂手段ノ錯誤ニ相當スル場合例ヘハ甲ト同衾シタル乙ヲ殺害セント欲シテ誤テ甲ヲ打撃シ傷害ヲ與ヘタルニ止マルカ如キハ其罪質如何(大五年一三一四頁)
 5. 若シ將來懷胎分胎セハ其嬰兒ヲ殺害センコトヲ產婆ニ依頼シ分胎ノ際產婆之ヲ實行シタルトキハ其處分如何(大三年二三九〇頁)
- 第一種 普通殺人罪 第一九九條
- 普通殺人罪ニ關スル第一九九條ノ客體ハ第二〇〇條ノ如キ專條ノ中ニ特示セラレサル一切ノ自然人ヲ含ミ行爲ハ第二〇二條ノ如キ特別ノ條件ヲ伴ハサル場合ノミヲ含ム

第二種 殺直系尊屬罪 第二〇〇條

本行爲ノ客體ハ自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ノミニ限ラル而シテ其配偶者及ヒ直系尊屬タル地位ハ民法ノ定ムル要件ヲ具備シタルモノナラサル可ラス内縁ノ夫婦及ヒ認知ヲ經ナル私生子ノ行爲ハ第一九九條ニ據リ重キニ從テ處斷ス可キモノナリ

第三種 自殺干與罪 第二〇二條

本罪ハ之ヲ自殺教唆罪、自殺幫助罪、受託殺人罪受諾殺人罪ノ四類ニ分ツコトヲ得ト雖モ前二類ニ在リテハ自殺者、後二類ニ在リテハ被殺者カ意思能力ヲ有シ且ツ自由ニ決定シタル場合ニ係ルコトヲ要件トス若シ此要件ヲ缺キ無能力者又ハ被壓迫者ニ對シテ犯ストキハ場合ヲ分チ前二者ハ間接普通殺人、後二者ハ直接普通殺人ト爲ルヘシ

甲、自殺教唆罪、自殺幫助罪(第二〇二條前段) (1) 我刑法上自殺ハ罪ニ非ス故ニ之ヲ教

唆又ハ幫助スルニ因テ成立スル本罪ハ共犯ノ部類ニ屬セサル獨立ノモノナリ (2) 然レトモ教唆及ヒ幫助ノ行爲ノ性質ハ共犯ノ場合ニ於ケルト異ル所無キカ故ニ未タ自殺ノ決意有ラサル者ヲシテ其決意ヲ起シテ實行セシムル行爲ハ自殺教

唆罪既ニ其決意有ル者ニ對シ下手殺害ヲ除ク外ノ便利ヲ與フル一切ノ行爲ハ自殺幫助罪ヲ構成ス

本罪ハ自殺者カ自殺ヲ遂ケタルトキハ既遂ト爲ル故ニ (1)自殺者カ自殺ニ着手シ障礙又ハ自止ニ因リ遂ケサルトキハ加功者ノ行爲ハ自殺教唆又ハ幫助ノ障礙未遂罪(明三七年二六九頁) (3)着手後ニ於テ加功者自ラ進ンテ之ヲ中止セシメタルトキハ中止未遂罪ナリ

乙、受託殺人罪、受諾殺人罪(第二〇二條後段) (1)囑託又ハ承諾ハ被殺者ノ爲シタル所ニ係ルコトヲ要ス、別人ノ囑託又ハ承諾ヲ經ルモ本罪ニ屬セサルハ勿論ナリ (2)囑託ハ被殺者カ下手人ニ向テ爲シタル下手殺害ノ依頼ナリ (3)囑託ハ誠實ナルコトヲ要ス其戲ニ出ツル等誠實ニ非サルトキ下手人カ誠實ナリト誤信シテ手下シタル場合ハ第三八條第二項ニ依リ第二〇二條(未遂ハ同時ニ)ノ適用ヲ生ス (4)承諾ハ下手人カ被殺者ヨリ得タル殺害ノ同意ナリ被殺者カ既ニ死ノ決意ヲ有シタルト否トヲ分タス

受託殺人ト自殺幫助トヲ比較スルニ前者ハ受託者カ手ヲ下シテ死ヲ生セシメ後者ハ幫助ヲ受クル者自身生命ヲ斷ツノ差アルモノトス○重傷ヲ悲ミ入水セン

ト欲スル者ニ頼マレ其身體ヲ河中へ押入レタル事件(大一一一年二四一頁)

丙、自殺干與罪 ハ加功者又ハ下手人カ共ニ死スル意思有リタル場合即チ同死ヲ圖リタル場合ニ於テモ成立ス(大四年四八九頁)然レトモ同死ノ本質ハ二重自殺ナリ立法論トシテハ得免ノ規定有ルヲ可トス(民國刑律第三三二條第三項參照)

第二十七章 傷害ノ罪

通則

客體 殺人罪ニ付テ述ヘタル所ニ同シ

行爲 傷害ヲ生スヘキ身體動靜ニ因リ傷害ヲ生セシメタルコト是ナリ

甲、傷害ヲ生スヘキ行爲一切ヲ含ミ (1)手段ノ積極タルト消極タルト直接タルト間接(大三年一四〇九頁)タルトヲ分ツコト無シ (2)大多數ノ事例ニ於テ用ヒラル所ハ有形ノ暴行(毆打其他力)ナリト雖モ學術語ニ所謂無形ノ暴行(精神ノ侵害)モ亦之ヲ除外スヘキ理由有ルヲ觀ス

乙、傷害トハ身體ノ機能ノ惡化ヲ謂フ (1)身體ニ機質ト機能トノ別有リ機質ヲ損壞スト雖モ其部分及ヒ其他ノ部分ノ機能ニ惡化ヲ生セサルトキハ傷害ニ非

ス、毛髮、爪端ヲ截斷シ疾病創傷ヲ伴ハサル類是ナリ(明三四年一四〇九八頁)但シ第二〇八條ノ單純暴行罪ト爲ルコト有ルヲ防ケス(二年第二號)(九八八頁) (2)機質ヲ損壞セシテ機能ヲ惡化スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ醫家、生理家ニ仍ホ定説無シ刑法ノ範圍ニ在リテハ必スシモ此問題ヲ解決スルコトヲ要セス、機能ヲ惡化シタル事實有ルニ於テハ機質ヲ損壞シタル證據ヲ舉クルコト能ハサル場合ニ於テモ亦傷害ナリ剖見上腦ノ物質ノ毀損ヲ立證スル能ハサル種類ノ精神病等此ニ屬ス(3)傷害ノ大小、輕重、可治、不治ヲ分タス (4)判例ニ於テ腫張(明三四年一七四九頁、明四〇七頁、明四) Hypon / 裂傷(明三四年一四〇九頁) 發赤(明三四年一七四九頁、明四〇七頁) 眼緣浮腫、骨膜肥厚(大四年六) 表皮ノ剝離(八一一年)ヲ傷害ト認メタルハ相當ナリ

故意 多數ノ學說及ヒ左記判例ハ本罪ハ結果犯ナルカ故ニ原因タル行爲ノ認識有ルヲ以テ足レリト爲シ結果タル傷害ノ認識有ルコトヲ以テ必要ト爲サスト解釋ス然レトモ本罪ニ限リ第三八條第一項ノ原則ヲ排ス可キ理由無シ (1)右ノ理論ヲ應用スル爲メ人ノ引證スル所ハ有形ノ暴行ナリ、左記判例亦然リ、有形ノ暴行ヲ加フル故意ハ、少數ハ確定、大多數ハ不確定ノ傷害ノ認識ヲ隨伴スルカ故ニ斯ル解釋ヲ生スルノミ (2)若シ夫レ其加フル所暴行ハ暴行ナリト雖モ、全然豫見ニ

上ラサル傷害ヲ生センカ、過失傷害ト爲ルハ格別之ヲ本罪ト爲ルト解スルハ不當ナリ、但シ例外ナルカ故ニ犯人立證ノ責任ヲ有ス (3)致死ノ場合ニ於ケル死ノ豫見ハ別論ナルコト後ニ見ユ

- 1、小僧ノ緩歩スルヲ怒リ後方ヨリ土間ニ突落シ腦震盪ヲ起サシメタル事件、但シ本件ハ致死ヲ伴ヒ、其點ニ付テノ豫見ハ之有ルヲ要セス且之有ル可ラサルコト傷害致死罪ノ部ニ述フル所ノ如シ(明四四二年)
- 2、酒興ニ乘シ侍婢ニ相撲ヲ逃ミ逃クルヲ追ヒ之ヲ抱キ上ケテ板ノ間ニ投付ケ脱臼、骨炎ヲ致生シタル事件、但シ前件同様致死(明四三三年)
- 3、暴行教唆事件(明四三三年二)
- 4、三名共同シ一名ヲ拳、棒及ヒ鉈ヲ以テ亂打亂擊致死シタル事件(大六年二)

目的人ノ錯誤ハ本罪ノ成立ヲ左右セス(明四二年二、三、七、四、六、六、一、一、五、頁) 手段ノ錯誤ニ付キ前章通則末尾課題比較

違法性 (1)一般ノ原則ノ適用有リ故ニ程度ヲ超越スルトキハ逮捕權(刑訴第一一、二、六、條、第)ヲ行使シ(八〇七頁) 又ハ懲戒權ヲ行使スル目的(明四三、八、頁)ニ出テタル場合ト雖モ本罪ノ成立ヲ妨ケス (2)承諾ハ違法性ヲ阻却スルヤ否ヤ

罪狀 傷害ニ階級ヲ設ケサル刑法ニ在リテハ未遂犯無シ然レトモ篤疾廢疾單純等ノ階級ヲ設ケ其未遂ヲ罰スル規定有ル刑法ニ在リテハ其未遂罪有リ(例民國七三條)

其一 傷害罪 第二〇四條

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタル場合ヲ加重セサルハ缺點ナリ

1. 同一ノ意思發動ニ因リ同一人ニ對シ數個ノ舉動ヲ以テ數個ノ傷害ヲ生セシムルモ一包括傷害罪ナリ(大五年一)

2. 子供ヲ脊負ヒタル者ヲ突飛ハシ子供ニ負傷セシムレハ其傷害ノ責アリ(大三年六頁七)

3. 教唆行爲ニ依リ多數人ヲ傷害スルコトヲ教唆實行シタルトキハ第五四條第一項前段ノ適用ヲ生スト雖モ多數人ヲ傷害スルコトヲ示定セサルトキハ縱令被教唆者數人ヲ傷害シ其間ニ第五五條ノ關係存スル場合ト雖モ一傷害教唆罪ナリ(大二年一)

4. 數人共謀シ一人ヲ傷害シタル場合ニハ其中ノ某カ手ヲ下シタルコトヲ明示セサルモ理由不備ノ判決ニ非ス(大二年八號)

5. 殺意ヲ以テ人ニ有毒物(硫黃ノ粉末ヲ混和シタル食物及ヒ水藥)ヲ與ヘタルモ其性質絶對ニ殺人不可能ナルニ因リ單ニ傷害ヲ生シタルニ止ルヲ以テ更ニ之ヲ絞殺シタル場合ヲ判例ハ傷害ト殺人トノ連續罪ナリト認メタルモ(大六年一)自說一包括殺人既遂

其二 傷害致死罪 第二〇五條第一項

本罪ハ故意ヲ以テ傷害(通説、暴行、(5)ニ)ヲ加ヘ豫見セスシテ死ヲ生セシムルニ因テ成立ス (1) 傷害ヲ加フル故意有ル點ニ於テ過失致死罪ト異リ死ヲ豫見セサル點ニ於テ殺人罪ト異ル (2) 傷害ニ續キテ發シタル衰弱(明四三年一) 膿毒症(大八年一五) 醫師ノ診療失當(大一年二頁) 被害者自身ノ手當失當(大一年二頁) 等中間ノ事實カ直接ノ死因タル場合 被害者カ必死ノ重病人タル場合(大三年) ト雖モ本罪ノ成立ヲ妨ケス (3) 若シ死ノ豫見有ラシカ縱令ヒ其豫見不確定ナル場合ト雖モ殺人罪ナリ本罪ニアラス (4) 大多數ノ事例ニ於テ死ニ轉歸スル傷害ヲ生ス可キ暴行ニ係ルコトヲ認識シ故意ニ之ヲ加フル者(首ヲ以テ胸部ヲ刺シ) ハ亦大多數殺意(死ノ確定又ハ不確)有ル者ナリ而モ之有ルト否トハ事實論ナルカ故ニ少數例外ノ場合ニ於テ其豫見無キコトノ反證ヲ舉クルヲ妨ケス(衝動性行爲等) (5) 死

ノ豫見無キコトヲ以テ本罪構成ノ要件ト爲スコトハ多數ノ一致スル所ナリ(少數然)但見解ノ岐ルル所ハ故意ニ暴行ヲ加ヘ無意ニ死ヲ致生スルノミヲ以テ足レリト爲スヤ暴行ノ結果タリ致死ノ原因タル中間ノ傷害ノ豫見有ルコトヲ以テ必要ト爲スヤノ點ニ存リ通則故意ノ部所掲1、2其他ノ判例並ニ多數ノ學說ハ故意ニ暴行ヲ加フルノミヲ以テ足レリト爲スト雖モ自說ハ本罪ヲ以テ傷害ヲ犯スニ因テ豫見セサル死ヲ致生スル罪ト爲シ傷害罪ハ傷害ノ豫見(少クモ不確定ノ)有ルコトヲ要スト解スルコト通則故意ノ部ニ述フル所ノ如クナルカ故ニ縱令故意ニ暴行ヲ加フルモ全然傷害ヲ豫見セスシテ死ヲ致生スルハ本罪ニ非スシテ過失致死罪ナリト信ス(背後ヨリ婦女ノ鬚ヲ截落シタルニ意外ナルヒステリ症ノ爲メ悶死シ喧嘩ノ類)雇人ヲ裸體ト爲シ屋外ニ立タシメテ凍死スルヲ致シタル場合(明三二年一頁)又ハ前示判例ニ掲ケタル場合ハ何レモ故意ニ暴行ヲ加フルノミナラス不確定ナカラ傷害ヲ豫見シタルモノナリ反對說ハ暴行ノ種類程度ニ因リ傷害ノ認識有リタルコトヲ立證スル必要無キ場合ノミヲ視テ斯ル認識有ルコトヲ必要ト爲サスト速斷シタルニハ非サルカ

1. 某行爲カ某結果ヲ發生スルノ可能ナルコトヲ常識ニ依テ認知シ得ル場合ニ其

行爲ヲ爲シタル者ハ原因ヲ與ヘタルモノナリ〇七十九才ノ祖母ヲ毆打致死セシメタル事件(大二年八頁) 評責任論ト因果論トノ混淆

2. 尊屬ニ對スル傷害致死ニ付テハ第二〇五條第二項ヲ適用スレハ足り第一項ヲ適用スルノ要ナシ(大二年一頁)

3. 人ヲ傷害シ其假死ノ状態ヲ既ニ死亡セルモノト誤信シテ水中ニ投シタル爲メ窒息死ニ至ラシメタルハ一傷害致死(大七年一頁)

4. 甲カ乙ノ急迫ナル暴行ヲ避ケンカ爲メ海中ニ飛入り其儘溺死シタルトキハ乙ハ第二〇五條第一項ニ該當ス(大八年九頁)

5. 甲カ乙ノ教唆ニ乘シ丙ニ暴行ヲ加ヘ因テ丙ヲ死ニ致シタルトキハ甲ハ傷害致死教唆ノ責アリ(大一年三七八九頁)

其三 傷害直系尊屬致死 第二〇五條第二項

直系尊屬ノ範圍殺人罪ノ例ニ同シ

其四 在現場傷害助勢罪 第二〇六條

本罪ハ着手又ハ實行ノ程度ニ在ル傷害又ハ傷害致死ノ時所ニ在リテ聲援ヲ與フルニ因テ成立ス (1) 事前ノ幫助又ハ教唆ニ對シテハ共犯ノ原則ノ適用有リ

(2) 聲援以外ノ方法ニ依ル事中ノ加功亦爾リ(大三年一五—六頁)條文ニ自ラ人ヲ傷害セスト雖モト曰ヘルハ勢ヲ助ケタル者ト曰フ措辭普通ノ用例ニ比較シ自己ノ體力ヲ以テ傷害ニ干與セサルトキハト云フ意味ニ解ス可ク自ラ人ヲ傷害シタル場合ヲ含マサルコト明ナリ (3) 喧嘩ノ彌次馬ハ本罪ノ適例ナリト雖モ此ニ限ルニ非ス過度ノ懲戒ノ現場ニ在リテ聲援ヲ與フルノ類モ亦此ニ入ル

其五 準共同傷害罪 第二〇七條

第二〇七條ニ規定シタル罪ヲ便利ノ爲メ假ニ名ケテ準共同傷害罪ト曰フ四種ノ構成要件有リ (1) 二人又ハ夫ヨリ多數ニ係ルコトヲ要ス一人ノ場合ニ本條ノ適用無シ (2) 暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタルコトヲ要ス傷害ヲ伴ハサル暴行ニ本條ノ適用無シ (3) 其傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハサルカ又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサル場合ニ限ラル故ニ若シ輕重ヲ知ルコトヲ得タル場合ニハ各自ノ生セシメタル傷害ニ付テノミ其責ニ任シ傷害ヲ生セシメタル者ト爾ラサル者トヲ分ツコトヲ得タル場合ニハ傷害ヲ生セシメタル者ノミ其責ニ任ス (4) 孰ノ場合ニ在リテモ共同者ニ非サルコトヲ要ス故ニ時所ヲ異ニシタル各別ノ暴行(明四年一三—四頁)又ハ時所ヲ同ウスト雖モ意思ノ連絡無キ暴行(大三年一五—六頁)ニシ

テ第三ノ要件ヲ備フル場合ニ限リ第二〇七條ノ適用有リ此ニ反シテ若シ共同者ノ行爲ニ係ルトキハ舊刑第三〇五條前段ノ如キ變則有ラサルカ故ニ第六〇條以下ノ共犯ノ原則ニ依リ處分ス可ク第二〇七條ヲ適用スヘキニ在ラス(明四年一四—四頁) (大四年二四—九頁) (同一年一四—二頁) (大二年二六—六頁) (同一年一四—二頁)

豫メ通謀シタル者ハ共同者ナリ第二〇七條ノ適用無シ(最後ノ一ナ)通謀無シト雖モ時所ヲ同ウシ意思ノ連絡有ル者ハ亦共同者ナリ(大七年三)第二〇七條ノ適用無シ(前示最)然リ而シテ時所ヲ同ウシナカラ双方カ少クモ一方ノ意思ノ連絡有ラサルハ極メテ少數ノ例外ナルカ故ニ時所ヲ同ウスル共毆致傷ノ大多數ノ場合ニハ第二〇七條ノ適用無シ

其六 單純暴行罪 第二〇八條第一項

親告罪ナリ(第二項)傷害罪ノ手段タル暴行ハ無形ノモノヲモ併セ含ムト雖モ本罪ノ要件タル暴行ハ止タ有形ノモノノミヲ含ム故ニ疾病創傷等身體機能ノ惡化ヲ伴ハサル有形違法ノ攻撃虐待ハ一切之ヲ含ムト雖モ罵詈訶笑侮辱誹毀ニ依リ人ヲ懊惱セシムルノ類ハ之ヲ含マス

参考 決闘ニ關スル件(明二年法第三四號)

- 1 決闘ハ當事者ノ合意ニ依リ相互ニ身體又ハ生命ヲ害スヘキ暴行ヲ以テ爲ス争鬪ナリ必スシモ生命ヲ賭スルコトヲ要セス員數ノ多少兇器ノ異同實行ノ方式如何モ亦之ヲ分ツコトナシ(明四〇年一一三八頁大二年二六四頁大五年一五八號大一年六五六頁)
 - 2 双方多數人ノ参加シタル決闘ニ於テ多數ノ相手方ヲ負傷セシメタルトキハ決闘ニ干與シ傷害ヲ加フルコトナカリシ者モ第六〇條ニ該當スル正犯ナリ(大二年六六頁)
 - 3 決闘ニ因リ死傷ヲ生スルトキハ該特別法第六條ヲ適用シテ之ヲ處斷セサルヘカラス(大二年二六七頁)
- 比較 (1) 懲兵令第三一條 (2) 船員法第七〇條第七一條 (3) 警犯令第二條二十五

第二十八章 過失傷害ノ罪

概念

非業務上ノ過失ニ因ル場合ハ結果ノ傷害タルト死タルトヲ區別シテ處分シ業務上ノ過失ニ因ル場合ハ其傷害タルト死タルトヲ區別セスシテ處分ス

警鈴ヲ鳴ラサス車ヲ除行セシメスト云フカ如キ消極行爲ト雖モ過失罪ノ成立スルコトヲ妨ケス(大二年六〇五頁)

被害者ノ方面ニ於テモ亦過失アリタリト云フ事實ハ過失加害者ノ責ヲ免ルヘキ理由ト爲ラス 電車ノ前面ヲ不注意ニ横キラントシタル事件(大三年二八二頁)

鐵道線路上ヲ歩行徘徊シテ轢殺セラレタル事件(大五年一一三頁大一年二二五頁)

過失ト間接ノ因果關係アル場合並ニ他人ノ過失カ介在シタル場合ニ付キ亦同シ○教員カ十三歳ノ生徒某ノ平素自由ニ出入スル室内ニ小銃ヲ差置キ右生徒力之ヲ弄ヒテ第三者ヲ死ニ致シタル事件(明四三年一八頁同一年一八四頁)

一ノ過失行爲ニ因リ多數ノ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一行爲數個ノ罪名ニ觸ルルモノトス 多數ヲ死ニ致シタル場合ハ第二一〇條第五四條第一項前段○小學代用女教員カ小舟ニ搭乘セシメタル女生徒十六名ノ死ヲ招致シタル事件(大二年一三三頁) 其業務上ノ過失ニ基ク場合ハ第二一一條第五四條第一項前段○渡場ノ船頭カ操縦ヲ誤リ多數ノ死者ヲ出タシタル事件(大七年六頁) 多數ヲ傷害ニ致シタルニ因リ第二〇九條第五四條第一項前段ヲ適用スルニ付テハ最重ノ刑ヲ定ムルニ必要ナル程度ニ於テ包括的ニ事實ヲ判示スレハ足り必スシモ各被害者ノ氏名創傷ヲ

列擧スルコトヲ要セス(大一九二三年)

放火ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタル場合ハ一包括放火罪(大三年八月二六日根室地裁判同)

其一 過失傷害罪 第二〇九條第一項

親告罪(第二項)〇五百圓以下ノ罰金又ハ科料

傷害ノ何タルハ前章通則行爲乙ニ述ヘタル所ニ同シ

其二 過失致死罪 第二一〇條

非親告罪〇千圓以下ノ罰金

狂者ヲ制縛監置シテ致死シタル場合ニ其程度ヲ超ヘタルコトヲ認識シタルトキハ第二二〇條第二一一條ノ適用ヲ生スルモ爾ラサレハ過失致死ト爲ルヘシ(大四年二四八頁)

其三 業務上過失致死傷罪 第二一一條

業務トハ自ラ選擇シタル社會生活上ノ關係ニ基キ反覆實施スル所ノ事務ヲ謂フ(公務(大七年三三二頁三)タルト私務タルト本業タルト兼務(大七二年六七六頁)タルト主人タルト雇人(大七年四年)タルトヲ分ツコトナシ)條文ニ所謂業務上必要ナル注意ノ程度ハ各種業務ノ性質ニ基キ法令又ハ習慣ニ照シ客觀的ニ之ヲ定ムヘキモノトス

第二一一條ニ問擬スル判文ハ過失ノ有無ヲ斷定スルニ必要ナル業務上ノ注意ヲ一般ニ指示スルカ若クハ所掲ノ事實ニ據リ業務上必要ナル注意ヲ怠リシコトヲ認定シ得ルヲ以テ足レリトス〇例(衛生試験所ノ技手カ無經驗ナル小使ヲ使役シ其危險防止ニ必要ナル注意ヲ與ヘスシテナイトグリセリ)ニ加熱摩擦ヲ爲サシメ因テ爆發負傷ヲ招ケリト説述シタル判文ハ不備ニ非ス(大三年二三七八頁) 然レトモ小學校ノ校長又ハ教員カ生徒ヲ懲戒セントシテ之ニ負傷セシメタル事實ヲ第二一一條ニ問擬セントスルニ當リ單ニ「過チテ」之ヲ傷ケタリト云フカ如キハ理由不備ノ判詞タルヲ免レス(大五年一一一八頁)

總テノ場合ヲ通シ各種ノ業務ニ關スル取締規則ヲ遵守セリト云フ事實ハ其一事ヲ以テ本罪ノ責ヲ免ルルノ理由ト爲スコトヲ得ス(大三年二九頁六)

I 汽車 左記各員關聯事件(詳(大四年一三六頁)

1 機關手 前方ノ線路内ヲ歩行スル者アルコトヲ不注意ニ因リ氣附カス(大一年三〇三頁五) 又ハ之ヲ認メナカラ列車接近セハ自ラ避難スルヲラント輕信シテ注意信號ヲ與ヘス其接近スルニ及ンテ遽ニ非常汽笛ヲ吹鳴シ制動機ニ依リテ運轉ヲ停止セントシタルモ力及ハス之ヲ死ニ致シタルトキハ第二一一條ノ責アリ(大五年)

二年三頁) 生後一年有半ノ小兒カ線路内ニ戯レ居ルコトヲ二町餘ノ前方ヨリ望見シナカラ鳴笛徐行停車等ノ處置ヲ取ラスシテ之ヲ死ニ致シタル亦同シ(大一年〇七頁) 而シテ歩行者又ハ小兒ノ保護義務者カ注意セハ避難シ得ヘカリシ事實ハ機關手ヲ免責スルノ理由ト爲ラス(大一年三〇五頁)

2. 機關手 法令ニ明文ナシトスルモ實驗上危險ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲ス義務アリ縱令操車掛ノ合圖ニ因リ機關車ノ運轉ヲ開始シタル場合ト雖モ自ラ前面ヲ注視シ危險ヲ防避スヘキ義務ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致ストキハ第二一條ノ責ヲ免レス(大一年二頁)

3. 車掌 ハ若シ停車中危險標識ヲ發見スレハ縱令驛長又ハ助役ノ發車合圖アルモ自ラ發車信號ヲ與フルコトヲ得ス若シ發車後之ヲ發見スレハ直ニ進行ヲ停止スル等ノ應急措置ヲ採ラサル可ラサル業務上ノ義務アリ故ニ其義務ヲ怠リ危險標識ヲ發見セス進行ヲ停止セサリシ爲メ汽車ノ顛覆破壊及ヒ人ノ死傷ヲ生スルヲ致セハ第一二九條第二項第二一條(第五四條第一項前段)ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス(大一年四頁)

4. 轉轍手 鐵道ノ試運轉線ニ修繕貨車ノ厥込ヲ爲サントスルトキハ轉轍手ハ單

ニ轉轍器ノ作用ノ完全ヲ計ルニ止マラス轉轍器ノ所在地點及ヒ自己ノ看視スルコトヲ得ル其附近地點ニ於テ厥込ニ因リ人命ニ危險ヲ生スルコトナキヲ確メ又ハ之ヲ豫防スルニ相當ナル注意ヲ爲シ而シテ後初メテ厥込ノ相圖ヲ爲サ、ル可ラス此注意ヲ怠リ因テ人ヲ轢死スルニ至ラシメタルトキハ第二一條ノ罪ヲ構成ス(大一年三頁)

5. 轉轍手又ハ信號手 カ業務上ノ注意ヲ怠リ因テ汽車ノ顛覆及ヒ人ノ死傷ヲ致シタルトキハ第一二九條第二項第二一條、第五四條第一項前段ニ該當ス(關大八年四月一七日九)

6. 保線助手 服務規程第一條ニ因リ線路停車場等ノ修理ニ從事シ其安全ヲ保持スル義務アリ、擔當区内工事施行ニ付テハ上官ノ指揮命令ノ有無ヲ分タス列車ノ通過ニ危險ヲ生セサル爲メ停車、除行等ノ信號ヲ爲スニ適切ナル設備ヲ爲ス義務アルニ拘ラス之ヲ怠リ(汽車ノ脱線顛覆及ヒ)人ノ死傷ヲ生スレハ第二一條ノ罪ナリ(大一年三頁)

7. 踏切番人 ハ踏切ヲ看守シ列車通行ノ際ハ所定ノ方法ニ依リテ交通ヲ遮斷シ以テ列車ノ運動及ヒ通行人ノ身體ニ對スル危險ヲ豫防スル業務上ノ義務アリ

然ルニ自身其義務ヲ履行セス 假睡中通過列車ト人力車トノ衝突ヲ惹起シ(大四年) 又ハ代務員ニ代行セシメスシテ其個所ヲ離レ自動車トノ衝突ヲ惹起シ(大八年五頁) 因テ人ノ傷害ヲ致ス如キハ共ニ第二一一條ノ責ヲ免ルルヲ得ス

II 電車

2 運轉手 ハ常ニ進路ノ前方ヲ注視シ若シ進行中ノ電車線路ヲ横斷セントスル 通行人アルコトヲ認知シタルトキハ縱令通行人自身ニ不注意ノ點アリトスル モ警鈴ヲ鳴ラシ速力ヲ緩和スル等其危険ヲ豫防スル業務上ノ義務アリ若シ此 義務ヲ怠リ横斷者アルコトヲ認知シ得ルニ拘ラス之ヲ認知セス又ハ認知シタルニ拘ラス危険ヲ豫防スルノ處置ヲ取ラス因テ人ヲ死傷ニ致ストキハ第二一一條ノ責アリ(比大三年二八頁、東地裁大四年十月十五日、大八年一五八頁)

2 前記ノ義務ヲ怠リ 前方約十一間ノ距離ニ於テ保護者ノ看視ナク一年八月ノ女兒カ大人用ノ女下駄ヲ穿チテ徘徊シ居ルニ氣附カス(大三年六頁) 運轉手カ 傍ニ立チテ運動手見習ニ操縦セシメ居ル際前方二十四五間ノ軌道左側ニ五歳ノ小兒ノ單身佇立シ居ルヲ認知シナカラ直ニ自ラ代テ操縦セス又見習ニ適宜ノ處置ヲ取ラシメス(大一年三頁、六二四頁) 因テ前者ヲ死ニ致シ後者ヲ負傷セシメタルハ

共ニ第二一一條ノ罪ナリ

III 自動車

1 教授 自動車ノ運轉手タル免狀ヲ有シ其教授ヲ爲ス者ハ即チ自動車ノ運轉ヲ 業トスルモノナルカ故ニ教授ヲ爲ス際ニ非サル場合ト雖モ自ラ自動車ヲ運轉 スルニ當リ必要ナル注意ヲ缺キ人ヲ死傷ニ致ストキハ第二一一條ニ該當ス(大一年三頁)

2 非本業、無免許 各人カ社會生活上ノ關係ニ基キ繼續シテ行フ事務ハ即チ業務ニ外ナラサルヲ以テ例ヘハ 雜貨ノ輸出入ヲ本業トシ免許ヲ受ケ自ラ自動車ヲ運轉シテ貨物ヲ輸送スル者(大二年六頁、六七六頁) 免許ヲ受ケスシテ他人ノ自家用自動車ノ運轉ニ繼續從事スル者(大三年二六四頁) ト雖モ其必要ナル注意ヲ缺キテ人ヲ死傷ニ致セハ第二一一條ノ適用ヲ生ス

3 運轉手 運轉開始前諸機械ヲ精査シ故障ヲ豫防スヘキ業務上ノ注意ヲ怠リ運轉中車體ノ顛覆墜落、人ノ死及ヒ傷ヲ生スルヲ致シタル者(大一年四頁、四五一頁) 荷車ト擦違ヲ爲サントスルトキ狹隘ナル道路上ニ於テ高速力ヲ繼續シ因テ荷車ヲ撥飛ハシ車夫ヲ負傷セシメタル者(大一年九一頁) 停留シテ客ノ降下スル電車ノ側面ヲ

通過スルニ當リ一時自動車モ亦停留スルカ少クモ徐行スルノ注意ヲ缺キ電車ノ後方ヨリ降下横斷セントスル者ヲ負傷セシメタル者(大七一年) 自動車ノ疾走中前方ニ在ル一團ノ小兒ノ一部カ横斷シタルニ因リ爾餘ノ者モ亦同様ノ舉動ニ出ツルコトアルヲ豫見シ得ヘキ場合ニ其儘速力ヲ繼續シ續テ横斷セントスル小兒ヲ死傷シタル者(大六三年) ハ何レモ第二一一條ノ責ヲ免ルル能ハス

IV 雜

1 伸仕見習カ漫ニ倉入作業ヲ取急キ鹽素酸曹達ヲ詰メタル樽ヲ肩ヨリ倉庫ノ床上ニ落トシナカラ發火ノ有無ヲ檢セスシテ立去リタルハ業務上ノ過失ナリ(大一年七號二八)

2 電氣會社ノ職工カ電燈需要者ノ依頼ニ應シ漏電ノ個所ヲ調査スルニ當リ必要ナル注意ヲ怠リ漏電ノ爲メ人ヲ死ニ致シタルトキハ第二一一條ニ該當ス(名院大五月)

3 遞信局ノ書記カ命令ニ因リ保險及ヒ貯金宣傳ノ爲メ活動寫真ノ映寫ヲ爲ス際火ヲ點シタル臘燭ヲフィルムノ傍ニ差置キタルママ機械ノ點檢及ヒ油差ヲ爲シ居ル間ニ其火フィルムニ燃移リ火災ハ大事ニ至ラサリシモ混雜ノ爲メ來觀

中十九名ノ窒息死者及ヒ二十名ノ重輕傷者ヲ出クシタルハ第二一一條ノ罪ナリ(大九一年)

4 狩獵免許者カ藥莢ノ取扱ヲ過リ人ニ火傷ヲ負ハシタル場合ニ於テ其狩獵行爲カ業務ナリシヤ否ヤノ點ハ狩獵法ニ關係ナキ純然タル事實問題ナリ(大八三年一〇八三頁)

5 荷馬車挽業者カ止タ掛ケ聲ヲ爲シタルノミニテ路傍ニ遊ヒ居ル二才ノ女兒ヲ車ニ觸レ死ニ至ラシメタルハ第二一一條ノ罪ナリ(大九四年一五九頁)

第二十九章 墮胎ノ罪

通則

主體 妊婦又ハ別人(種類ノ比較)

客體 (1) 罪ノ客體ハ懷胎ノ自然ノ經過 (2) 行爲ノ客體ハ胎果(胚胎ト胎兒トヲ合セテ謂フ以下倣之)其生育狀態ヲ有スルコトヲ以テ要件ト爲サス

行爲 二種有リ

第一種 自然ノ分娩期ニ先チ人工ヲ以テ胎果ヲ母體外ニ分離スルコト是ナリ(1) 分離後ニ在リテ其生活スルト死亡スルトヲ分タス(明四四年一四二〇頁) (2) 分離前胎内ニ在リテ生育狀態ヲ有セシヤ否ヤヲ論スルノ要無シ本罪ハ胎果ノ生育ヨ

リモ寧ろ懷胎ノ自然ノ經過ヲ重視スヘキ善良ノ風俗ヲ保障スト解スル所以ナリ
第二種 母體內ニ於テ胎果ヲ毀損スルコト是ナリ正則ノ胎果ナルト鬼胎ナルト生兒タルト死兒タルトヲ區別スルコト無シ

故意 (1) 第一種ノ墮胎ニ付テハ自然ノ分娩期ニ先チ胎果カ母體外ニ分離セラ
ルルノ豫見有ルヲ以テ足ル流産死産ヲ招ク目的ニ出ツルト生兒ヲ獲ル目的ニ出
ツルトヲ分ツコトナシ (2) 第二種ノ墮胎ハ母體內ニ在リテ胎果ヲ毀損スルノ豫
見有ルヲ以テ足ル此場合ハ通常流産又ハ死産ヲ招ク目的ニ出ツト雖モ法律上ノ
要件ニ非ス

違法性 (1) 妊婦ノ疾病畸形其他ノ事由ニ基キ必要上醫師ノ施ス流産早産又ハ
胎果ノ損壞ハ正當ノ業務ニ屬スル權利行爲ナリ (2) 醫師ニ非サル者ノ行爲ト雖
モ緊急状態ニ在ルトキハ罪ト爲ラス但之ヲ口實ト爲スニ過キサル違法行爲ノ罪
ト爲ルハ辯スル迄モナシ

罪狀

其一 未遂既遂

(1) 胎果ヲ母體外ニ分離スル場合ハ其分離セラレタルトキ既遂ト爲リ之カ生死

ヲ區別スルコトナシ (2) 之ト異リ胎果ヲ母體內ニ於テ毀損スル場合ハ其體外ニ
出ツルヲ待タス既遂ト爲ルト解スルヲ相當トス

其二 併合罪關係

醫師カ妊婦ノ囑託ヲ納レ數次ノ手術ヲ施シテ初メテ墮胎ヲ實現シタル場合ハ
數罪ニ非スシテ第二一四條前段ニ該當スル一罪ナリ(大一年四三頁)

其三 共犯關係

1. 妊婦ノ囑託ヲ受ケ之ヲシテ墮胎セシメタルトキ囑託者ト實行者トハ共犯關係
ヲ有ス(大六年二二頁) ○妊婦カ他ノ數人共謀シテ相與ニ墮胎ヲ遂ケタル事實ハ數人
共同シテ同一ノ法益ヲ侵害シタル共犯ニ屬シ第六〇條ニ據リ婦女ハ第二一二
條ニ他人ハ第二一三條前段ニ該當ス

2. 妊婦甲墮胎ノ決意ヲ爲シ乙ニ施術ノ周旋ヲ依頼シタルニ乙之ヲ納レ丙ヲシテ
丁ヲ教唆セシメ丁ノ施術ニ依リ甲ノ墮胎ヲ遂ケタル場合ニ於テ乙ノ行爲ハ一
面施術者丁ニ對スル教唆ノ教唆タリ一面被施術者甲ニ對スル墮胎幫助タルカ
故ニ二個ノ罪名ニ觸ル(大六年一五七六頁) 評左例ヲ可トス

3. 甲カ妊婦乙ニ墮胎ノ決意ヲ爲サシメ丙ヲシテ乙ヲ丁ノ住宅ニ案内セシメ丁ノ

施術ヲ遂行セシメタルトキハ甲ノ行爲ハ墮胎ノ教唆ト幫助トニ該當シ(大一年七一頁)○又妊婦ニ墮胎ノ決意ヲ爲サシムルト同時ニ醫師ニ囑託教唆シテ施術ヲ遂行セシメタルトキハ二個ノ教唆ニ該當ス(大九年三八四頁)○ト雖モ共ニ一個ノ墮胎ヲ實行セシメタルモノニ過キサレハ包括的ニ之ヲ觀察シ一ノ重キニ從テ處斷スヘキモノトス而シテ醫者ニ非サル甲ハ第六五條第二項ニ據リ第二一三條前段ヲ適用スヘキナリ

4. 妊婦ノ囑託ヲ受ケ墮胎手段ヲ施シタルニ急ニ妊婦ノ身體ニ異狀ヲ來シ之カ生命ヲ救フ爲メ醫術ニ依リ胎兒ヲ排出スルノ必要ヲ生シタルニ乘シ醫師ヲシテ其排出ヲ遂行セシメタル者ハ醫師ノ正當業務行爲非犯罪行爲ヲ介在セシメテ犯シタル間接墮胎正犯ナリ(大一年二六一頁)

種類

- 第一種 懷胎ノ婦女自ラ墮胎スル罪 第二一二條
- 第二種 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ他人ノ墮胎セシムル者 第二一三條前段
- 第三種 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ醫師產婆藥劑師又ハ藥種商ノ墮胎セシムル罪 第二一四條前段

胎セシムル罪 第二一四條前段

第四種 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得シテ墮胎セシムル罪 第二一五條

五條

本罪ハ (1) 犯人カ醫師產婆藥劑師又ハ藥種商ニ係ルト此ノ如キ身分ヲ有セサル者ニ係ルトヲ區別セス (2) 未遂モ亦罪ト爲ル(同項第)

第五種 墮胎ニ因テ婦女ヲ死傷ニ致ス罪 第二一三條未段第二一四條未段第二一六條

此場合ハ墮胎ノ既遂タルト未遂タルトヲ分ツコトナシ故ニ例ヘハ藥物ノ用法ヲ誤リ婦女ヲ死ニ致シ胎兒ハ救助セラレタル場合ト雖モ前掲ノ特別處分ヲ免ルルコトヲ得ス

課題

- 1. 懷胎ノ婦女ナルコトヲ知テ毆打其他ノ暴行ヲ加ヘ因テ墮胎スルニ至ラシメタル者ノ處分如何
- 2. 婦女ノ性質ニ因リ煩悶ノ爲メ或ハ流産スルヤノ疑ヲ抱キナカラ之ヲ冷遇シ遂ニ流産セシメタル者ノ處分如何

第三十章 遺棄ノ罪

第二一八條第一項所定ノ罪ヲ遺棄罪、同第二項所定ノ罪ヲ遺棄尊屬罪、第二一七條所定ノ罪ヲ單純遺棄罪ト名ク此順序ヲ以テ説明セントス

其一 遺棄罪 第二一八條第一項

正條 老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任有ル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキ云

主體 第二一八條ニ所謂保護ス可キ責任有ル者はナリ法令、契約又ハ事務管理

ニ因リ此ノ如キ責任ヲ負フ者ヲ包含ス (1) 保護ハ生存ニ必要ナル保護ノ意味ナルコト行爲ノ部ニ説明スル所ノ如シ (2) 其法律ニ因ル者ハ民第七四七條、第七九

〇條ノ扶養義務、同第八七九條、第九二一條、感化法第八條、精神病者監護法第一條ノ

監護義務等ニ其例有リ比判例1 (3) 命令ニ因ル者ニ付テハ工場ニ於ケル負傷者

其他取締方(明三二年内)等參考 (4) 契約ノ明示又ハ暗示スル所ニ因ル者ハ運送(車)

養育(里)治療(院)雇傭(病)等ノ契約ニ於テ其例ニ乏シカラス (5) 世俗ノ所謂貫子ニ

シテ未タ養子ノ手續ヲ了セサル者ニ對シテハ契約ノ本旨ニ因リ此責任有リ、比判

例2 (大五年一三五頁此場合ニ付キ其) (6) 雇主カ雇人ニ對シ此責任ヲ有スルヤ否ヤ

ハ議論岐ル、自說多數ノ場合ニ於テ同シク契約ノ本旨ニ因リ此責任有リト信ス、比

判例3 (7) 事務管理ニ因ル者トハ例ヘハ行路病人ヲ收容シ又ハ捨子ヲ拾上ケ、自

ラ進ンテ其保護ニ任シタル者ノ類ヲ謂フ之ヲ遺棄シテ遺棄罪ヲ構成スルコトニ

付テハ疑無シ止タ意見ノ岐ルル所ハ第二一八條第一項ニ觸ルルヤ第二一七條(純

遺棄)ニ觸ルルヤノ一點ニ在リ 自說第二一八條第一項

1 民第九五五條列記ノ各扶養義務者數人アルトキ扶養義務履行ノ先順位ニ在ル

者之ヲ履行セサルトキハ後順位ニ在ル者ニ於テ保護スヘキ義務アリ之ニ背キ

テ遺棄又ハ保護セサル行爲アレハ第二一八條ノ適用ヲ生ス(大七年二三七頁)

2 第二一八條ニ所謂保護スヘキ責任アル者ノ中ニハ契約ノ本旨ニ因リ斯ル責任

アル者ヲモ之ヲ包含ス他人ヨリ幼兒ヲ貰受ケテ之ヲ養子ト爲シタル者ハ未タ

養子縁組ニ關スル法律上ノ手續ヲ履行セサル前ト雖モ該契約ノ本旨ニ因リ幼

兒保護ノ責任アリ(大五年一)

3 雇主ト雇人トノ間ニ一般ノ慣例又ハ當事間ノ默契ニ因リ疾病ニ罹レル際雇人

ヲ保護スヘキ責任アル雇主カ其責任ヲ免レンカ爲メ疾病ニ罰レル雇人ヲ突然